

公益社団法人日本地球惑星科学連合 平成 25 年度 第 6 回理事会

開催日時 平成 26 年 2 月 1 日（土）
午後 13 時 00 分から午後 16 時 00 分

開催場所 東京大学理学部 1 号館 8 階 843 号室
(東京都文京区本郷 7-3-1)

平成 25 年度第 6 回理事会次第

1. 開 会

2. 報告事項

1. 2014 年横浜大会準備関連報告
2. 役員候補者推薦委員会報告
3. ジャーナル関連報告
4. 25 周年事業関連報告
5. 夢ロードマップ関連報告
6. 委員会報告
 - ・ 総務委員会 共催・協賛・講演の承認について
 - ・ フェロー審査委員会
 - ・ 男女共同参画委員会
7. 褒賞制度について
8. その他

3. 審 議 事 項

- 第 1 号議案 会員（正会員）入会承認の件
- 第 2 号議案 2014 年横浜大会 NASA 招致に関わる旅費交付の件
- 第 3 号議案 国際対応方針の件 (AOGS との MOU について)
- 第 4 号議案 特定費用準備資金「日本地球惑星科学連合大会行事開催資金」の積立限度額の算定方法変更（使用目的変更）について
- 第 5 号議案 平成 25 年予算報告書および平成 26 年度予算書作成について
- 第 6 号議案 平成 25 年事業報告書および平成 26 年度事業計画作成について
- 第 7 号議案 地学オリンピック 「日本地球惑星科学連合賞」設立について
- 第 8 号議案 代議員選挙 選挙方法（投票数）について
- 第 9 号議案 その他

4. 閉 会

(資 料)

報告事項

1.	2014 横浜大会準備関連報告	P. 1
2.	役員候補者推薦委員会報告	P. 9
3.	ジャーナル関連報告	P. 10
4.	25 周年事業関連報告		
	・ 記念式典祝辞依頼	P. 16
	・ パンフレット制作状況	別添
5.	夢ロードマップ関連報告	P. 21
6.	委員会報告		
	・ 総務委員会 共催・協賛・講演の承認について	P. 24
	・ フェロー審査委員会	P. 25
	・ 男女共同参画委員会	別添
7.	褒賞制度について	P. 27
8.	その他 他国際学会への視察について	P. 31
9.			

審議事項

第 1 号議案	会員（正会員）入会承認の件	P. 33
第 2 号議案	2014 横浜大会 NASA 招致旅費交付の件	P. 35
第 3 号議案	国際対応方針の件（AOGS との MOU について）	P. 38
第 4 号議案	特定費用準備資金「日本地球惑星科学連合大会行事開催資金」 の積立限度額の算定方法変更（使用目的変更）について	P. 39
第 5 号議案	平成 25 年予算報告書および平成 26 年度予算書作成について	別添
第 6 号議案	平成 25 年事業報告書および平成 26 年度事業計画作成について	別添
第 7 号議案	地学オリンピック「日本地球惑星科学連合賞」設立について	P. 40
第 8 号議案	代議員選挙 選挙方法（投票数）について	P. 41

■ 2014年大会 投稿状況速報

※1月29日現在

2014年大会					
週目	投稿日	口頭	ポスター	計	累計
1	1/8-1/14	25	12	37	37
2	1/15-1/21	37	22	59	96
3	1/22-1/28	116	49	165	261
4	1/29-2/4	40	11	51	312
5	2/5-2/11	-	-	-	
6	2/12-2/18	-	-	-	
投稿数		218	94	312	
コンビーナによる採択(3月)					
2014年					

2013年大会					
投稿日	口頭	ポスター	計	累計	
1/10-1/16	21	12	33	33	
1/17-1/23	39	14	53	86	
1/24-1/30	176	59	235	321	
1/31-2/6	958	371	1,329	1,650	
2/7-2/13	327	149	476	2,126	
2/14-2/18	1,169	619	1,788	3,914	
投稿数		2,690	1,224	3,914	
コンビーナによる採択(3月)					
(高校生セッション)	0	67	67)		
2013実績		2,226	1,754	3,980	

2014年大会 準備状況報告

■大会までの日程

- 2月12日(水) 投稿最終締め切り
- 3月4日(火) 大会セッションコマ割確定
- 3月5日(水) 大会セッションコマ割公開
- 3月上旬 会合申し込み受付開始
アルバイト募集開始
- 3月17日 投稿採否, 発表日時通知(投稿者・著者・発表者, 座長)
- 3月18日(火) プログラムWEB公開(PDF無)
- 4月16日(火) 事前参加登録・懇親会(船上)申込 17:00 JST 締切
- 4月18日(金) 予稿原稿公開
- 4月28日(月)~5月2日(金) 2014年連合大会

■セッションコマタイムテーブル

【AM1】09:00-10:45

【AM2】11:00-12:45

【昼休】12:45-14:15

【PM1】14:15-16:00

【PM2】16:15-18:00

【ポスターコアタイム】 14:00~15:15 または 18:15-19:30

■当日の主な日程

4月27日(日)

朝(予定)事務局移動

4月27日(夜)

受付、LAN設営

出展者搬入(一部設営)

事前受付

4月28日(月)

07:30 アルバイト出勤開始

08:00-11:00 出展者設営

08:00-17:00 大会受付 (17:00以降事務局対応)

4月29日(火・祝)

パブリックセッション

- O-01 島山 正恒 防災教育－災害を乗り越えるために私達が子ども達に教えること 3
- O-02 宮嶋 敏 次期学習指導要領における高校地学教育のあり方
- O-03 原 辰彦 地球・惑星科学トップセミナー
- O-04 原 辰彦 高校生によるポスター発表
- O-05 若狭 幸 地球惑星科学系研究者のワークライフバランスとキャリア形成
- O-07 原 辰彦 Special NASA Lecture

4月30日(水)

- O-06 渡辺 真人 日本のジオパーク

5月1日(木)

- 13:00-14:00 学協会長会議
- 16:15-17:15 社員総会
- 17:15-18:05 25周年記念式典
- 19:15-22:00 懇親会(クルージング)

5月2日(金)

- 14:30-16:30 出展者撤去
- 17:00-19:00 受付撤収
- セッションPM (16:00)で終了

プレミアムブックマーケット 4月29日(火)10時～5月1日(木)18時
 場所 3F ポスター会場

■参加登録費

参考 2013年大会料金

	事前	当日
一般全日	¥16,000	¥22,000
一般一日	¥10,000	¥15,000
学生全日	¥8,000	¥12,000
学生一日	¥5,000	¥8,000
一般全日(非会員)	¥24,000	¥27,000
一般一日(非会員)	¥20,000	¥22,000
学生全日(非会員)	¥15,000	¥17,000
学生一日(非会員)	¥12,000	¥15,000

事前	当日
¥11,000	¥13,000
¥6,000	¥7,000
¥5,500	¥7,000
¥3,000	¥4,000
¥18,000	¥20,000
¥12,000	¥13,000
¥11,500	¥13,000
¥8,000	¥10,000

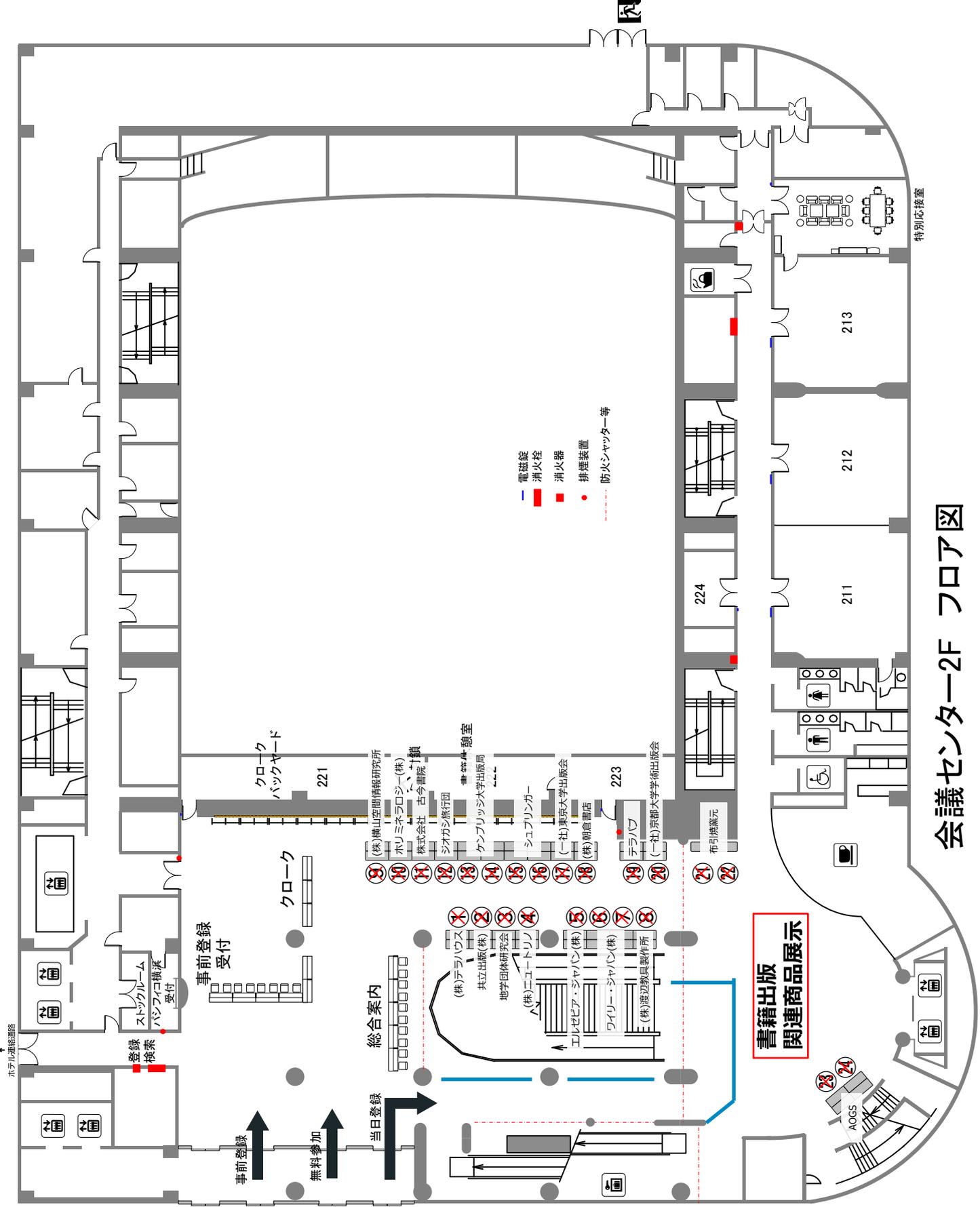
2014 年大会 展示募集状況

■2014 年 募集状況（1 月 29 日現在）

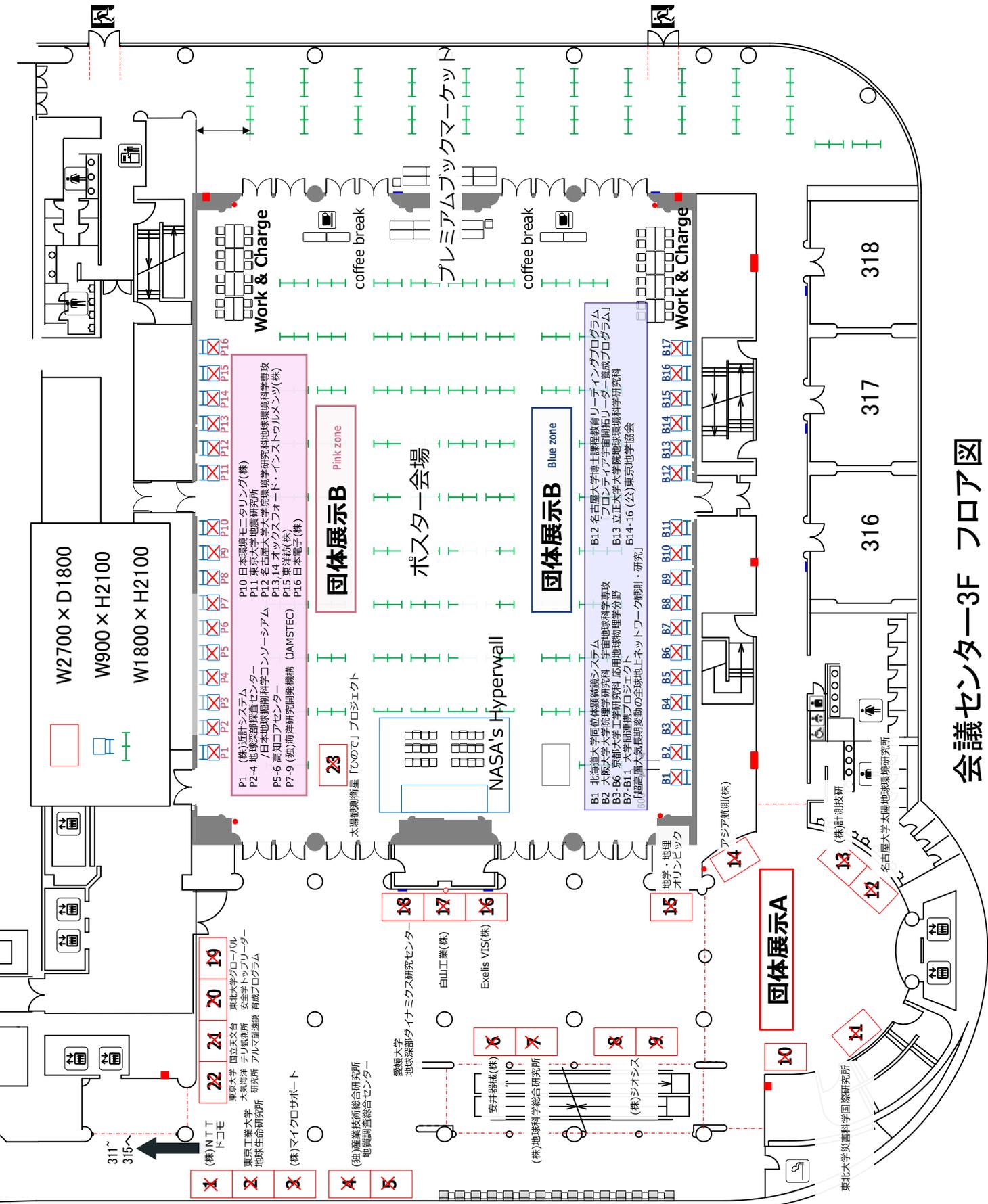
	申込企業数	ブース数	募集数	会場内	(前年カテゴリー)
展示A(大)	23	27	22 ブース	3F ポスター会場前	
展示B(小)	22	43	31 ブース	3F ポスター会場内	(団体展示、大学インフォメーションパネル、パンフレットデスク A)
書籍出版・関連商品展示	19	22	24 ブース	2F ホール	
学協会個別デスク展示	8	9	10 ブース	5F ホワイエ	
パンフレット展示	1	1		会場内	(パンフレットデスク B)
合計	73	102			

■参考：（ブース数）

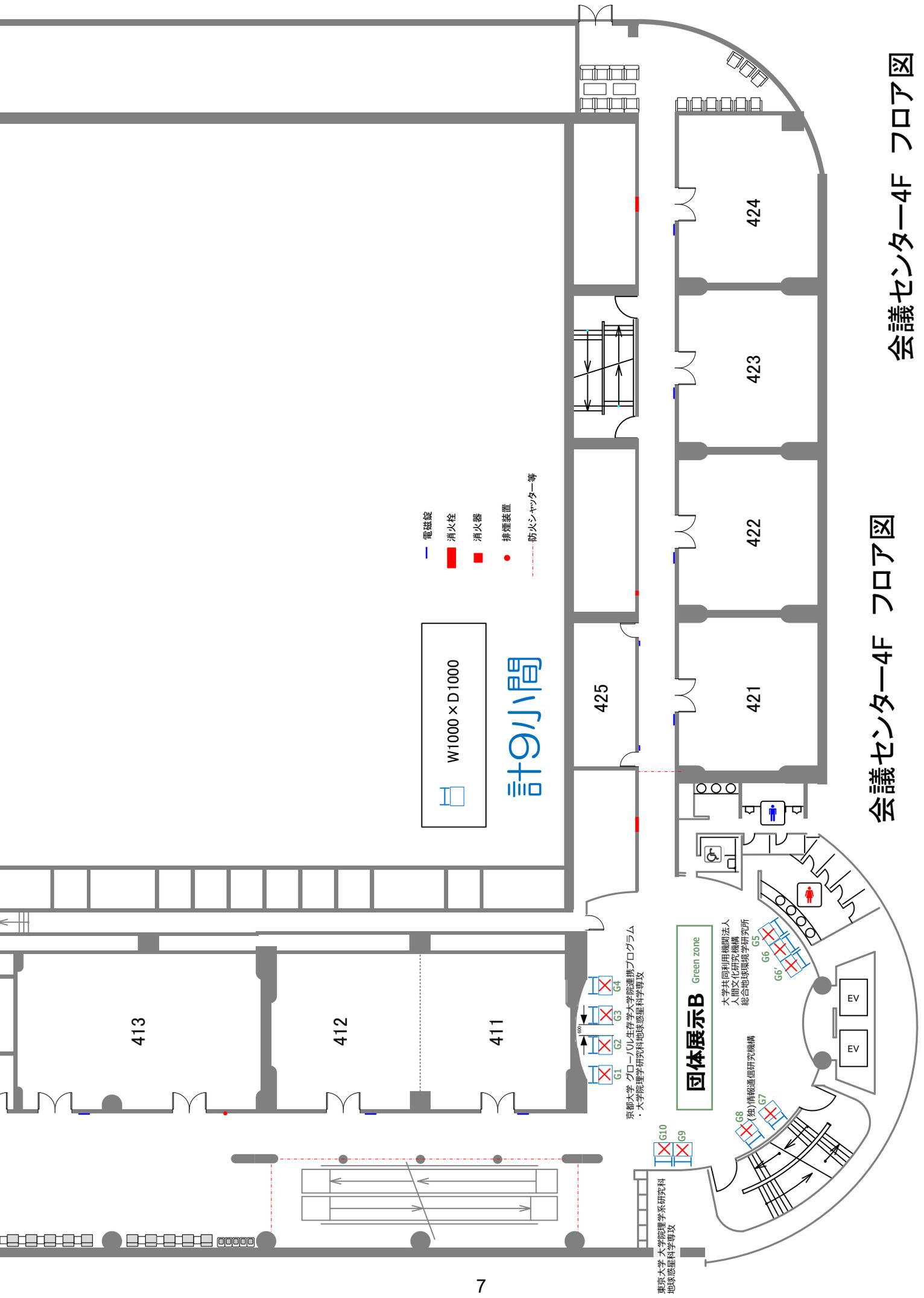
	2013 年	2012 年	2011 年	2010 年
団体展示	63	43	44	48
大学インフォメーションパネル	11	13	11	10
書籍出版（関連商品）	25	29	26	26
パンフレットデスク	10	8	11	9
学協会エリア 個別デスク	9	10	10	12
合計	118	103	102	105



会議センター2F フロア図



会議センター3F フloor図



- 電磁錠
- 消火栓
- 消火器
- 排煙装置
- 防火シャッター等

W1000 x D1000

計9小間

会議センター4F フロア図

会議センター4F フロア図

京都大学 グローバル生存学大学院連携プログラム
・大学院理学研究科地球惑星科学専攻

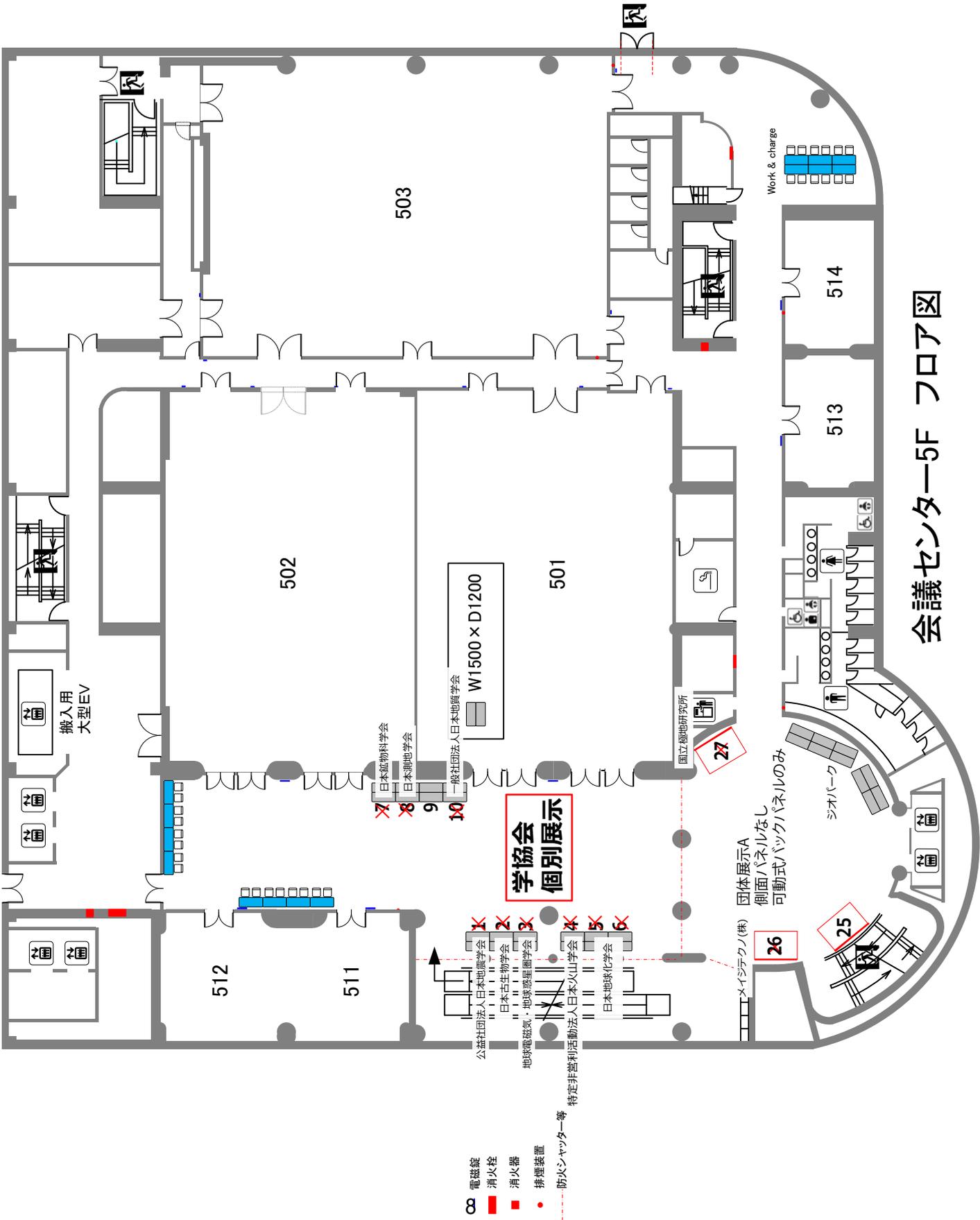
東京大学 大学院理学系研究科
地球惑星科学専攻

団体展示B Green zone

大学共同利用機関法人
人間文化研究機構
総合地球環境学研究所

情報通信研究機構
(独)

会議センター5F フloor図



- ⊙ 電磁波
- 消火栓
- 消火器
- 排煙装置
- - - 防火シャッター等

**学協会
個別展示**

公益社団法人日本地震学会
日本生物学会
地球電磁気・地球惑星圏学会
特定非営利活動法人日本火山学会
日本地球化学会

日本鉱物科学会
日本測地学会
9
10
一般社団法人日本地質学会
W1500 × D1200

25
26
27
メインテクノ(株)
団体展示A
側面パネルなし
可動式バックパネルのみ
シオパーク

搬入用
大型EV

Work & charge

503

502

501

514

513

512

511

■ 報告事項 役員候補者推薦委員会

平成 25 年度 役員候補者推薦委員会 名簿

会	長	津田敏隆		
副	会	長	川幡穂高	
	〃		木村学	
	〃		中村正人	
理	事	畠山正恒		
宇宙惑星科学セクション	プレジデント	大村善治		
大気水圏科学セクション	プレジデント	中島映至		
地球人間圏科学セクション	プレジデント	氷見山幸夫		
固体地球科学セクション	プレジデント	大谷栄治		
地球生命科学セクション	プレジデント	北里洋		

役員候補者推薦委員会会議 会議報告

日時 : 平成 26 年 1 月 30 日 (木) 16 : 30 ~

場所 : 東京大学理学部 1 号館 8 階 843 号室
(東京都文京区本郷 7-3-1)

出席者 :

会	長	津田敏隆		
副	会	長	川幡穂高	
	〃		木村学	
	〃		中村正人	
理	事	畠山正恒		
宇宙惑星科学セクション	プレジデント	大村善治		
固体地球科学セクション	プレジデント	大谷栄治	(WEB 会議システム)	
地球生命科学セクション	プレジデント	北里洋		

平成 25 年度ジャーナル編集長会議事録（第 8 回）

公益社団法人日本地球惑星科学連合

1. 開催日時 平成 25 年 12 月 26 日（木）

午後 16 時 00 分から 18 時 30 分

2. 開催場所 WTC コンファレンスセンター 3 階 RoomG

（東京都港区浜松町 2-4-1 世界貿易センタービル）

3. 議長 編集長 川幡穂高

4. 出席委員

総編集委員長 井龍康文

編集長 小原一成、倉本 圭、多田 隆治

事務局 浅田智世、長谷川みどり

5. 議事

(1) SPEPS (Special call for Excellent Papers on hot topics) について

川幡議長より、事実上の特集号について要望が 3 件あり検討が必要な旨説明があった。質を落とさないための対策として通常通りの厳しい査読をするとともに、事前に Q&A で 30% をリジェクトする、Guest editor 制度は作らず associated editor をつけ最終的な受理権限は PEPS 編集長が持つ等の意見があった。また、発刊までに時間がかかる問題に対しては、特別な Box を準備し deadline を決める等の意見が出た。

特集号は特別セッション等の枠組みで申請、企画持ち込みは編集委員会の承認を得るとともに、Call For Papers を HP 等で呼びかけて投稿をオープンにするシステムにする。

また、review 含有率は PEPS 申請通り 20% 以上とし、投稿料の 100% ディスカウントは特集号に対して 6 本程度とする、これらは次回の企画経営委員会で採択する。

(2) 投稿状況の件

12/26 現在で 12 本の投稿があったが、投稿者が論文発表数 100 以上と 3 本以下の 2 極分化しており、この情報を編集長にどのように渡すか要検討。また、編集に依頼するまでもないレベルの低い投稿の Reject 方法として、編集長名で Reject Letter を出す。井龍編集長が原案を作成する。

また、ACP の誤りが多い (9/12) ので、ニュースで PEPS の HP を案内するなどして周知する。

(3) 投稿促進取り組みの件

①JpGU2014 連合大会ジャーナル特別セッション (30 本目標)、 ②連合大会後のジャーナル国際シンポジウム③セッション・プレジデント推薦 (3-5 本/セッション)

Accept された論文の推薦者は公表する方向。また、主旨を徹底し、推薦該当者なしも可とするが、投稿締切は、セッション・シンポジウム・推薦後 3 か月以内を原則とする。

(4) ハンドリングエディター選定の件

編集長がハンドリングエディター選定の手掛かりとして、Editor, Reviewr の専門分野のキーワードを集めた検索データを投稿情報などの共有ファイルとともに、google のシステム上に準備する。また、SpringerOpen 上の HP に検索テンプレートを埋め込めないか Springer 社に依頼する。

(5) 巻頭言

年始の巻頭言は出さず、論文 5 本ほど揃ったところで巻頭言をつけて発刊
(佐々木先生、Mysen, 中村、氏家、唐戸)

(6) 引用促進の件

PEPS 上だけではなく、AOGS 等への広告や連合大会に連動した発表補足する大会アプリを準備中。

(7) 編集委員会全体会議の件

第 1 回は 1/25 開催、懇親会費国際会議は 5 千円まで、国内委員のみは 4 千円までとする。
第 2 回編集委員会全体会議は 4/26 (土) 10 : 00-15 : 00 とする。

(8) その他

Springer 社の Copyedit の確認 (長谷川さんから井龍先生へ資料を渡す)

今年度の投稿論文の英文校正は本数が少ないので、業者との契約ではなく 1 本毎に校正依頼することとする。

以上

第4回平成25年度ジャーナル企画経営委員会議事録（案）

公益社団法人日本地球惑星科学連合

1. 開催日時 平成26年1月25日（土）
午前10時00分から10時20分
2. 開催場所 TPK品川カンファレンスセンター コンファレンス・ルーム4C
（東京都港区高輪3-26-33 京急第10ビル）
3. 議長 委員長 川幡穂高
4. 出席委員
委員長 川幡穂高
委員 津田敏隆、木村 学、中村正人、井龍康文、小原一成、多田隆治
佐藤正樹、松本淳、小田啓邦
事務局 浅田智世
5. 議事
 - (1) 会計報告
1月現在のH25年度予算の現状と予定について説明があり、見込残額を発刊遅れを理由に繰越す（科研費的には可能）か今期内に予算消化するか、繰越の際の連合会計上の問題点も確認して検討する事とする。
 - (2) ジャーナル special Session についての報告
委員長と事務局より2013ジャーナル特別セッションの結果と会計報告があった。
津田先生提案のCAWSES-II Symposiumからは、5件の投稿を予定しており、3月中旬に摺合せ後、4～5月投稿との報告。氷見山先生提案のSCJ Symposiumからの投稿は松本先生がフォローする。また、投稿がない場合の返金について、委員長より現在は考えていないが何らかのペナルティを考えたい旨説明があった。
2013, 2014年については、申請事項の議論に際しては、出版促進の「性善説」にたち経費の支出を行う。投稿時期の目安は、シンポジウムなど開催から3ヶ月としているので、2014年度中には旅費援助そして投稿の現状などについてデータが集まるので、それを見て、その後の運営を厳しくすることも検討するとの発言が委員長よりあった。

(3) 2014JpGU 連合大会ジャーナル国際特別セッション

委員長から採択結果の報告と、投稿テーマの事前提出により、投稿確約の仕組みについて説明があった。

(4) ジャーナル special Symposium 2014 年度募集について

2014 年度もジャーナル Special Symposium の募集・実施を行う。
すでに、数件の要望あり。

(5) JpGU サイエンス・セクションプレジデント推薦

JpGU サイエンス・セクションプレジデント推薦についてもジャーナルセッション及びシンポジウムと類似した形式で、2014 年は運用することとなった。

(6) Special PEPS の開始

特集号の要望が多いが、従来の雑誌が行っていたような「特集号」を組むことはしない。但し、次の要領で Special PEPS を開始することとなった。品質を確保するため、20% 程度の Overview を含む、Call for Paper とし原稿を募集する（内輪だけの特集号にしない）等の条件を盛り込むこととなった。

(7) ジャーナル担当事務員給与改定

本件については、公益社団法人の運用に関する法律の規制があるので、年度途中での契約改定は難しいとの結論に至った、来年度の契約時に契約内容を変更して、実施すべく、準備することとなった。

The 1st Editorial committee meeting of PEPS (Progress in Earth and Planetary Science) at Tokyo

Date: 25th of January, 2014

Time: 10H30–15H00

Venue: TKP Shinagawa Conference Center , Conference Room 4C

(<http://tkpshinagawa.net/access.shtml>)

Attended by

Editorial board members (Overseas and Japanese members, see an attached sheet)

President, vice-Presidents of JpGU (Japan Geoscience Union)

Agenda

10H30–10H35 Welcome and address (JpGU president, TSUDA, Toshitaka)

10H35–10H45 Introductions (Attendances)

10H45–10H55 Current status of JpGU (JpGU vice-president, KAWAHATA, Hodaka)

10H55–11H15 Framework of PEPS publication (JpGU vice-president, KAWAHATA, Hodaka)

Basic information about PEPS (the state of situation around the international journals published in Japan, Aims and Scope of PEPS, Review articles promotion by PEPS, Two committees for the operation, Q and A)

11H15–11H40 Editorial policy and the related subjects (General chief editor, IRYU, Yasufumi)

11H40–12H10 SpringerOpen journal (Springer Japan, YONEZAWA, Takeyuki)

LUNCH BREAK (Including the experience of SPRINGER editorial system)

13H40–14H00 Peer review system (Springer Japan, YONEZAWA, Takeyuki)
Guideline for Editors

14H00–14H10 Current editorial status of papers on Springer-Open (General chief editor, Prof. IRYU, Yasufumi)

14H10–14H50 Discussion on the strategy of the promotion of PEPS (General chief editor, Prof. IRYU, Yasufumi)

14H50–15H00 Other issues (Next editorial meeting)

15h00–16H30 PARTY (Conference Room 4B)

25周年記念事業関連報告

■2014年大会 5月1日(木) タイムテーブル

場所：1階メインホール

学協会長会議・記念式典(フェロー表彰式)・社員総会

時間割	公式行事
09:00-10:45 AM1	
11:00-12:45 AM2	
12:45-14:15 昼休み	13:00-14:00 学協会長会議 60分
14:15-16:00 PM1	
	(PM1 休憩)
16:15-18:00 PM2	16:15-17:15 社員総会 60分
	17:15-18:05 25周年記念式典 50分
18:15-19:30 Poster	(ポスターコアタイム)
	19:15-19:45 乗船
	19:45-21:30 懇親会クルージング
	21:30-22:00 下船・解散



日本学術会議会長
大西 隆 様

平成 26 年 1 月〇〇日

日本地球惑星科学連合大会
記念式典へのご出席および祝辞のお願い

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。さて毎年 5 月に開催しております日本地球惑星科学連合大会は、今年の 2014 年大会（4/28-5/2）をもちまして、25 回目を数える、節目の大会を迎えることができました。平素のご支援を心より御礼申し上げます。

つきましては、大会会期中の 5 月 1 日に、25 周年記念式典を開催いたしたく、平理事長に式典にご出席いただき、ご祝辞を賜れば、幸いです。別紙式次第（案）の 2 番目、ご来賓祝辞（17:20-17:30）の部分になります。

ご多忙中と存じますが、何卒お願い申し上げます。

敬具

津田敏隆
日本地球惑星科学連合会長



公益社団法人日本地球惑星科学連合
25周年記念式典 式次第（案）

開催日時：平成26年5月1日（木）

開催場所：パシフィコ横浜会議センター
1階メインホール

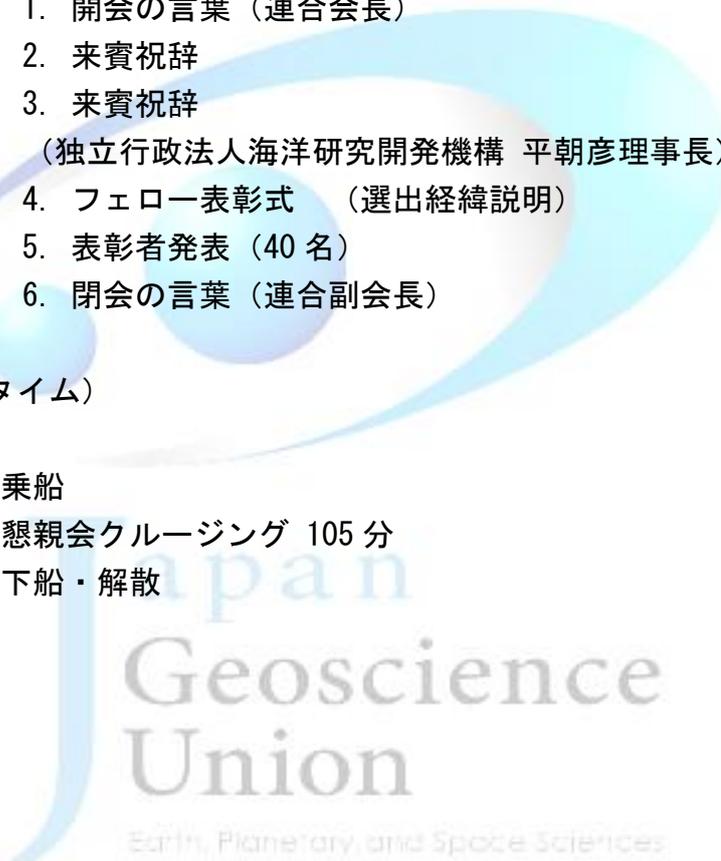
17:15-18:05 25周年記念式典 50分

- 17:15-17:20 1. 開会の言葉（連合会長）
17:20-17:30 2. 来賓祝辞
17:30-17:40 3. 来賓祝辞
（独立行政法人海洋研究開発機構 平朝彦理事長）
17:40-17:45 4. フェロー表彰式（選出経緯説明）
17:45-18:00 5. 表彰者発表（40名）
18:00-18:05 6. 閉会の言葉（連合副会長）

（ポスターコアタイム）

- 19:15-19:45 乗船
19:45-21:30 懇親会クルージング 105分
21:30-22:00 下船・解散

以上





独立行政法人海洋研究開発機構
理事長 平 朝彦 様

平成 26 年 1 月〇〇日

日本地球惑星科学連合大会
記念式典へのご出席および祝辞のお願い

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。さて毎年 5 月に開催しております日本地球惑星科学連合大会は、今年の 2014 年大会（4/28-5/2）をもちまして、25 回目を数える、節目の大会を迎えることができました。平素のご支援を心より御礼申し上げます。

つきましては、大会会期中の 5 月 1 日に、25 周年記念式典を開催いたしたく、平理事長に式典にご出席いただき、ご祝辞を賜れば、幸いです。別紙式次第（案）の 3 番目、ご来賓祝辞（17:30-17:40）の部分になります。

ご多忙中と存じますが、何卒お願い申し上げます。

敬具

津田敏隆
日本地球惑星科学連合会長

公益社団法人日本地球惑星科学連合
25周年記念式典 式次第（案）

開催日時：平成26年5月1日（木）

開催場所：パシフィコ横浜会議センター
1階メインホール

17:15-18:05 25周年記念式典 50分

- 17:15-17:20 1. 開会の言葉（連合会長）
- 17:20-17:30 2. 来賓祝辞（日本学術会議大西会長）
- 17:30-17:40 3. 来賓祝辞
- 17:40-17:45 4. フェロー表彰式（選出経緯説明）
- 17:45-18:00 5. 表彰者発表（40名）
- 18:00-18:05 6. 閉会の言葉（連合副会長）

（ポスターコアタイム）

- 19:15-19:45 乗船
- 19:45-21:30 懇親会クルージング 105分
- 21:30-22:00 下船・解散

Japan
Geoscience
Union
Earth, Planetary, and Space Sciences

以上

■25周年記念パンフレット工程表(案)

月	日	曜	内容	作業	実績
1月	24日	金	原稿締切	<ul style="list-style-type: none"> ・夢ロードマップ一枚目の追加 ・時間空間スケールの追加 ・文章の確定 	サイエンスライターへ微修正依頼 ページ割付の確認 印刷会社よりレイアウト提出
2月	第一週		入稿	<ul style="list-style-type: none"> ・レイアウトの確定 ・写真、図の確定 ・校正 	
	21日	金	校了		
3月	10日	月	完成		

■パンフレット概要

- [体裁] カラー印刷 A4 20p程度
- [部数] 30,000部
- [発行] 本年度内
- [内容] 連合内外に連合の活動と歴史ならびに関係分野の発展等を広く紹介する。
 - ・地球惑星科学とは
 - ・連合の紹介、連合大会の歴史の紹介
 - ・各セクションの紹介・解説
 - ・教育、アウトリーチ活動の紹介

科学・夢ロードマップワーキンググループ活動報告

2014/1/29 渡辺

1. ワーキンググループ (WG) 委員

	夢ロードマップ 分野	WGメンバー			分野別委員会 委員長
1	環境学	石川幹子	会員	中央大学	石川幹子
2	数理科学	杉原正顯	連携会員	青山学院大学	楠岡成雄
3	物理学	相原博昭	会員・第三部幹事	東京大学	伊藤早苗
4	地球惑星科学	中村正人	連携会員	JAXA	永原裕子
5	情報学	安達淳	連携会員	NII	西尾章治郎
6	化学	森初果	連携会員	東京大学	栗原和枝
7	総合工学	渡辺美代子	会員	JST	小長井誠
8	機械工学	新野秀憲	連携会員	東京工業大学	岸本喜久雄
9	電気電子工学	大橋弘美	連携会員	NTT	石原宏
10	土木工学・建築学	依田照彦	会員	早稲田大学	和田章
11	材料工学	長井寿	連携会員	NIMS	前田正史

2. WG 会議

第1回会議 2014年1月29日(水) 15:00-16:30

- ・作成の進め方について議論、案の策定

第2回会議 2014年3月後半の予定

3. 理学・工学分野における科学・夢ロードマップの内容案

- ・構成は前回(2011年8月発行)と同じとする

I. はじめに：荒川部長に執筆依頼

II. 理学・工学分野全体のロードマップ：本WGで担当

- ・全体のロードマップ1枚(PPT)は可能ならデザインを外部に依頼する
(予算5万円程度：事務局に検討依頼)
- ・作成は本WGが担当

軸(矢印)は中村委員と依田委員が案を作成(3月中旬)

(依田委員には渡辺から依頼する)

これに各委員が分野のキーワードを入れる (3月後半)

全体を第2回会議で議論して第1次案を作成する (3月末)

- ・内容は、東日本大震災対応を明確に入れる

Ⅲ. 分野別ロードマップ：各分野の委員が編集を担当

- ・項目の表記は統一、
- ・分野ごとの説明文には (1) ビジョンと (2) ロードマップ説明を入れる
- ・説明文は学会会議の責任とし、作成者組織や個人名は入れない
- ・ロードマップ図には必要に応じて作成組織を入れる、記入は12フォントで図の下、タイトルには入れない

Ⅳ. おわりに：異副部長に依頼

4. 公表について

- ① 「報告」として公表
- ② 公開シンポジウム 2014年6-7月
- ③ 「学術の動向」特集の掲載

5. スケジュール

- 2月末 各分野別委員会からフォーマットを揃えて提出 (Ⅲの部分)
- 3月 I、II、IVの作成
- 4月総会時第三部会 第1次案の提出
- 6-7月 公開シンポジウム
- 9月 公開、発行
- 2015年1-3月 学術の動向に特集掲載

6. その他

全体のロードマップ (II) の出口は第1,2部の先生にご意見いただく

以上

平成25年度 共催・協賛・後援等一覧

2014/1/24 12:05

承認日	種別	会合名等	開催期間	会場
4月9日	協賛	第54回高圧討論会	2013年11月14日(木)～16日(土)	朱鷺メッセ 新潟コンベンションセン ター
4月18日	後援	科学教育研究協議会・第60回全国研究大会・岩手大会	2013年8月2日(金)～8月4日	専修大学北上高等学校
5月7日	協賛	日本地質学会第120年学術大会(仙台大会)巡検	2013年9月13日、14日、17日、18日	宮城県仙台市など13コース
5月16日	共催	Goldschmidt Conference 2016	2016年6月26日(日)～7月1日(金)	横浜国際平和会議場(パシフィコ横浜)
6月22日	協賛	女子中高生夏の学校2013～科学・技術者のたまごたちへ～	2013年8月8日(木)～平成25年8月10日(土)	国立女性教育会館
7月29日	協賛	ハイパフォーマンスコンシューティングと計算科学シンポジウム(HPCS2013)	2014年1月7日～8日	学術総合センター―橋記念講堂

日本地球惑星科学連合フェロー審査委員会 第二回会議 議事録

開催日時：2014年1月17日（金）10：00-12：00

開催場所：日本地球惑星科学連合事務局地下会議室

（〒113-0032 東京都文京区弥生 2-4-16 学会センタービル）

出席委員：フェロー審査委員長

フェロー審査委員 4名

（フェロー審査委員会規則第6条に基づき、現時点では非公開）

オブザーバー：担当理事 中村正人副会長

議事に先立ち、中村副会長より、津田連合会長からフェロー審査委員会に向けた挨拶文を預かった旨報告があり、代読された。

議事1. 候補者確認

中村副会長より、1月10日（金）にフェロー候補者の推薦が締め切りとなった旨報告があった。

審査委員長より、推薦された候補者の一覧が提出された。候補者一覧を確認したのち、各セクション対応委員から各候補者について簡単な説明があった。

議事2. 審査方法の検討

今後の審査方法について検討した。本委員会の任期2年間をかけて、本委員会としての受賞基準を形成して行く方向性が確認された。次回会議で審査を行う。

議事3. 今後の課題

次年度以降について課題が挙げられた。フェロー制度規則の第2条「パラダイムシフト」「ブレイクスルー」という要件の見直しや、適切な推薦主体の検討が課題として挙げられた。また、受賞者決定後、「推薦された方のなかからのみ受賞者が選ばれている」ことを周知する必要があるという意見があった。

以上

JpGU フェロー メダルデザイン

材質：銅合金製

銀色高級ロジウムメッキ仕上

(直径 60mm× 厚み 6mm ~ 7mm)



No.	学協会名	褒賞制度名 (人名を関するものはハイライ)	概要(抜粋)
1	日本宇宙生物科学会	学会賞	
		学会功労賞	
		研究奨励賞	
2	日本応用地質学会	学会賞(論文賞、功績賞)	学術・技術の進歩発展に顕著な貢献をしたと認められるもの
		功労賞	評議員歴が通算10年以上など
3	日本温泉科学会	科学会奨励賞	40歳未満
		特別賞	顕著な功績を有するもの。
		ポスター賞	極めて優れており、ポスター発表の範となつてと思われるもの。
		日本海洋学会賞	本学会員の中で海洋学において顕著な学術業績を挙げた者
		岡田賞	受賞の年度の初めに(4月1日現在)36歳未満の本学会員で、海洋学において顕著な学術業績を挙げた者
4	日本海洋学会	宇田賞	海洋学の発展に大きく貢献した本学会員
		日高論文賞	学会の定期行物に発表された優れた論文
		奨励論文賞	本会の定期行物に優れた論文を発表した若年会
		環境科学賞	海洋環境保全に関連した学術研究・教育・啓発において功績のあった本学会員
		5	日本火山学会
6	形の科学会	論文賞	雑誌「火山」あるいは「Earth, Planets and Space」に掲載された論文中、火山学に関する独創的で特に優れた論文の著者
		研究奨励賞	火山学に関する優れた論文 35歳以下の者
		功労賞	学会の創立や発展、または形の研究に多大の貢献をし、優れた功績がある生存者
7	日本活断層学会	論文賞	形の科学に関する研究に多大の功績がある生存者
		奨励賞	形の科学に関する優秀な論文を誌上発表した、受賞年度初頭に40才以下の生存者
		学会賞	活断層に関する研究・調査・教育・普及活動において顕著な業績を挙げられた個人又は団体
8	日本気象学会	論文賞	優れた論文の著者または団体を対象とする
		学会賞	気象学及び気象技術に関し貴重な研究をなした者に対する顕彰
		藤原賞	調査・研究・総合報告・著述その他の活動により、日本の気象学及び気象技術の発展・向上に寄与した者に対する顕彰
		岸保賞	気象学及び気象技術の発展・向上を通して社会に多大なる貢献をなした者あるいは団体に対する顕彰
		堀内賞	気象学あるいは気象技術の発展・向上に大きな影響を与えている者に対する顕彰
		正野賞	気象学及び気象技術に関し貴重な研究をなした若手研究者に対する顕彰
		山本賞	基礎研究・応用技術開発を問わず優秀な論文を発表した新進の研究者・技術者に対する顕彰
		気象集誌論文賞	気象集誌に掲載された論文の中の優秀な論文に対する
		SOLA論文賞	SOLAに掲載された論文の中から優秀な論文に対する顕彰
		奨励賞	研究を本務としない環境において、気象・気象技術に関する、優秀な調査・研究を行っている者、あるいは初等・中等教育等において優れた気象教育を行っている者
9	日本鉱物科学会	学会賞	鉱物科学およびその関連分野で顕著な研究業績をあげた会員
		渡邊萬次郎賞	鉱物科学およびその関連分野において卓越した研究業績をあげ、長年にわたりこれらの分野の発展に貢献した者に、渡邊萬次郎賞を贈呈する。
		論文賞	会誌に発表された本学会員による優れた研究論文を選び、その著者
		研究奨励賞	顕著な研究業績をあげた関連分野における若手の会員
		櫻井賞 櫻井奨励賞	櫻井記念基金を基とし、新鉱物の発見に貢献し記載鉱物学の分野で顕著な業績をあげた会員に対し、櫻井賞を、記載鉱物学上の顕著な業績のあった若手の会員に対し、櫻井奨励賞を贈呈
10	日本古生物学会	応用鉱物科学賞	鉱物科学の応用研究分野で顕著な業績をあげた者
10	日本古生物学会	学会賞(横山賞)	長年にわたり古生物学の研究に顕著な成果をあげ、又本会に対し著しく貢献したものの。
		日本古生物学会学術賞	学術賞:優れた研究成果をあげ、古生物学の進歩に寄与し、将来の発展が期待される者。
		日本古生物学会論文賞	Paleontological Researchに優れた研究を発表し、古生物学の発展に寄与した者。
		貢献賞	ほか本会の目的を達成する上で貢献のあった者。
		優秀ポスター賞	本会の年会または例会において優れたポスター発表を行った者。
11	日本沙漠学会	学会賞	本学会において学術かつ事業活動に顕著な業績を挙げた会員に授与する。
		学術論文賞	「沙漠研究」に掲載された論文により乾燥・半乾燥地に関する学術上の顕著な業績を挙げた会員に授与する。
		奨励賞	乾燥地・半乾燥地に関する萌芽的研究業績を挙げた会員に授与する、この場合の受賞者は、原則として当該年度において35歳以下の会員
		進歩賞	乾燥地・半乾燥地に関する技術的、実践的な業績を挙げた会員または会員を含む団体に授与する。

No. 学協会名	褒賞制度名 (人名を関するものはハイライ)	概要(抜粋)
12 資源地質学会	加藤武夫賞	資源地質学に関する学術研究または天然資源探査技術の開発に貢献し、一連の論文発表により優れた業績をあげたと認められる会員
	The Best Article Award	科学的內容が最も優れ、資源地質学、環境地質学およびその関連分野への多大な貢献が期待できる論文の著者
	研究奨励賞	35歳以下の少壮有為の会員
	技術賞	探査技術の進歩に寄与し、あるいは著しい探査成果をあげて、資源・環境地質学ならびに天然資源の開発に貢献した会員
	ベストポスター賞	年会学術講演会において発表されたポスターの中で最も優秀なポスターに授与される。
	学生講演賞	年会学術講演会において筆頭著者として口頭ないしポスター発表を行った大学の学部、大学院の修士、博士課程に在籍する学生の中で、最も優れた発表を行った学生会員に授与される。
13 日本地震学会	学生優秀発表賞	学生による優れた研究発表を奨励
	若手学術奨励賞	すぐれた研究により地震学の分野で特に顕著な業績をあげた若手の本会会員
	論文賞	「地震」または「Earth, Planets and Space」に発表したすぐれた論文
14 日本情報地質学会	学会功労賞・	本会に対して顕著な功績のあった者を顕彰するために贈る。
	論文賞・	情報地質学の研究に関する特に優れた研究論文に対して贈る。
	奨励賞	優秀な成果が期待される意欲的な研究発表(口頭発表・ポスター発表)に対して贈る。
15 日本水文科学学会	学術賞	水文学の発展に貴重な貢献を与える研究を行った正会員
	研究奨励賞	35歳以下の正会員に与えられる。
	功労賞	日本水文科学学会の運営発展に著しい貢献をした会員に与えられる。
16 水文・水資源学会	功績賞	水文・水資源学に係わる研究調査、啓発普及若しくは出版活動又は本会の運営に関し、顕著な功績があったと認められる者
	学術賞	本会会員であって、水文・水資源学に関し、画期的な業績によって特に貴重な学術貢献をなしたと認められる者
	論文賞	本会会誌又はこれに準ずる刊行物、あるいは主要な国際雑誌等に発表された水文・水資源学の発展に顕著な貢献をなした論文の著者
	論文奨励賞	本会会誌又はこれに準ずる刊行物に論文を発表し、水文・水資源学の発展に独創的及び将来性をもって寄与したと認められる者
	国際賞	国際的に水文・水資源学の発展に顕著な功績があったもの、または、本会と同様の目的を有する国外や国際的な組織あるいはその会員であって、国際的に水文・水資源学の発展に顕著な功績があり、かつ、本会との間に特に有益な交流があったもの
	特別功労賞	物故者で、水文・水資源学に係わる学術研究・調査、啓発普及、出版活動又は本会に関し、顕著な功労があったと認められるもの
	学術出版賞	、水文・水資源学の発展と社会への普及に大きく貢献した出版書籍の主な著者
17 生態工学会	特別功績賞 功績賞	特別功績賞および功績賞は、生態工学会ならびに生態工学関連領域の発展に顕著な貢献をしたものにその功績をたたえて授与する。
	学術賞	生態工学関連領域の研究、技術について、体系的、かつ、総合的に評価できる学術上の業績を上げたもの
	功労賞	生態工学会の運営と生態工学の普及に顕著な貢献をなしたと認められた個人もしくは団体
	論文賞	当該年度を含む過去5年間に本学会会誌に研究業績として発表し、これが生態工学研究領域における学術、技術の進歩発展に独創的・顕著な貢献をなしたと認められるもの
	技術賞	生態工学関連領域において、貢献した技術を開発、普及した個人もしくは団体
	貢献賞	生態工学会の運営と生態工学の普及に貢献をなしたと認められた個人もしくは団体
	奨励賞	該年度を含む過去3年間に本学会会誌ならびに本学会の刊行物に研究業績として発表し、将来の発展が期待されると認められるものに授与する。年齢は、30歳以下を対象とする。
18 生命の起原 および進化学会	調査中	
19 石油技術協会	論説賞	石油・天然ガス鉱業に関する学問、技術上の優れた論説を石油技術協会誌(以下「協会誌」という)に発表した著者に贈呈する。既論説賞受賞者も表彰の対象とする。
	業績賞	業績賞 石油・天然ガス鉱業の関する優れた業績を挙げた個人または団体に贈呈する。
20 日本雪氷学会	学術賞	雪氷学の発展に貴重な貢献を与える研究を行った正会員
	技術賞	雪氷技術の発展に貴重な貢献となる研究または開発を行った正会員あるいは正会員を含む団体
	平田賞	雪氷学の研究に顕著な成果をあげ、今後の発展を奨励することが適当と考えられる正会員
	論文賞	雪氷学の発展に貴重な貢献となる論文の著者である正会員
	功績賞	日本雪氷学会の運営発展、あるいは雪氷学の発展に、著しい貢献をした正会員

No.	学協会名	褒賞制度名 (人名を関するものはハイライ)	概要(抜粋)
21	日本測地学会	日本測地学会賞坪井賞	故坪井忠二先生の業績を記念し、測地学の分野で特に顕著な業績を揚げた若手研究者
22	大気化学研究会	奨励賞	大気化学の分野で優れた研究を行った本会会員(学生会員を含む)(受賞者にはメダルと賞状を授与)
23	日本堆積学会	論文賞	研究誌において堆積学に関わる優れた研究を発表し、堆積学の発展に寄与した者。
		最優秀口頭講演賞	最優秀口頭講演賞:本会が主催する例会において最も優れた口頭講演をおこなった発表者。
		最優秀ポスター講演賞	最優秀ポスター講演賞:本会が主催する例会において最も優れたポスター講演をおこなった発表者。
24	日本第四紀学会	学会賞	第四紀学の発展に貢献した顕著な業績や活動、及び学会活動に貢献した正会員に授与し、学会における最高の賞とする。
		学術賞	学術賞は、第四紀学に貢献した優れた学術業績をあげた正会員に授与する。
		功労賞	功労賞は、第四紀学の発展や学会活動に貢献した個人や団体、組織に授与する。
		論文賞、奨励賞	論文賞及び奨励賞は、会誌「第四紀研究」に掲載された第四紀学の発展や進歩に貢献する優れた論文を発表した会員である著者に授与する。奨励賞は若手研究者の育成と研究奨励に寄与することを目的とする。
25	日本地学教育学会	地学教育功労賞	地学教育、本会に関係した活動に多大の貢献のあった会員
		渡部景隆奨励賞	地学教育の発展や本学会に貢献および尽力している小学校・中学校・高等学校等に勤務する会員を対象とし、児童・生徒の指導実践およびそれに関する研究(論文・ポスターセッション・口頭発表等)の奨励に寄与すること
26	地学団体研究会	地球科学賞	1年間に掲載された原著論文のうち、もっとも優秀なもの
		地球科学短報賞	(2年間に掲載された短報のうち、もっとも優秀なもの)
		地球科学フォト賞	2年間に掲載されたフォトのうち、もっとも優秀なもの
		ポスター賞	総会でのポスター発表で最も優秀なもの
		ポスター奨励賞	総会のポスター発表で最も優秀な若手会員の発表
27	日本地下水学会	学会賞・論文賞・研究奨励賞・技術賞・学会功労賞	
28	日本地球化学学会	柴田賞	地球化学の発展に関し、学術上顕著な功績のあった者。
		学会賞	地球化学の分野で特に優秀な業績を収めた本会会員。
		奨励賞	満35才未満であることを要する。
		功労賞	我が国の地球化学あるいは本会の発展に関し特に寄与のあった者。
		GJ賞	Geochemical Journalに掲載された優れた論文の著者に授与する (シニア対象です。50才以上の方を想定しております。) (中堅対象です。35~50才の方を想定しております。) (若手対象です。35才以下の方を想定しております。)
29	地球環境史学会	学会賞	
		貢献賞	
		奨励賞	
30	地球電磁気・地球惑星圏学会	長谷川・永田賞	地球電磁気学、超高層物理学、及び地球惑星圏科学において、学問の成長を先導する顕著な業績をあげるとともに、学会の発展にかかわる事業に功労のあった会員に授け、それらの業績を表彰する
		田中館賞	地球電磁気学および地球惑星圏科学において顕著な学術業績をあげたもの
		大林奨励賞	本学会若手会員の中、地球電磁気学、超高層物理学、及び地球惑星圏科学において、独創的な成果を出し、さらに将来における発展が充分期待できる研究を推進している者。原則として35才以下の会員をいう。
		学会特別表彰	は当学会の活動に関わる貢献(技術支援、研究支援、教育・啓蒙活動、多年にわたる学会への貢献、等)に対して
		フロンティア賞	本学会の周辺分野との学際融合研究、革新的技術開発、研究基盤の構築・整備等によって本学会の研究の発展に多大な貢献のあった個人
	学生発表賞(オーロラメダル)	学生による将来性、独創性のある研究を顕彰	
31	日本地形学連合	研究奨励賞	過去3年間に雑誌「地形」に筆頭著者として論文を著した40歳未満の会員のうち、すぐれた論文を執筆した若干名に授与する
32	日本地質学会	学会賞	正会員および非会員
		小澤儀明賞・柵山雅則賞	満37歳以下の正会員
		小藤文次郎賞	『地質学雑誌』に重要な発見または独創的な発想を含む短報を発表した会員
		研究奨励賞	地質学雑誌およびIsland Arc に発表された論文の著者 満35才未満の会
		功労賞	地質学会正会員および非会員、またはこれらを代表するグループ
	国際賞	正会員および非会員	
	Island Arc 賞	募集開始年の3年前と2年前にIsland Arc 誌に発表された論文	
33	日本地熱学会	論文賞	本学会発行の出版物に地熱に関する優れた原著論文を発表した著者
		功績賞	功績賞は、地熱の開発・利用に優れた業績を挙げた会員
		研究奨励賞	本学会発行の出版物に地熱に関する優れた原著論文を発表した将来を嘱望される研究者あるいは技術者
34	日本地図学会	論文賞 論文奨励賞 作品賞	教育普及賞 功労賞
		野村正七地図賞	地図学における、最高の賞をして、対象者は、学会員に限らない
35	地理科学学会	調査中	
36	日本地理学会	学会賞	優秀論文部門、若手奨励部門、論文発信部門、優秀著作部門、著作発信部門、地理教育部門、学術貢献部門、社会貢献部門
37	日本地理教育学会	調査中	
38	地理教育研究会	調査中	
39	地理情報システム学会	研究奨励部門 学術論文部門	ソフトウェア部門 教育部門 著作部門

No. 学協会名	褒賞制度名 (人名に関するものはハイライ)	概要(抜粋)
40 東京地学協会	東京地学協会メダル	国内で極めて顕著な業績を挙げ国際的にも高く評価される地学者に贈るもので、賞状を添えたメダルを贈呈する。
	地学普及功労賞	内において地学の普及に格段の尽力をした者(または団体)に贈るもので、賞状及び副賞(賞金30万円)を贈呈する。
41 東北地理学会	研究奨励賞(長谷川賞)	受賞対象者は、年令35歳以下もしくは入会後5年以内
42 土壌物理学学会	論文賞	「土壌の物理性」に、原則として前年度(前年4月1日から翌年の3月31日まで)に掲載された原著「論文」
	優秀ポスター賞	当該年度の土壌物理学学会大会において発表されたポスターであって、筆頭者は会員とする
43 日本粘土学会	学会賞	粘土科学に関する独創的で重要な研究をなし、その業績が特に優秀であると認められるもの
	功績賞	本学会の事業目的(学会活動、啓蒙普及、応用化)の達成のためその功績が顕著であったと認められるもの
	奨励賞	39歳以下の会員であって、粘土科学に関する優れた研究をなし、粘土科学の研究の進歩発展に貢献が期待されるもの
	技術賞	粘土関連産業において重要な技術的貢献をしたもの
	論文賞	粘土科学誌あるいは Clay Science 誌に優れた原著論文を発表したもの
	優秀講演賞	粘土科学討論会において優れた発表をした、発表時において原則として35歳以下の若手研究者
	44 日本農業気象学会	学会賞
	普及賞	農業気象学・農業気象技術の普及、教育、啓蒙に著しく貢献のあった会員
	功績賞	本学会の学術的発展や運営に著しく貢献した原則として65歳以下の会員
	論文賞	顕著に優れた研究論文が本学会学術誌に掲載された会員
	奨励賞	優れた研究論文が本学会学術誌に掲載された 30歳以下(審査年度の4月1日現在)の会員
45 物理探査学会	学会賞	本会誌において発表された論文、あるいは探査技術の進歩に寄与したものや著しい探査結果をあげた業績の中から特に優秀なもの
	奨励賞	過去2年間に本会誌に40歳以下の著者・共著者によって発表された論文等の中から今後の研究成果が期待されるもの
46 日本陸水学会	論文賞	「陸水学雑誌」および英文誌「Limnology」の最新2年間に発表された優秀な論文
	吉村賞	顕著な研究業績を上げている若手研究者
47 陸水物理研究会	調査中	
48 日本リモートセンシング学会	功績賞 功労賞	
	論文奨励賞	正会員(個人)または学生会員であり、かつ満35歳未満 論文の完成度は十分でなくとも、新規性と独創性においてリモートセンシングの分野有益な示唆を与えることが予想されるもの
	論文賞	論文の内容に新規性と独創があり、完成度高いもの
	優秀論文発表賞	35歳未満の会員によって発表された論文の中から、特に優秀なもの
	技術開発賞	
49 日本惑星科学会	最優秀発表賞	博士号の無い学生会員の秋季講演会での優秀な発表に対して
	最優秀研究者賞	博士号を有する35歳未満の若手研究者の最近5年間の業績に対して

報告事項 AGU FALL MEETING (San Francisco 12月9日-13日)

に関する報告 (12月19日第五回理事会提出資料)

● AGU との議論 12/8 President

President & President-elect Reception: Sunday 08 December 2013

6:00 PM-9:00 PM

San Francisco Marriott Marquis - Club Room

このreceptionは完全にprivateなもので、Marriott MarquisがAGUのpresidentとpresident electedに対して個人の判断で呼びたい人を呼び、ささやかな会を開いたもの。

この会は話す時間を長く取れる。ただし、彼女ら(presidentとpresident electedは共に女性)の親しい関係者だけを呼んでいるので、この会に参加したいとこちらからいうのは難しそう。日本からは旧地質調査所の人だけ参加していた。私はサイモンさんらに時間をとっていただくよう申し込んでいただき、かつCarol Finnが旧知だったおかげでいろいろ話げできたようだ。

さて、そのような経過で、今後の日米関係、世界関係等について立ち話的に意見交換をした。アジアを考えていろいろ相談しながらやっていきたいこと、今後のWPGMについても議論をつづけたいことなどである。またそれらについてじっくりとしかし公式的に意見交換をするために、日本から連合の代表団を派遣したいことを申し入れた(先に議論がありましたので)。

日程、議題等実務的につめようとなった。

Carol Finnは、来春、日本へ行きたかったが、日程に重なりが生じ行けなくなったことを詫びていた。再来年の25周年行事が継続するので是非招待したいことを提案した。presidentの任期は来年までであるが、past presidentとしてでも是非参加したいとっていただいた。彼女にとっても金沢は若い時に参加したので思い出深く、是非とっていただいた。今から日程を確保すれば間違いないとっていただいた。日程、議題等実務的につめようとなった。

● Scientific Societies Luncheon

San Francisco Marriott Marquis, salons 3-4, Dec. 10

AGUが内外の学会代表を招待して、意見交換をするランチョン。AGU国際委員会が、外国人でありながら会員である人に委員をやっていただいて意見を経営に反映させ、bottom upを計るために大会期間中に開催している。私の参加は今年で3回目。

しかし、当初に比べて集まりは極めて悪かった。4つテーブルが用意されていたが2つだけで開催。EGU, メキシコと後は国内学会だったようだ。会議テーマがはっきりしなかったからであろう。AGU側も past president と今回から国際委員長となった南アメリカの女性、それだけであった。AGUは国際戦略として連携を打ち出したが現実には実行されていないのかもしれない。こちらから積極策を打ち出し持ちかけるのがよいであろう。日本が free access journal をはじめたことはよく知られていた。

● Honors ceremony & honors banquet

Dec. 11

AGU 最大の行事でもある, Fellow, Award, medal 合計の表彰式並びに banquet に参加した。(Awardees, 9名、Climate Communication Prize 1名、新 fellow 62名、medalists 10名、合計82名)

表彰式は、午後6時からほぼ二時間。式次第と写真入り表彰者紹介パンフレット配布。

表彰者はタキシードにドレス。極めて厳かに進められる。満場の人、おそらく1000人以上。日本人としての fellow は地震研究所小原教授。すぐれた若手への賞 James B. Macelwane Medal に村上元彦東北大准教授。President, president elected による名前の呼び上げ、映像配信、Medalists からは返礼スピーチ (fellow ほかはない)。Banquet は午後8時半より。完全招待制。受賞者が推薦者や近親者分を負担するのが習慣のよう。私は、アメリカ人 fellow の一人の推薦者となっていたので招待された。小原教授関係で、地震研究所、および防災科学研究所関係、村上准教授関係で、大谷栄治氏、唐戸俊一郎氏 (ともに fellow) が参加していた。午後10時過ぎまで宴席懇談、その後バンドが入り演奏、ダンスがはじまった。そこで結構退席するが、パーティーは12時ころまで続く。

今後の JpGU の表彰のやり方について大変参考となった。

個人情報のため非公開とする

平成25年度会員数推移

	正会員					准会員					大会会員						
	入会	変更(+)	退会(-)	喪失(-)	削除(-)	現会員数	入会	変更(-)	退会(-)	喪失(-)	削除(-)	現会員数	入会	退会(-)	削除(-)	変更(-)	現会員数
3月末						7304						392					634
4月	170	31	4		3	7498	19	16				395	51		6	15	664
5月	282	51			6	7825	22	32				385	35		2	19	678
6月	0		2	85	4	7734	0				1	384	0		1		677
7月	4		2		1	7735	0	0	1	0	0	383	1	0	0	0	678
8月	4	5	5		8	7731	0	0	0	0	0	383	2		317	5	358
9月	5	0	1	0	0	7735	3	0	0	0	0	386	2	0	2	0	358
10月	27	0	2	0	1	7759	1	0	0	0	1	386	0	0	0	0	358
11月	5	0	3		20	7741	3	0	0	0	3	386	1	0	0	0	359
12月	5	0	4	0	1	7741	1	0	0	0	0	387	1	0	0	0	360
1月						7741						387					360
2月						7741						387					360
3月						7741						387					360
	502	87	23	85	44		49	48	1	0	5		93	0	328	39	

正会員

7741名

2013/10/31現在

変更
大会会員より正会員へ
准会員から正会員へ

准会員

387名

大会会員

360名

	団体会員		賛助会員	
	入会	退会	入会	退会
3月末				
4月				
5月				
6月				
7月				
8月				
9月				
10月				
11月				
12月				
1月				
2月				
3月				
	0	0	0	0

3月末	
4月	
5月	
6月	
7月	
8月	
9月	
10月	
11月	
12月	
1月	
2月	
3月	

全会員

8330名
8557名
8888名
8795名
8796名
8472名
8479名
8503名
8486名
8488名

審議事項 NASA 招致に関わる旅費交付の件

■対象者

氏名 Dr. Michael Freilich

所属 Director, Earth Science Div. NASA Headquarters

■内容

2014 年連合大会にて以下の講演等のため招待する。来日に際しビジネスクラスの航空券の旅費を交付する。

■理由

日米共同の GPM を中心とした複数にわたる講演、ブース展示を設けること、そしてまた NASA において主要ポストにある対象者を招待することで、連合大会の成功および今後の連合の発展において大きな影響を持つと予想されるため。

講演予定

- ・スペシャルレクチャー (日程未定)
タイトル未定 (内容は centered around GPM)
- ・パブリックセッション (4月29日)
O-07 コンビーナ原 辰彦 “Special NASA Lecture ”
Title (案) : Looking Down on the Earth: How Satellites Have Revolutionized Our Understanding of Our Home Planet
- ・通常セッションでの講演
A-CG06 コンビーナ : 沖理子 "Satellite Earth Environment Observation"

なお、連動して NASA のブース出展 (HyperWall 展示) も予定している。

旅費規程 第3条2

「航空運賃はエコノミー・ディスカウントクラス相当を基本とする。ただし、会長が必要と認めた場合にはビジネス・ディスカウントクラス相当を支給することができる。」

外国出張旅費規則

(趣旨)

第1条 この規則は、公益社団法人日本地球惑星科学連合（以下、「連合」という。）の役員、委員及び職員、並びに連合が依頼した者が連合の用務で外国出張する場合の旅費を定めるものである。

(旅費の構成)

第2条 旅費は、交通費、日当、及び宿泊費を支給する。

- 2 「科学研究費助成事業（科学研究費補助金）（研究成果公開促進費）国際情報発信強化（オープンアクセス刊行支援）」に係る事業のための旅費については、第3条から第7条の定めに拘わらず、「東京大学旅費支給要領」の定に基づいて計算した額を支給するものとする。

(交通費)

第3条 交通費は、原則として、鉄道、船舶、航空機、車の旅客運賃とその付属料金（特急料金、寝台料金等）を実費支給する。

- 2 航空運賃はエコノミー・ディスカウントクラス相当を基本とする。ただし、会長が必要と認めた場合にはビジネス・ディスカウントクラス相当を支給することができる。

(日当)

第4条 日当は、日額4,000円とする。

(宿泊費)

第5条 宿泊費は実費を支給し、その上限額を別途定める。

- 2 この規則により難しい場合は、事前に事務局との協議により決定した額を支給する。

(日当、宿泊費の辞退)

第6条 出張者が日当又は宿泊費の受領を辞退した場合には、当該経費は支給しない。

(規則の改廃)

第7条 この規則の改廃は、理事会の議を経て行う。

附則

本規則は 2012 年 12 月 26 日より施行する。

附則

第 2 条に第 2 項を追加する改正については、2013 年 8 月 1 日より施行する。

MEMORANDUM OF UNDERSTANDING
Between
The Asia Oceania Geosciences Society (AOGS)
And
The Japan Geosciences Union (JpGU)

The AOGS and the JpGU will establish an agreement to promote collaborations between both organizations and international opportunities for their membership. To that effect, the AOGS and the JpGU will promote the following activities:

1. Expansion of membership of both organizations through joint programs
2. Exchange of information and possible co-organization of scientific conferences

As steps along the path towards better collaboration, both organizations agree that

1. Neither organization shall have any financial obligation to the other.
2. Each organization will offer the other organization an exhibition booth at its annual meetings, gratis.
3. Both organizations will seek collaboration where appropriate.
4. Both organizations will seek collaboration between the secretariat offices
5. Each organization will list the annual meeting of the other organization in its advertisement of upcoming events.
6. AOGS and JpGU invite their leaders (or representatives) to each other's annual meetings, with the registration fee waived but otherwise on a no exchange of fund basis.

4-7. ~~AOGS will offer members of JpGU registration at member rates at its 11th Annual Meeting (AOGS2014) which will be held from 28 July to 01 August, 2014 in Sapporo.~~ AOGS and JpGU agree to give each other's members registration at the member rates for their 2014 annual meetings/assemblies.

This agreement is to be dissolved by either organization at any time with 30 days' notice. The agreement shall be reviewed every (3) years.

Toshitaka Tsuda
President of JpGU

Kenji Satake
President of AOGS

(Name)
Secretary General, JpGU

David Higgitt
Secretary General, AOGS

Date: 27 January, 2014

Date: 27 January, 2014

AOGS-JpGU MOU (Draft)

Friday, 24 January, 2014

書式変更: フォント: (英) Arial

書式変更: 左揃え, 1行の文字数を指定時に右のインデント幅を自動調整しない, 間隔 段落後: 0 pt, 行間: 1行, 段落番号 + レベル: 1 + 番号のスタイル: 1, 2, 3, ... + 開始: 1 + 配置: 左 + 整列: 6.3 mm + インデント: 12.7 mm, 日本語と英字の間隔を自動調整しない, 日本語と数字の間隔を自動調整しない

書式変更: フォント: (英) Arial

地学オリンピック日本委員会より

1) お問い合わせ

3月23日から25日につくば市で開催される第6回日本地学オリンピック本選にて、共催である日本地球惑星科学連合の賞：「日本地球惑星科学連合賞」を設立し、本選で最優秀成績を獲得した女性に授与したいと思いますので、是非、ご承認いただきたいと思えます。また、可能ならば、賞状以外に何か記念品（約1万円相当）も贈呈していただきたく存じます。なお、今年は69名の中3から高2までの本選進出者中7名が女性（5名高2、1名高1、1名中3）です。

参考：

茨城県知事賞（最優秀賞：全員の中の1位の生徒） 賞状+ホームプラネタリウム
つくば市長賞（第2位の生徒） 賞状+電子辞書
つくば科学万博記念財団理事長賞（中学生1位） 賞状+図書券（金額不明）
産総研地質調査総合センター賞（岩石・化石鑑定1位） 賞状+標本（岩石または化石）

2) 第6回日本地学オリンピック予選の結果報告

2013年12月15日13:30-15:30 実施

全68会場（34大学、33高校、1博物館）

申込者1689名（昨年1011名）（男1212名 女子477名）

参加者1462名（昨年812名）（男1072名 女子390名）

11問550点満点（平均251.7点 最高500点 最低52点）

未受験者県 岩手県、滋賀県、和歌山県、鳥取県、島根県、

岡山県、高知県、佐賀県、長崎県、鹿児島県

69名の中学3年生～高校2年生が本選参加対象者

（4名の中学2年生がチャレンジ受験）（10名の高校3年生が成績同等者）

本選 3月23日～25日（つくば市）=>10名の成績優秀者選抜

国際大会派遣生徒選抜 3月25日～26日（つくば大学）

審議事項 代議員選挙 選挙方法について

- ・代議員選挙投票数の改訂

(前回 12 月 19 日第 5 回理事会より審議継続事項)

代議員選挙規則

[現行]

(投票の方法)

第5条 投票は、候補者リストの中から適任者 5 名以内の者を選び、これを連記する方法により行う。

[改定案]

セクションごとの定数を上限として投票する

[参考：関連学会投票数（抜粋）]

日本気象学会 定数（20 人）まで

日本地震学会 定数（140 人）まで

日本海洋学会 （地区別選挙） 定数（10 人程度）まで

日本地理学会 （地区別選挙） 定数（2～20 人）まで

日本第四紀学会 （分野別選挙） 定数（2～8 人）まで

水文水資源学会 信任/不信任制

日本雪氷学会 信任/不信任制

日本応用地質学会 信任/不信任制

地理情報システム学会 信任/不信任制

日本地質学会 一人一票

予算対正味財産増減計算書 平成26年3月31日決算予想

平成26年1月30日現在

公益目的事業会計

(単位:円)

科目	予算額	本会計12/31現在 (科研費を含む)	連合12/31現在 (科研費を除く)	連合3月31日収支予 想(科研費除く)	連合3月31日決算予 想(科研費除く)	内 特定費 用準備 資金	備 考 (支出予定明細)
I 一般正味財産増減の部							
1. 経常増減の部							
(1) 経常収益							
基本財産運用利益	1,253	0	0	1,253	1,253		
基本財産受取利息	1,253	0	0	1,253	1,253		
特定資産運用利益	0	1,000	1,000	600	1,600		
特定資産受取利息	0	1,000	1,000	600	1,600		
受取年会費	10,000,000	10,650,000	10,650,000		10,650,000		
受取年会費	10,000,000	10,650,000	10,650,000		10,650,000		
事業収益	73,480,300	77,261,950	77,261,950	-1,000,000	76,261,950		NASA入金分2014年へ
学術大会事業収益	73,425,300	77,016,950	77,016,950	-1,000,000	76,016,950		
大会参加料収入	43,790,500	43,725,500	43,725,500	0	43,725,500		
投稿料収入	9,170,000	9,335,500	9,335,500	0	9,335,500		
団体展示料収入	15,600,000	18,250,000	18,250,000	-1,000,000	17,250,000		
大学インフォメーションパネル収入	700,000	770,000	770,000	0	770,000		
書籍展示料収入	1,050,000	1,180,000	1,180,000	0	1,180,000		
パンフレットデスク収入	190,000	650,000	650,000	0	650,000		
会議室使用料収入	2,045,000	2,095,250	2,095,250	0	2,095,250		
懇親会収入	296,500	239,700	239,700	0	239,700		
学協会出展料	240,000	270,000	270,000	0	270,000		
その他	343,300	501,000	501,000	0	501,000		
刊行事業収益	55,000	245,000	245,000	0	245,000		
JGL広告料収入	30,000	245,000	245,000	0	245,000		
メールニュース広告料収入	25,000	0	0	0	0		
受取補助金等	0	31,800,000	400,000	0	400,000		
25年度科学研究費補助金研究成果公開促進費	0	31,400,000	0	0	0		
千葉国際コンベンションビル助成金	0	400,000	400,000	0	400,000		
雑収益	71,907	75,064	75,064	0	75,064		
受取利息	7,904	7,063	7,063	0	7,063		
その他	64,003	68,001	68,001	0	68,001		
経常収益計	83,553,460	119,788,014	88,388,014	-998,147	87,389,867		
(2) 経常費用							
事業費	71,996,320	73,904,356	64,998,057	7,483,000	72,746,057		
給料手当	8,520,000	10,784,865	9,981,836	0	9,981,836		
法定福利費	886,000	1,374,555	1,313,805	0	1,313,805		
臨時雇賃	5,630,000	3,637,500	3,609,000	30,000	3,639,000		
ホームページ作成費	260,000	300,000	300,000	0	300,000		
その他アルバイト	2,870,000	3,337,500	3,309,000	30,000	3,339,000	30,000	フェローアルバイト
ジャーナル担当アルバイト	2,500,000	0	0	0	0		
会議費	400,000	372,070	372,070	0	372,070		
旅費交通費	5,800,000	6,940,593	3,200,145	838,000	4,038,145		
交通費	620,000	421,595	304,975	0	304,975		
通信費	5,180,000	6,518,998	2,895,170	838,000	3,733,170		セクション+委員会
通信運搬費	1,782,160	1,519,674	1,468,571	340,000	1,808,571		JGL発送費
減価償却費	2,600,000	2,576,294	2,576,294	193,000	2,769,294	100,000	システム費
消耗什器備品費	424,000	0	0	0	0		
消耗品費	1,540,000	2,949,457	2,494,421	945,000	3,439,421		フェローメダル代
印刷製本費	10,394,700	6,004,689	6,004,689	2,530,000	8,534,689		
プログラム編集費	520,000	619,500	619,500	0	619,500		
プログラム印刷製本費	2,120,000	2,176,793	2,176,793	0	2,176,793		
ポスター製作費	110,000	125,856	125,856	0	125,856		
書籍費	120,000	0	0	0	0		
JGL印刷費	3,668,700	2,704,800	2,704,800	890,000	3,594,800		JGL印刷製本費
ジャーナル印刷費	3,000,000	0	0	0	0		
その他	856,000	377,740	377,740	1,640,000	2,017,740	1,640,000	シフット・ロードマップ作成費
図書費	0	2,940	2,940	0	2,940		
出張費	290,000	301,088	245,824	0	245,824		
賃借料	20,095,460	21,089,620	19,844,305	265,000	20,109,305		
事務所賃借料	1,349,460	2,017,170	1,451,220	0	1,451,220		
事務機賃借料	156,000	162,204	162,204	0	162,204		
会場賃借料	15,650,000	15,102,444	15,102,444	0	15,102,444		
設備機材賃借料	2,870,000	2,738,584	2,738,584	0	2,738,584		
その他	70,000	1,069,218	389,853	265,000	654,853	265,000	懇親会船代
設備費	4,000,000	4,697,056	4,697,056	0	4,697,056		
諸謝金	60,000	210,000	0	0	0		
租税公課	0	12,200	12,200	1,600,000	1,612,200		消費税
支払手数料	1,687,000	1,537,916	1,470,433	0	1,470,433		
支払手数料	820,000	1,317,000	1,317,000	0	1,317,000		
委託費	6,464,000	6,850,954	6,222,664	610,000	6,832,664		マイJPGU保守費
システム関連費	5,894,000	3,273,214	3,273,214	0	3,273,214		
その他	570,000	3,577,740	2,949,450	610,000	3,559,450	945,000	フェローメダル代
雑保費	100,000	93,884	93,884	397,000	490,884	20,000	フェロー関係
広告宣伝費	3,000	2,100	2,100	0	2,100		
管理費	500,000	1,629,901	68,820	0	68,820		
給料手当	11,557,140	6,263,828	6,263,828	2,474,225	8,738,053		
法定福利費	5,720,000	3,335,258	3,335,258	1,100,000	4,435,258		
会議費	550,000	259,435	259,435	170,000	429,435		
旅費交通費	0	2,500	2,500	0	2,500		
交通費	730,000	536,660	536,660	192,000	728,660		
通信費	400,000	251,230	251,230	92,000	343,230		
通信運搬費	330,000	285,430	285,430	100,000	385,430		
通信運搬費	162,800	121,481	121,481	80,000	201,481		
減価償却費	42,000	0	0	0	0		
消耗什器備品費	50,000	0	0	50,000	50,000		
消耗品費	310,000	378,828	378,828	60,000	438,828		
修繕費	0	7,560	7,560	2,520	10,080		
賃借料	901,340	522,070	522,070	245,705	767,775		
事務所賃借料	792,540	446,750	446,750	196,340	643,090		
事務機賃借料	88,800	43,880	43,880	49,365	93,245		
その他	20,000	31,440	31,440	0	31,440		
諸謝金	1,205,000	903,000	903,000	378,000	1,281,000		
租税公課	1,710,000	800	800	100,000	100,800		
支払手数料	156,000	123,375	123,375	80,000	203,375		
雑費	20,000	72,861	72,861	16,000	88,861		
経常費用計	83,553,460	80,168,184	71,261,885	9,957,225	81,484,110	3,000,000	
収支差額	0	39,619,830	17,126,129				
3月31日現在収支差額予想(1/30日現在)					5,905,757		今年度剰余金については、12月19日理事会において、特定費用準備資金(国際化資金)とすることが決定済
一般正味財産期首残高	0	81,513,338			81,513,338		
一般正味財産期末残高		121,133,168			87,419,095		
II 指定正味財産増減の部							
当期指定正味財産増減額	0	0					
指定正味財産期首残高	0	0					
指定正味財産期末残高	0	0					
III 正味財産期末残高 1月30日現在 見込み		121,133,168			87,419,095		

科研費 正味財産増減計算書 12月31日現在

科 目	当年度
I 一般正味財産増減の部	
1. 経常増減の部	
(1) 経常収益	
受 取 補 助 金 等	31,400,000
25年度科学研究費補助金研究成果公開促進費	31,400,000
雑 収 益	297
受 取 利 息	297
経常収益計	31,400,297
(2) 経常費用	
事 業 費	8,906,299
給 料 手 当	803,029
法 定 福 利 費	60,750
臨 時 雇 賃 金	28,500
そ の 他 ア ル バ イ ト	28,500
旅 費 交 通 費	3,740,448
通 勤 費	116,620
交 通 費	3,623,828
通 信 運 搬 費	51,103
消 耗 品 費	455,036
出 展 費	55,264
賃 借 料	1,245,315
事 務 所 賃 借 料	565,950
そ の 他	679,365
諸 謝 金	210,000
支 払 手 数 料	67,483
委 託 費	628,290
そ の 他	628,290
広 告 宣 伝 費	1,561,081
経常費用計	8,906,299
評価損益等調整前当期経常増減額	22,493,998
損益評価等計	0
当期経常増減額	22,493,998
2. 経常外増減の部	
(1) 経常外収益	
経常外収益計	0
(2) 経常外費用	
経常外費用計	0
当期経常外増減額	0
当期一般正味財産増減額	
一般正味財産期首残高	0
一般正味財産期末残高	22,493,998
II 指定正味財産増減の部	
当期指定正味財産増減額	0
指定正味財産期首残高	0
指定正味財産期末残高	22493998
III 正味財産期末残高	

1月30日現在 平成26年度収支予算書 (案)

公益目的事業会計

(単位:円) 2014/1/30現在

科 目	25年度決算予想額 除く科研費	予算額(除く科研費)	科研費予算額	平成26年度全体予算	内 特定費用 準備資金	備考
I 一般正味財産増減の部						
1. 経常増減の部						
(1) 経常収益	87,389,867	100,594,553		100,594,553		
基本財産運用利益	1,253	1,253		1,253		
基本財産受取利息	1,253	1,253		1,253		
特定資産運用利益	1,600	3,000		3,000		
特定資産受取利息	1,600	3,000		3,000		
受取年会費	10,650,000	10,000,000		10,000,000		
当年度会費	10,650,000	10,000,000		10,000,000		
事業収益	76,261,950	90,582,300		90,582,300		
学術大会事業収益	76,016,950	90,524,300		90,524,300		
大会参加料収入	43,725,500	60,725,700		60,725,700		参加者昨年実績 4,860人×90%
投稿料収入	9,335,500	12,558,600		12,558,600		投稿数昨年実績 3,874件×90%
団体展示料収入	17,250,000	12,040,000		12,040,000		1/31現在申込み数
大学インフォメーションパネル収入	770,000	1,120,000		1,120,000		1/31現在現在申込み数
書籍展示料収入	1,180,000	1,050,000		1,050,000		1/31現在現在申込み数
パンフレットデスク収入	650,000	10,000		10,000		1/31現在現在申込み数
会議室使用料収入	2,095,250	2,000,000		2,000,000		1/31現在現在申込み数
懇親会収入	239,700	500,000		500,000		1/31現在現在申込み数
学協会展料	270,000	270,000		270,000		1/31現在現在申込み数
その他の	501,000	250,000		250,000		1/31現在現在申込み数
刊行事業収益	245,000	50,000		50,000		
JGL広告料収入	245,000	50,000		50,000		
メールニュース広告料収入	0	0		0		
受取補助金等	400,000		31,700,000	31,700,000		
25年度科学研究費補助金研究成果公開促進費			31,700,000	31,700,000		今年度申請額
千葉国際コンベンションユロ-助成金	400,000	0		0		
雑収益	75,064	8,000		8,000		
受取利息	7,063	8,000		8,000		
その他の	68,001	0		0		
			800,000	800,000		指定正味財産より減価償却 分を一般正味財産へ振替
経常収益計	87,389,867	100,594,553	32,500,000	133,094,553		
(2) 経常費用						
事業費	72,746,057	97,968,243	32,500,000	130,468,243		
給料手当	9,981,836	10,000,000	4,150,000	14,150,000		
法定福利費	1,313,805	1,200,000	260,000	1,460,000		
臨時雇賃金	3,639,000	4,271,000		4,271,000		
ホームページ作成費	300,000	300,000		300,000		
その他アルバイト	3,339,000	3,971,000		3,971,000		
会議費	372,070	2,031,600		2,031,600		
旅費交通費	4,038,145	10,595,280	12,790,000	23,385,280		
通勤費	304,975	620,000	620,000	1,240,000		
交通費	3,733,170	9,975,280	12,170,000	22,145,280	1,800,000	
通信運搬費	1,808,571	2,342,600		2,342,600		
減価償却費	2,769,294	3,100,000	800,000	3,900,000	600,000	科研費減価償却
消耗什器備品費	0	100,000		100,000		
消耗品費	3,439,421	2,552,525	500,000	3,052,525		
印刷製本費	8,534,689	7,531,270	4,800,000	12,331,270		
プログラム編集費	619,500	831,750		831,750		
プログラム印刷製本費	2,176,793	2,180,000		2,180,000		
ポスタ一製作費	125,856	290,000		290,000		
JGL印刷費	3,594,800	3,773,520		3,773,520		
書籍の	0					
その他の	2,017,740	456,000	4,800,000	5,256,000		
図書費	2,940	80,000		80,000		
出張費	245,824	550,000		550,000		
賃借料	20,109,305	34,179,072	2,000,000	36,179,072		
事務所賃借料	1,451,220	1,460,000	1,200,000	2,660,000		
事務機賃借料	162,204	174,000		174,000		
会場賃借料	15,102,444	21,353,760		21,353,760	3,500,000	
設備器材賃借料	2,738,584	10,558,512		10,558,512		
その他の	654,853	632,800	800,000	1,432,800		
設備費	4,697,056	1,993,896		1,993,896		
諸謝金	0	76,000	300,000	376,000		
租税公課	1,612,200	2,600,000		2,600,000		
支払手数料	1,470,433	1,710,000		1,710,000		
支払手数料	1,317,000	825,000		825,000		
委託費	6,832,664	6,905,000	4,900,000	11,805,000		
システム関連費	3,273,214	5,580,000		5,580,000		
その他の	3,559,450	1,325,000	4,900,000	6,225,000	100,000	
雑費	490,884	610,000		610,000		財務委員会 提案
保険料	2,100	15,000		15,000		国際100万
広告宣伝費	68,820	0	2,000,000	2,000,000		大会200万
財務委員会案		4,700,000		4,700,000		学術出版 170万
管理費	8,738,053	8,686,000		8,686,000		合計 470万
給料手当	4,435,258	4,500,000		4,500,000		
法定福利費	429,435	500,000		500,000		
会議費	2,500	0		0		
旅費交通費	728,660	800,000		800,000		
通勤費	343,230	400,000		400,000		
交通費	385,430	400,000		400,000		
通信運搬費	201,481	200,000		200,000		
減価償却費	0	0		0		
消耗什器備品費	50,000	100,000		100,000		
消耗品費	438,828	400,000		400,000		
修繕費	10,080	0		0		
賃借料	767,775	696,000		696,000		
事務所賃借料	643,090	600,000		600,000		
事務機賃借料	93,245	66,000		66,000		
その他の	31,440	30,000		30,000		
諸謝金	1,281,000	1,200,000		1,200,000		
租税公課	100,800	120,000		120,000		
支払手数料	203,375	80,000		80,000		
雑費	88,861	90,000		90,000		
経常費用計	81,484,110	106,654,243	32,500,000	139,154,243	6,000,000	
評価損益等調整前当期経常増減額	5,905,757	-6,059,690	0	-6,059,690		
当期経常増減額						
2. 経常外増減の部						
(2) 経常外費用						
当期一般正味財産増減額						
一般正味財産期首残高	81,513,338					
一般正味財産期末残高						
II 指定正味財産増減の部						
指定正味財産期末残高						
III 正味財産期末残高						

平成 25 年度 事業報告及び決算報告書（案）

v. 平成 26 年 2 月 1 日

自 平成 25 年 4 月 1 日

至 平成 26 年 3 月 31 日

青字	変更済み
赤字	要変更および未変更
黒字	変更なし、昨年のまま

公益社団法人日本地球惑星惑星科学連合

〒113-0032 東京都文京区弥生 2-4-16 学会センタービル 4 階
電話：03-6914-2080 Fax：03-6914-2088

平成 25 年度 事 業 報 告 書

公益社団法人第 3 期（平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日）

公益社団法人日本地球惑星科学連合が定款に定める事業の概要は以下の通りである。

1. 学術大会にかかわる事業

- (1) 学術大会（地球惑星科学連合大会）の開催 [定款第 5 条（4）]
- (2) 公開プログラム「高校生によるポスター発表」の開催 [定款第 5 条（4）]
- (3) 地球惑星科学関連、教育機関、学協会、プロジェクトの紹介・展示 [定款第 5 条（4）]
- (4) 地球惑星科学関連資料・書籍の展示・頒布 [定款第 5 条（4）]

2. 学術推進にかかわる事業

- (1) 学術雑誌等の出版 [定款第 5 条（2）]
- (2) 国際連携事業 [定款第 5 条（3）]
- (3) サイエンスボード活動 [定款第 5 条（5）]
- (4) 各種委員会活動 [定款第 5 条（5）]

3. 普及にかかわる事業

- (1) 広報・普及誌発行事業 [定款第 5 条（2）]
- (2) ウェブ、メールニュースを活用した広報・普及事業 [定款第 5 条（2）]
- (3) 一般公開セミナーの展開 [定款第 5 条（2）]
- (4) 公開授業、公開セッションの開催 [定款第 5 条（2）]
- (5) 各種サイエンスプログラムへの講師派遣、紹介 [定款第 5 条（2）]

4. 教育・キャリア支援・社会還元等にかかわる事業

- (1) 国際地学オリンピック活動支援 [定款第 5 条（2）]
- (2) 地理オリンピック活動支援 [定款第 5 条（2）]
- (3) 教育問題対応事業 [定款第 5 条（1）]
- (4) 教員免許更新講習会の開催準備 [定款第 5 条（1）]
- (5) 男女共同参画事業 [定款第 5 条（6）]
- (6) キャリア支援事業 [定款第 5 条（6）]
- (7) 自然災害（風水害、地震、火山、津波、環境）対応 [定款第 5 条（1）]
- (8) 自然災害リテラシー普及 [定款第 5 条（1）]

以下に、個別の事業の状況について述べる。

I. 事業の状況

1. 学術大会にかかわる事業

(1) 学術大会（地球惑星科学連合大会）の開催 [定款第5条（4）]

地球惑星科学の一層の発展に寄与することを目的とし、当該科学に関連する研究、教育に携わる、あるいは関心を持つ全ての人々を対象に、公開で学術大会を開催し、学術講演、ポスター発表による関連分野の研究発表、情報交換の場を設けることを目的として、日本地球惑星連合大会（以下、「連合大会」という。）を開催した。学術大会の開催に関連して、講演募集、プログラム編成、ユニオン・パブリックセッションの設定、アウトリーチプログラムの企画等、必要な事業を行なった。

日本地球惑星連合 2013 年大会 (Japan Geoscience Union Meeting 2013)

会 期：2013 年 5 月 19 日(日)～24 日(金)

場 所：幕張メッセ 国際会議場 (〒261-0023 千葉県千葉市美浜区中瀬 2-1)

大会委員長：石渡 明 (東北大学東北アジア研究センター 学協会長会議議長)

主 催：公益社団法人日本地球惑星科学連合

後 援：43 団体

協 賛：日本サンゴ礁学会，日本大気電気学会，日本高圧力学会，日本天文学会

開催セッション数：180 (2012 年 177, 2011 年 174, 2010 年 167, 2009 年 134)

セッションカテゴリー	開催数	(*国際)
U: ユニオン	7	(*2)
O: パブリック	5	(*0)
P: 宇宙惑星科学	23	(*10)
A: 大気海洋・環境科学	26	(*6)
H: 地球人間圏科学	22	(*8)
S: 固体地球科学	58	(*11)
B: 地球生命科学	10	(*2)
G: 教育アウトリーチ	4	(*0)
M: 学際・広領域	25	(*3)
計	180	(*42)

※(*) 国際セッション数：42

(2012 年 42, 2011 年 41, 2010 年 32, 2009 年 9)

発表論文数：3980 件 (2012 年 3876 件, 2011 年 4044 件, 2010 年 3686 件, 2009 年 3088 件)

口頭発表 2226 件 (2012 年 1975 件, 2011 年 2354 件, 2010 年 2090 件)

ポスター 1754 件 (2012 年 1901 件, 2011 年 1690 件, 2010 年 1596 件)

参加者数：6824 名 (2012 年 7318 名, 2011 年 5809 名, 2010 年 5746 名)

事前参加登録者数：3410 名

全日程 2820 1 日券 590

一般 2357, 小中高教員 32, 大学院生 911, シニア 44, 学部生 66, 高校生 0

当日参加登録者数：1405名

全日程 753 1日券 652

一般 995, 小中高教員 10, 大学院生 329, シニア 16, 学部生 21, 高校生 2

総合案内来場者数：2009名

一般 370, 小中高教員 44, 大学院生 5, シニア 77, 学部生 658, 高校生 221

プレス：112名, 会合参加：115名, 出展関係者：407名

(2) 公開プログラム「高校生によるポスター発表」の開催 [定款第5条(4)]

連合大会において、高校生を対象とした公開プログラム「高校生によるポスター発表」を開催し、高校生の研究成果発表に対して研究者や一般の参加者が聴講し意見交換を行ない、また優秀発表を表彰した。この活動に必要な募集活動、プログラム作成等、開催に必要な作業等を実施した。

開催日：2013年5月19日(日)

場 所：幕張メッセ 国際会議場 2階国際会議室

主 催：公益社団法人日本地球惑星科学連合 広報普及委員会

責任者 原 辰彦(独立行政法人建築研究所、広報普及委員会副委員長)

後 援：千葉県教育委員会, 千葉市教育委員会

発表数：67発表

参加者数：262名(発表高校生207, 他参加者55)

参加高校：40校

愛知県立一宮高等学校, 遺愛女子中学高等学校, 茨城県立土浦第一高等学校, 茨城県立土浦第三高等学校, 茨城県立日立第一高等学校, 茨城県立並木中等教育学校, 栄東高等学校, 横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校, 海城中学高等学校, 宮城県立宮崎北高等学校, 宮城県古川黎明中学校・高等学校, 京都府立桃山高等学校, 京都府立洛東高等学校, 群馬県立前橋女子高等学校, 群馬県立中之条高等学校, 埼玉県立浦和高等学校, 埼玉県立熊谷女子高等学校, 埼玉県立川越女子高等学校, 山陽女子高等学校, 神奈川県立相模原青陵高等学校, 静岡県立伊豆総合高等学校, 静岡県立磐田南高等学校, 千葉県立長生高等学校, 巢鴨高等学校, 大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎, 大阪府立春日丘高等学校 定時制の課程, 長野県屋代高等学校, 長野県諏訪清陵高等学校, 土佐塾中学・高等学校, 島根県立益田高等学校, 島根県立吉賀高等学校, 那須高原海城高等学校, 飯山北高等学校, 福井県立藤島高等学校, 福島県立磐城高等学校, 福島県立福島南高等学校, 兵庫県立加古川東高等学校地学部, 兵庫県立三田祥雲館高等学校, 北海道室蘭栄高等学校, 明成高等学校

表彰発表：

最優秀賞(1件)

大阪府立春日丘高等学校 定時制の課程

『微小重力をつくる ～小型微小重力実験落下装置の製作と改良～ 第3報』

優秀賞(3件)

静岡県立磐田南高等学校

『高高度発光現象エルブスに伴う縞構造の発見と電離圏擾乱との関係』

大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎

『気象台保管の地震波形記録を用いた解析』

飯山北高等学校

『野沢温泉における沈殿物の研究』

奨励賞（7件）

佳作（19件）

(3) 地球惑星科学関連、教育機関、学協会、プロジェクトの紹介・展示 [定款第5条(4)]

地球惑星科学に関連した教育機関、学協会、ならびに各種プロジェクトについて、関係者らのみならず、高校生を含む一般に紹介・広報することを目的に、プロジェクトを推進する諸機関、団体に対して連合大会会場にて展示活動を支援する場を設けた。これらの紹介・展示に関わる募集活動、展示準備作業等を行なった。

出展関係者入場者数：407名

団体展示：63ブース（2012年43, 2011年44, 2010年48）

大学インフォメーションパネル：11大学（2012年13, 2011年11, 2010年10）

(4) 地球惑星科学関連資料・書籍の展示・頒布 [定款第5条(4)]

毎年、多数の地球惑星科学に関連する書籍、資料が公刊されているが、それらに対するアクセスは必ずしも容易ではないことから、連合大会のうちに、これらを多数展示し、頒布するための場を設けて、地球惑星科学関連の研究、教育に携わる人々や、高校生を含む一般の方々に利用促進をはかった。これらの活動に必要な手配や現場での作業を行なった。

書籍出版(関連商品)：25（2012年29, 2011年26, 2010年26）

学協会エリア：個別デスク9（2012年10, 2011年10, 2010年12）

パンフレットデスク展示：10（2012年8, 2011年11, 2010年9）

2. 学術推進にかかわる事業

(1) 学術雑誌等の出版 [定款第5条(2)]

国際情報発信力強化を目的に、準備を進めてきた JpGU の新規ジャーナルオープン・アクセス(OA) 電子ジャーナルについて、2014年創刊を予定し、系統的に準備を行った。出版社の選定を行い、SPRINGER社と契約した。

ジャーナル名称は「Progress in Earth and Planetary Science」と決定された、また、ジャーナル出版のための委員会の設置、理事会との関係などジャーナル出版に関係した組織を構築した。そして、公益社団法人日本地球惑星科学連合の中にジャーナル事業を行う独立の組織「ジャーナル出版事務局」を開設し、出版事務遂行、一般事務遂行の人員を雇用了。さらに、財政については、科学研究費補助金(研究成果公開促進費)に応募し、日本学術振興会から高品質のジャーナルを出版するための科学研究費補助金を獲得した。現在、公益社団法人日本地球惑星科学連合独自の費用も含めて、ジャーナル出版促進体制が構築できた、さらに、情報発信の高度化のために専用ホームページの整備作成、投稿システムの立ち上げ準備を行い、10月

末から投稿受付を開始した。高品質の論文投稿を促進する施策として、①著名研究者への原稿依頼②地球惑星科学の知識などを整理した レビュー（総論）のための国際シンポジウムのサポート③2013 連合大会の多角的・統合的な成果の発表の中からコンビナー推薦の優秀発表への 投稿依頼を行った。現在、17 件の投稿があり、2 月に創刊される予定である。また、広く新ジャーナルの認知を得るために広報活動にも努めた。AGU、AOGS、IGU などの国際会議へのブース出展やパンフレットへの広告掲載を行うなど新ジャーナルを広く周知する取組を行った。さらに、連合大会と連携した海外情報発信強化・引用促進のアピールサイトの準備をおこなった。

【主な委員会の開催および活動】

- ・4月2日ジャーナル編集・運営委員会（仮称）開催（東京大学地震研究所会議室）
- ・4月5日公告「公益社団法人日本地球惑星科学連合 新オープンアクセス・電子ジャーナルの出版」を行い、出版社の第一次入札を行った。
- ・4月23日 平成24年11月に申請を行った「平成25年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金）（研究成果公開促進費）」について、日本学術振興会にてヒアリングがあり、津田会長、川幡、中村副会長の3名が参加した。
- ・5月16日「平成25年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金）（研究成果公開促進費）」が採択され、これに伴い6月5日交付申請書を提出した。
- ・5月22日（水）15：15-18：00 連合大会ユニオンセッション「U-04 オープンアクセス電子ジャーナルと学術出版の将来」を開催した また、連合大会中に新ジャーナルの刊行及び論文募集のリーフ配布した。
- ・6月5日公告「公益社団法人日本地球惑星科学連合 新オープンアクセス・電子ジャーナルの出版」発行ボリュームの見直しをおこなったので、再度出版社の入札を行い、シュプリンガーに決定し、7月10日付で正式に契約をした。
- ・6月7日幹事会およびジャーナル編集・運営委員会（仮称）開催（東京大学地震研究所会議室）
- ・7月2日ジャーナル出版部開設（東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル5階）
- ・7月2日企画経営委員会開催（東京フクラシア東京ステーション）
編集長会議開催（Ⅱ）
- ・7月3日担当者打ち合わせ（東北大学）
- ・7月4日担当者打ち合わせ（北海道大学）
- ・7月9日編集長会議開催（東京 WTC コンファレンスセンター）
- ・7月26日編集長会議開催（東京 WTC コンファレンスセンター）
- ・8月4日-9日 IGU 京都大会 ブース出展
- ・8月16日ジャーナル出版部事務局員採用
- ・8月16日ジャーナルカバーデザイン選定
- ・8月20日編集長会議開催（東京 WTC コンファレンスセンター）
- ・8月21日【平成25年度開催国際シンポジウム対象】 第1回ジャーナル関連特別セッション推進の募集
- ・9月3日企画経営委員会開催（品川インターシティ会議室）
- ・9月3日【平成25年度開催国際シンポジウム対象】 第2回ジャーナル関連特別セッション

ン推進の募集

- ・9月4日ジャーナルに関するQ&A更新
- ・9月10日【2014年大会開催国際セッション対象】ジャーナル関連特別国際セッション推進

の募集

- ・10月1日ジャーナル出版部編集担当採用（委託）
- ・10月9日編集長会議開催（東京 WTC コンファレンスセンター）
- ・10月18日編集長会議開催（東京 WTC コンファレンスセンター）
- ・10月26日投稿サイトオープン、受付開始
- ・10月29日企画経営委員会開催（TKP ガーデンシティ京都）
- ・11月27日編集長会議開催（TKP 仙台カンファレンスセンター）
- ・11月19日 AGU 発行 EOS に広告掲載
- ・12月3日 AGU 発行 EOS MEETIG WALKING GUAIDE 広告掲載
- ・12月9日-13日 AGU 出展ブースにて、広報
- ・12月26日編集長会議開催（東京 WTC コンファレンスセンター）
- ・平成26年1月25日編集委員会議開催（品川 TKP カンファレンスセンター）

(2) 国際連携事業 [定款第5条(3)]

我が国の地球惑星科学コミュニティを代表して、地球惑星科学に関する国際的な研究協力、交流活動の推進を図るために、ヨーロッパのEGU、米国のAGU、アジアのAOGS等の国際的な学協会と連携協力しながら、地球惑星科学の発展に資する活動を行ない、地球惑星科学に関わる国際会議等の企画、開催、国際的プロジェクトの推進等を行うための準備を進めた。EGU、AOGSとは、それぞれが主催する学術大会において共通のセッションを設け、互いに乗り入れて研究発表を行なった。また、海外で開催される関連学会において、ブースを設置し、日本国内で得られた成果に関する広報、資料頒布等の海外学会展示事業を実施した。

EGU General Assembly 2013 ブース出展

日程：2013年4月7日-12日

会場：ウィーン，オーストリア

AOGS Annual Meeting 2013 ブース出展

日程：2013年6月24日-28日

会場：ブリスベン，オーストラリア

IGU2013 Kyoto Regional Conference ブース出展

日程：2013年8月4日-9日

会場：京都市，日本

- ・地理分野の最大の国際会議において、連合の活動、新ジャーナルの広報を行った。

AGU Fall Meeting 2013 ブース出展

日程：2013年12月9日-13日

会場：サンフランシスコ，アメリカ合衆国

- ・12月10日、Scientific Societies LuncheonにてAGU執行部との情報交換を行った。
- ・12月13日、NASAとのスタッフ会議 2014年大会への参加が確定した。

(3) サイエンスボード活動 [定款第5条(5)]

多様な分野を含む惑星地球科学を、一定の基準のもとにくくり、各々の分野の更なる発展をめざすサイエンスボードを組織し、個々のサイエンスを長期的な視点から、強力に支援する活動を推進した。

■宇宙惑星科学セクション

(未提出)

■大気水圏科学セクション

- ・2013年5月20日(月)13:00~14:00 幕張メッセ国際会議場 301Aにて、ボードミーティング開催。
- ・メーリングリスト等を用いてのボードメンバー間にて、2013年大会学生優秀発表賞選出(4月~6月)、ハイライト論文の選出(4月)、AOGSプログラム委員推薦(5月)、連合ジャーナルの海外Editorial boardメンバー推薦(6月)、JpGUフェロー制度準備委員会委員推薦(6月)、JpGU選挙管理委員会委員推薦(7月)、JpGU2014年大会プログラム委員選出(7月)、等を適宜行った。
- ・趣旨に賛同した学協会と共同で、地球観測衛星の利用コミュニティ(TFコミュニティ)を発足させた(2013年7月)。TFコミュニティとして我が国の地球観測の今後の進め方について、政府への提言を行った(2013年10月)。
- ・連合25周年パンフレットに掲載するセクション紹介の記事を執筆した。
- ・日本学術会議が取りまとめた「夢ロードマップ」の改訂を行った(2013年9月)。

■地球人間圏科学セクション

- ・2013年5月21日(火)13:00~14:00 幕張メッセ 301Bにて、ボードミーティング開催。
- ・2013年8月4日(日)~9日(金)に京都国際会館で開催されたIGU(International Geographical Union)2013年京都国際地理学会議にJpGUの展示ブースを出し、日本地球惑星科学連合のパンフレット等を配布し、コミュニティへの広報活動を行った。
- ・メーリングリスト等を用いてFuture Earth、大型研究、ロードマップ、シンポジウム、PEPS等について頻繁に議論し、また情報発信をした。
- ・日本学術会議地球惑星科学委員会地球人間圏分科会主催、日本地球惑星科学連合ほか共催の公開シンポジウム「増大する災害と地球環境問題に地球人間圏科学はどう取り組むか? (平成25年12月5日(木)に日本学術会議講堂にて開催)をコーディネートし、大きな成果を上げた。
- ・メーリングリスト等を用いてのボードメンバー間の議論を随時行い、連合会員で地球人間圏科学セクション関係者への公募情報、シンポジウム開催など情報発信した。

■固体地球科学セクション

(未提出)

■地球生命科学セクション

- ・ メーリングリスト等を用い、ボードメンバー+代議員により 2013 年大会の学生賞 (5 月～6 月)、ハイライト論文 (2013 年 4 月) の選考をおこなった。大会運営担当としてセクションボードから鈴木庸平委員を推薦した。
- ・ 日本学術会議による大型研究計画への提案書作成の検討 (4～5 月)。
- ・ 2013 年 7 月連合ホームページの地球生命科学セクションの概要を検討した。同時にセクションのホームページの検討を開始した。
- ・ 連合ジャーナルのための適切なトピックスと執筆者の提案 (国内・海外)、ジャーナルの適切な名称の議論、地球生命科学分野の編集委員を審議し、6 名の外国人研究者を編集委員として依頼した。(8 月)
- ・ 2014 年大会へ向けての提案すべきセッション (9 月～10 月)、学生賞の内容の検討、スペシャルレクチャー講師依頼、ハイライト論文選考 (3 月) 手続きを適宜行っている。
- ・ 地球生命科学の夢ロードマップの部分改訂を行なった。(11 月)
- ・ 連合のフェロー制度創設に伴い、地球生命科学分野から数名の候補者の応募をコミュニティにはかった (11 月)。

(4) 各種委員会活動 [定款第 5 条 (5)]

理事会の取り決めにより委員会を組織して、各種事業を進めた。

■総務委員会

- ・ 事業計画書および事業報告書の作成を行った。
- ・ 諸規則の整備を行った。

■財務委員会

- ・ 2014 年 1 月 29 日 (水) 13:00～15:00 連合事務局にて委員会開催。
- ・ 2013 年決算書、2014 年予算書を策定した。連合の運営基盤の強化のために、中長期的に学会運営に関して経理面の課題と対策の検討を行った。

■広報普及委員会

- ・ 連合 2013 年大会でパブリックセッション「高校生によるポスター発表」及び「地球・惑星科学トップセミナー」を開催した。
- ・ 「地球・惑星科学トップセミナー」の映像を記録して動画配信を行った
- ・ 2013 年 11 月 2 日 (土) 14:00～16:00 東京大学本郷キャンパス小柴ホールにて「日本地球惑星科学連合 2013 年秋の公開講演会：深海の底から宇宙の果てまで ～「限界」からこの世界を知る～」を開催した。映像を記録して動画配信を行った。
- ・ ニュースレター誌 JGL を年間 4 号発行した。

- ・メールニュース定期号を年間12件、臨時号を年間約20件程度発信した。
- ・連合HP上で連合の活動や関連トピックスを画像ニュースとして公開した。
- ・連合HPのシステム拡張を行い、委員会やセクション独自のページを担当者が容易に作成・運用できるようにした。・その他、連合の活動及び地球惑星科学分野での最新トピックスや学術会議の活動をコミュニティ内外に迅速に伝えるための活動を行った。

■環境・災害対応委員会

- ・2013年5月21日(水) 13:00~14:30 幕張メッセ101Aにて委員会開催。
- ・2013年10月5日(土) 13:30-15:30 フラクシア品川 D会議室にて委員会開催。
- ・各学協会における環境・災害問題に関する活動状況と緊急災害発生時における各学協会の対応に関する情報交換を行い、連合における緊急災害発生時の対応方策を検討した。
- ・2014年連合大会において、ユニオンセッション「連合は環境・災害にどう向き合っていくのか？」を含む重要課題に関するセッション開催提案を行った。

■男女共同参画委員会

- ・2013年1~5月 キャリア支援委員会と連携して、第4回キャリアパスアンケートを実施した。また、第1~3回のアンケート結果報告を連合大会会場で配布し、ウェブに掲載した(<http://www.jpгу.org/index/about/career.html>)。
- ・2013年3~8月 男女共同参画学協会連絡会が2012年11~12月に実施した大規模アンケートの結果に関し、「アンケート結果解析ワーキンググループ」に参加し、「任期付き雇用問題」に関するパート(第4章)を担当執筆した。
(<http://annex.jsap.or.jp/renrakukai/enquete.html>)
- ・2013年5月19日(日) 14:15~18:00 2013年合同大会の期間中に、パブリックセッション「イクメンプロジェクトと科学者のワーク・ライフ・バランス」を開催した。
(http://www.jpгу.org/meeting_2013/files/2013ikumen_smp.pdf)
- ・2013年5月21日(火) 13:00~14:00 2013年合同大会の期間中に、委員会を開催した。
- ・2013年8月9日(土) JSTの支援事業で、(独)国立女性教育会館が主催の「女子中高生夏の学校2013~科学・技術者のたまごたちへ~」のポスターブースに初出典した。Dr.ナダレンジャーによる科学教育パフォーマンスは好評であり、ポスターランキングで1位を獲得した。関連学協会からは、地球電磁気・地球惑星圏学会(SGEPSS)が継続参加し、日本地形学連合(JGU)も初めて参加した。
- ・2013年10月7日(月) 東洋大学白山キャンパスにて開催された「男女共同参画学協会連絡会第11回シンポジウム」にポスター参加した。
(http://annex.jsap.or.jp/renrakukai/doc_pdf/2013/11th_sympo_report.pdf)
- ・2013年11月~ 男女共同参画学協会連絡会が2012年11~12月に実施した大規模アンケートの結果を踏まえて要望活動を行うための「アンケート結果解析ワーキンググループ」に参加し、要望内容を検討中である。
- ・2014年1月~ キャリア支援委員会と連携して、第5回キャリアパスアンケートを実施中である。

■キャリア支援委員会

- ・2013年1月10日～5月31日に第3回キャリアパスアンケートを全会員を対象に実施し、1393名より回答を得て、速報結果を連合大会次にチラシにて配布した。
- ・2013年5月23日13:00～14:00に連合大会203会場にて、キャリア支援委員会を開催し、H24の活動報告・決算報告ならびにH25の活動予定・予算について審議を行った。
- ・2013年5月23日18:15～19:15連合大会201A会場において、女性の大学教員、科学雑誌編集者、大学以外の研究機関からスピーカーを招き、「キャリアパス説明会」を開催した。
- ・2013年連合大会期間中、3階にて「進路相談ブース」を設置し、大学、研究機関、科学館、博物館、マスコミから6名の協力を得て、進路についての相談と情報提供を行った。

■教育問題検討委員会

- ・2013年5月18日(土)13:00～17:00幕張メッセ301Aにて「地学教育に関するシンポジウム」開催。
- ・2013年5月19日(日)18:30～20:00幕張メッセ201Aにて委員会開催。
- ・2013年5月19日(日)パブリックセッション「防災教育－災害を乗り越えるために私達が子ども達に教えること2」開催。

■情報システム委員会

- ・2013年5月24日(金)12:00～13:00幕張メッセ204にて、業者による投稿システムなどについてのプレゼンテーションがあり、新しい情報を収集した。
- ・2013年5月24日(金)13:00～14:00幕張メッセ101Aにて、委員会開催。
- ・2013年大会システムについては、投稿画面での特殊文字登録の簡略化、学生優秀発表賞5セクション実施に伴う選択メニュー追加、プログラム編成システムの完全英語化、確認メールでのID、パスワード送信分離など他の改修を行った。

■大会運営委員会

- ・2013年連合大会を開催した。
- ・2013年10月18日(金)17:00～19:00東京大学理学部1号館にて委員会開催。
- ・2013年1月17日(金)17:00～19:00東京大学理学部1号館にて委員会開催。
- ・2013年1月23日(木)10:00～12:00東京大学理学部1号館にて2014年大会受付システムプレゼンテーション開催。
- ・メーリングリスト等を用いて委員会ボードメンバー間にて、2014年大会開催について、各事案について検討を行った。

■国際学術委員会

- ・2013年5月23日(木)18:15～19:15幕張メッセ101Aにて委員会開催。
- ・AGUやEGU等の連携海外組織の大会にブースを出展し、本連合や加盟学協会の活動紹介を行った。ブース出展時にあわせて、意見交換の場を設定した。

3. 普及にかかわる事業

(1) 広報・普及誌発行事業 [定款第5条(2)]

研究の推進から得られた科学的成果を広く社会一般に広報し、普及することを目的とするアウトリーチ誌「JGL」を昨年同様に年間4号定期発行した。ニュースレター（JGL）の発行日、部数は以下のとおりである

発行日	No	発行部数
平成25年 5月1日	Vol.9 No.2	30,000部
平成25年 8月1日	Vol.9 No.3	26,000部
平成25年 11月1日	Vol.9 No.4	26,000部
平成26年 2月1日	Vol.10 No.1	26,000部

(2) ウェブ、メールニュースを活用した広報・普及事業 [定款第5条(2)]

連合ウェブサイトや毎月発行のメールニュース等を通して、地球惑星科学に関連する各種ニュースとともに、国内外の学会、シンポジウム、研究集会、公開イベントの情報や、求人・公募情報等を配信した。今期は、基幹となるウェブシステムを新たに整備するとともに、毎月、定期的にメールニュースを発刊した。

発行日	No	種類
平成25年4月10日	No.164	定期04月号
平成25年4月15日	No.165	臨時号
平成25年4月26日	No.166	臨時号
平成25年5月2日	No.167	臨時号
平成25年5月10日	No.168	定期05月号
平成25年5月15日	No.169	臨時号
平成25年5月18日	No.170	臨時号
平成25年6月10日	No.171	定期06月号
平成25年6月17日	No.172	臨時号
平成25年6月20日	No.173	臨時号
平成25年7月10日	No.174	定期07月号
平成25年8月12日	No.175	定期08月号
平成25年8月30日	No.176	臨時号
平成25年9月2日	No.177	臨時号
平成25年9月10日	No.178	定期09月号
平成25年9月20日	No.179	臨時号
平成25年9月27日	No.180	臨時号
平成25年10月10日	No.181	定期10月号
平成25年10月17日	No.182	臨時号
平成25年10月23日	No.183	臨時号
平成25年10月24日	No.184	臨時号
平成25年10月28日	No.185	臨時号
平成25年11月1日	No.186	臨時号
平成25年11月11日	No.187	定期11月号
平成25年11月25日	No.188	臨時号
平成25年12月10日	No.189	定期12月号
平成25年12月24日	No.190	臨時号
平成26年1月8日	No.191	臨時号
平成26年1月10日	No.192	定期1月号
平成26年2月10日		定期2月号
平成26年3月10日		定期3月号

(3) 一般公開講演会の展開 [定款第5条(2)]

社会に対する地球惑星科学関連の研究成果の広報・普及活動を通して、地球惑星科学の発展に資するとともに、安全・安心な社会の構築に寄与することを目的に、一般講演会を開催した。5月の連合大会においてパブリックセッション「地球惑星科学トップセミナー」を開催するとともに、11月には「秋の公開講演会」を開催した。

① 防災教育－災害を乗り越えるために私達が子ども達に教えること2

2013年5月19日(日) 14:15～16:00 千葉幕張メッセ国際会議場 303号室にて5講演が行われた。参加者数 100名

②地球・惑星科学トップセミナー

2013年5月19日(日) 9:45～11:30 千葉幕張メッセ国際会議場国際会議室にて3講演が行われた。参加者数 300名

③イクメンプロジェクトと科学者のワーク・ライフ・バランス

2013年5月19日(日) 14:15～16:00 千葉幕張メッセ国際会議場 101A号室にて6講演が行われた。参加者数 30名

④日本のジオパーク－新規ジオパーク公開審査とジオパークの紹介－

2013年5月20日(月) 9:00～17:40 千葉幕張メッセ国際会議場国際会議室にて13のジオパーク地区によるプレゼンテーション・公開審査が行われた。参加者数 300名

⑤2013年秋の講演会

深海の底から宇宙の果てまで ～「限界」からこの世界を知る～

2013年11月2日(日) 14:00～17:00 東京大学本郷キャンパス小柴ホールにて3講演が行われた。参加者数 120名

4. 教育・キャリア支援・社会還元にかかわる事業

(1) 国際地学オリンピック活動支援 [定款第5条(2)]

国際地学オリンピックなどの国際的な活動を通じて、多くの高校生がサイエンスにより深く触れてもらう機会を提供することを目的に、地学オリンピック事業に関連する支援と活動を積極的に進めた。9月11日から19日までインドのマイソールで第7回国際地学オリンピックアルゼンチン大会が開催され、日本の成績は金1銀3であった。今後も、英語力増強に力を入れて行く必要があることを確認した。A0入試用に地学オリンピックの二次選抜に残った高校生には証明書を発行しており、徐々に地学オリンピックをA0入試に採用する大学が増えつつある現状にある。本大会は、2014年のアメリカ、2015年のロシアの次に2016年に日本の三重県で開催されることが決定している。また、3月23日から25日につくば市で開催される第6回日本地学オリンピック本選にて、「日本地球惑星科学連合賞」を設立し、本選で最優秀成績を獲得した女性に賞状ならびに記念品の授与を行い、参加高校生のモチベーションの向上を図り、

本活動への支援の強化を行った。(2/1 理事会提案内容承認時)

(2) 国際地理オリンピック活動支援 [定款第5条(2)]

地理オリンピックに関連する活動と支援を行なった。平成25年度は、国際地理学連合(IGU)の国際会議に合わせて7月30日から8月5日に京都市にて第10回国際地理オリンピックが京都で開催された。日本の成績は、銀1銅1であり、2名の受賞は、日本の参加以来初の好成績であった。日本での開催にあたり、委員会より申し出があったので、理事会で検討結果、50万円の賛助金の追加支援を行った。2014年は8月に、ポーランドのクラクフにて第11回国際大会が行われ、国内選抜が1月から3月に行われた。

(3) 教育問題対応事業 [定款第5条(2)]

学校教育および社会教育における地球惑星科学に関わる諸問題に対し以下の活動を行なった。

・平成25年5月18日幕張メッセ国際会議場にて、教育問題検討委員会主催地学教育シンポジウムを開催し、次期学習指導要領における高校地学教育の在り方について、基礎的な議論を行った。

・平成25年5月19日幕張メッセ国際会議場にて、教育問題検討委員会(総会)を開催し、教員養成等小委員会の活性化を討議した。

・平成25年7月20日第44回教育課程小委員会開催(都立両国高校)。次期高校学習指導要領改訂に向けた検討体制作りおよび文科省・各都道府県教委等への働きかけについて検討した。

・平成25年9月24日第45回教育課程小委員会開催(都立両国高校)。次期高校学習指導要領改訂における科目設定を検討するWGを立ち上げた。

・平成25年12月2日第46回教育課程小委員会開催(都立両国高校)。次期高校学習指導要領改訂における科目設定について、各WGごとに検討を始めた。

・平成26年1月13日第47回教育課程小委員会開催(都立両国高校)。次年度連合大会での地学教育パブリックセッションの準備日程および内容について検討を行った。

・平成26年2月23日第48回教育課程小委員会開催予定(海城高校)

・平成26年3月第49回教育課程小委員会開催予定

【その他】

・平成25年5月19日(日)パブリックセッション「防災教育―災害を乗り越えるために私達子ども達に教えること2」を開催。

・平成25年8月21・22日の二日間、京都大学防災研究所にて「防災知識の普及に向けた地学教育の現状とその改革」を共催。

・平成25年12月26・27日の二日間、東京大学地震研究所にて研究集会開催者と(公社)日本地震学会との共催による東京大学地震研究所共同利用研究集会「地震の研究者と小・中・高等学校教員との連携―地震教育の現状に即した知識普及活動を目指して―」を開催。

(4) 教員免許更新講習会の開催準備 [定款第5条(1)]

先に開催実績のある日本地震学会へ協力をおこなうこととし、教育問題検討委員会のメンバ

一が講師として参加した。

(5) 連合大会における「学生優秀発表」の表彰 [定款第5条(2)]

学生優秀発表賞(学生賞)は、4回目の実施であるが、参加セクションは、大気水圏科学、地球人間圏科学、固体地球科学、地球生命科学の4セクション、エントリー数は倍増となった。学生の研究のモチベーションと発表技術の向上を掲げたこの賞は、当初の目標を達成して学生の資するところは大きかったと考えられる。また、2014年大会において、宇宙惑星科学セクションの参加が確定したことから、学生優秀発表賞のシステムの充実を図り、制度の安定的な運営を目的に、WEBシステムの増強を行った。

■大気水圏科学セクション

受賞者:	岡本 功太 (東京大学)	土屋 主税 (東京大学)
	高谷 怜 (東京大学)	中野 貴史 (京都大学)
	江端 一徳 (山梨大学)	安田 勇輝 (東京大学)
	辻野 智紀 (名古屋大学)	

■地球人間圏科学セクション

受賞者:	Rupprecht (Griffith University)	永井 裕人 (名古屋大学)
	Christoph	
	Mohammad (埼玉大学)	中村 祐貴 (東京大学)
	Rajib	
	山田 圭太郎 (京都大学)	佐藤 善輝 (九州大学)
	横田 彰宏 (日本大学)	

■固体地球科学セクション

受賞者:	青木 将 (京都大学)	大辻 奈穂 (新潟大学)
	竹尾 明子 (東京大学)	(コロラドスクールオブマインズ)
	安川 和孝 (東京大学)	野村 龍一 (東京工業大学)
	仁里 太郎 (広島大学)	田中 良 (北海道大学)
	菅井 秀翔 (東京大学)	照沢 秀司 (東京大学)
	石毛 康介 (北海道大学)	尾崎 守 (茨城大学)
	藤井 昌和 (東京大学)	倉富 隆 (九州大学)
	澤井 みち代 (広島大学)	石塚 師也 (京都大学)
	椎名 高裕 (東北大学)	安田 奈央 (金沢大学)
	小林 真大 (東京大学)	吉田 圭佑 (東北大学)
	大石 佑輔 (高知大学)	西脇 隆文 (広島大学)
	白石 智子 (愛媛大学)	

■地球生命科学セクション

受賞者:	原田 真理子 (東京大学)	徳永 紘平 (広島大学)
	清水 啓介 (東京大学)	

(6) 男女共同参画事業 [定款第5条(6)]

男性女性問わず、共にその人権を尊重しつつ責任を分かち合い、個性と能力を発揮できる環境とネットワークを整備することを目的として、地球惑星科学分野ならびに社会の健全な発展に資する活動を行った。当連合に加盟している学会の男女共同参画に関する状況や取り組みの情報交換を行なうとともに、男女研究者間ならびに国際間のワークライフバランスを考えるために、連合大会時に“イクメン”シンポジウムを開催した。このため、キャリア支援委員会とも

連携し、会員属性アンケートを共同実施していた。その解析結果については、連合大会時に速報し、学協会連絡会シンポジウムでもポスター発表を行った。

(7) キャリア支援事業 [定款第5条(6)]

現在、特にポストク問題を始め、博士号取得者の就職は社会問題化している。連合では、この問題を重視し、メールニュースを通して、多数の就職情報を流す等、積極的にキャリアパス支援事業を実施した。

(8) 自然災害(風水害、地震、火山、津波、環境)対応 [定款第5条(1)]

風水害、地震、火山、津波などの自然災害の解明と対策への科学的提言は、地球惑星科学の極めて重要な役割である。また、地球温暖化問題に代表される人間社会に起因する環境劣化と持続的社会構築への科学的提言もしかりである。環境災害対応委員会では、地球惑星科学コミュニティをあげて、これらの多様な自然災害への対応を強化すべく、検討を進めた。

II. 処務の状況

1. 役員等に関する事項

(1) 公益社団法人第2期会長、理事、幹事

役 職	氏 名	所 属
会 長	津 田 敏 隆	京 都 大 学
副 会 長	川 幡 穂 高	東 京 大 学
〃	木 村 学	東 京 大 学
〃	中 村 正 人	宇 宙 航 空 研 究 開 発 機 構
理 事	ウオリス サイモン	名 古 屋 大 学
〃	小 口 高 史	東 京 大 学
〃	奥 村 晃 史	広 島 大 学
〃	北 和 之 志	茨 城 大 学
〃	古 村 孝 志	東 京 大 学
〃	佐 藤 薫	京 大 学
〃	杉 田 倫 明	筑 波 大 学
〃	瀧 上 豊	関 東 学 園 大 学
〃	竹 村 恵 二	京 都 大 学
〃	田 近 英 一	東 京 大 学
〃	成 瀬 元	京 都 大 学
〃	西 弘 嗣	東 北 大 学
〃	島 山 正 恒	聖 光 学 院 中 学 高 等 学 校
〃	浜 野 洋 三	海 洋 研 究 開 発 機 構
〃	松 本 淳 一	首 都 大 学 東 京
〃	渡 邊 誠 一	名 古 屋 大 学
監 事	松 浦 充 宏	
〃	鈴 木 善 和	

(2) 公益社団法人第2期（平成24年度）社員

個人96名

(定款第11条 代議員の定数は、80名以上200名以内で社員総会において別に定める数とする。)

宇宙惑星科学選出 15名

大村 善治 (京 都 大 学)	中村 正人 (宇 宙 航 空 研 究 開 発 機 構)
小嶋 浩嗣 (京 都 大 学)	中本 泰史 (東 京 工 業 大 学)
佐々木 晶 (国 立 天 文 台)	藤井 良一 (名 古 屋 大 学)
高橋 幸弘 (北 海 道 大 学)	藤本 正樹 (宇 宙 航 空 研 究 開 発 機 構)
田近 英一 (東 京 大 学)	坂本 尚義 (北 海 道 大 学)
長妻 努 (情 報 通 信 研 究 機 構)	渡部 潤一 (国 立 天 文 台)
永原 裕子 (東 京 大 学)	渡邊誠一郎 (名 古 屋 大 学)
中村 昭子 (神 戸 大 学)	

大気水圏科学選出 18名

大手 信人 (東 京 大 学)	知北 和久 (北 海 道 大 学)
沖 理子 (宇 宙 航 空 研 究 開 発 機 構)	津田 敏隆 (京 都 大 学)
河宮 未知生 (海 洋 研 究 開 発 機 構)	角皆 潤 (北 海 道 大 学)
北 和之 (茨 城 大 学)	中島 映至 (東 京 大 学)
近藤 豊 (東 京 大 学)	花輪 公雄 (東 北 大 学)
佐藤 薫 (東 京 大 学)	原田 尚美 (海 洋 研 究 開 発 機 構)
杉田 倫明 (筑 波 大 学)	日比谷紀之 (東 京 大 学)
鈴木 啓助 (信 州 大 学)	真木 雅之 (防 災 科 学 技 術 研 究 所)

田中 博 (筑 波 大 学)

吉田 尚弘 (東 京 工 業 大 学)

地球人間圏科学選出 13名

荒井 良雄 (東 京 大 学)
碓井 照子 (奈 良 大 学)
小口 高 (東 京 大 学)
小口 千明 (埼 玉 大 学)
奥村 晃史 (広 島 大 学)
海津 正倫 (奈 良 大 学)
佐竹 健治 (東 京 大 学)

須貝 俊彦 (東 京 大 学)
鈴木 毅彦 (首 都 大 学 東 京)
島津 弘 (立 正 大 学)
春山 成子 (三 重 大 学)
氷見山幸夫 (北 海 道 教 育 大 学)
松本 淳 (首 都 大 学 東 京)

固体地球科学選出 29名

吾妻 崇 (産 業 技 術 総 合 研 究 所)
石渡 明 (東 北 大 学)
岩森 光 (東 京 工 業 大 学)
入船 徹男 (愛 媛 大 学)
ウオリス サ
イモン (名 古 屋 大 学)
歌田 久司 (東 京 大 学)
大谷 栄治 (東 北 大 学)
鍵 裕之 (東 京 大 学)
加藤 照之 (東 京 大 学)
金嶋 聰 (九 州 大 学)
川勝 均 (東 京 大 学)
木村 学 (東 京 大 学)
古村 孝志 (東 京 大 学)
鈴木 勝彦 (海 洋 研 究 開 発 機 構)
竹村 恵二 (京 都 大 学)

田中 愛幸 (東 京 大 学)
谷岡勇市郎 (北 海 道 大 学)
田部井隆雄 (高 知 大 学)
中田 節也 (東 京 大 学)
成瀬 元 (京 都 大 学)
西村 裕一 (北 海 道 大 学)
浜野 洋三 (海 洋 研 究 開 発 機 構)
深畑 幸俊 (京 都 大 学)
藤井 敏嗣 (環 境 防 災 総 合 政 策 研 究 機 構)
古屋 正人 (北 海 道 大 学)
松澤 暢 (東 北 大 学)
宮崎 一博 (産 業 技 術 総 合 研 究 所)
宮下 純夫 (新 潟 大 学)
山崎 俊嗣 (産 業 技 術 総 合 研 究 所)

地球生命科学選出 9名

井龍 康文 (名 古 屋 大 学)
遠藤 一佳 (東 京 大 学)
大河内直彦 (海 洋 研 究 開 発 機 構)
掛川 武 (東 北 大 学 大 学 院)
川幡 穂高 (東 京 大 学)

北里 洋 (海 洋 研 究 開 発 機 構)
北村 晃寿 (静 岡 大 学)
西 弘嗣 (東 北 大 学)
真鍋 真 (国 立 科 学 博 物 館)

地球惑星科学総合選出 12名

阿部 國廣 (無 し)
熊谷 英憲 (海 洋 研 究 開 発 機 構)
古宇田亮一 (産 業 技 術 総 合 研 究 所)
佐野 有司 (東 京 大 学)
芝川 明義 (大 阪 府 立 花 園 高 等 学 校)
瀧上 豊 (関 東 学 園 大 学)

中川 貴司 (海 洋 研 究 開 発 機 構)
畠山 正恒 (聖 光 学 院 中 学 高 等 学 校)
宮嶋 敏 (埼 玉 県 立 深 谷 第 一 高 等 学 校)
矢島 道子 (地 質 情 報 整 備 ・ 活 用 機 構)
山本 高司 (川 崎 地 質 (株))
横山 広美 (東 京 大 学)

団体会員 49

日本宇宙生物科学会
日本応用地質学会
日本温泉科学会
日本海洋学会
日本火山学会
形の科学会

生態工学会
生命の起原および進化学会
石油技術協会
日本雪氷学会
日本測地学会
大気化学研究会

地理科学学会
日本地理学会
日本地理教育学会
地理教育研究会
地理情報システム学会
東京地学協会

日本活断層学会	日本堆積学会	東北地理学会
日本気象学会	日本第四紀学会	土壌物理学会
日本鉱物科学会	日本地学教育学会	日本粘土学会
日本国際地図学会	地学団体研究会	日本農業気象学会
日本古生物学会	日本地下水学会	物理探査学会
日本沙漠学会	日本地球化学会	日本陸水学会
資源地質学会	地球環境史学会	陸水物理研究会
日本地震学会	地球電磁気・地球惑星圏学会	日本リモートセンシング学会
日本情報地質学会	日本地形学連合	日本惑星科学会
日本水文科学会	日本地質学会	

(3) セクションボード

宇宙惑星科学セクション

大村 善治 (京 都 大 学)	中村 昭子 (宇宙航空研究開発機構)
佐々木 晶 (国 立 天 文 台)	中村 正人 (宇宙航空研究開発機構)
高橋 幸弘 (北 海 道 大 学)	中本 泰史 (東 京 工 業 大 学)
小嶋 浩嗣 (京 都 大 学)	藤井 良一 (名 古 屋 大 学)
田近 英一 (東 京 大 学)	藤本 正樹 (宇宙航空研究開発機構)
常田 佐久 (国 立 天 文 台)	塚本 尚義 (北 海 道 大 学)
長妻 努 (情 報 通 信 研 究 機 構)	渡部 潤一 (国 立 天 文 台)
永原 裕子 (東 京 大 学)	渡邊誠一郎 (名 古 屋 大 学)

大気水圏科学セクション

中島 映至 (東 京 大 学)	多田 隆治 (東 京 大 学)
杉田 倫明 (筑 波 大 学)	知北 和久 (北 海 道 大 学)
川合 義美 (海洋研究開発機構)	花輪 公雄 (東 北 大 学)
沖 理子 (宇宙航空研究開発機構)	日比谷紀之 (東 京 大 学)
神沢 博 (名 古 屋 大 学)	松本 淳 (首 都 大 学 東 京)
鬼頭 昭雄 (気 象 庁)	村山 泰啓 (情 報 通 信 研 究 機 構)
近藤 豊 (東 京 大 学)	

地球人間圏科学セクション

氷見山幸夫 (北 海 道 教 育 大 学)	小口 千明 (埼 玉 大 学)
佐竹 健治 (東 京 大 学)	後藤 和久 (東 北 大 学)
春山 成子 (三 重 大 学)	近藤 昭彦 (千 葉 大 学)
島津 弘 (立 正 大 学)	須貝 俊彦 (東 京 大 学)
荒井 良雄 (東 京 大 学)	鈴木 毅彦 (首 都 大 学 東 京)
井田 仁康 (筑 波 大 学)	鈴木 康弘 (名 古 屋 大 学)
碓井 照子 (三 重 大 学)	千木良雅弘 (京 都 大 学)
海津 正倫 (東 京 大 学)	藤原 広行 (防 災 科 学 技 術 研 究 所)
岡本 耕平 (名 古 屋 大 学)	松本 淳 (首 都 大 学 東 京)
奥村 晃史 (広 島 大 学)	渡辺 悌二 (北 海 道 大 学)
小口 高 (東 京 大 学)	

固体地球科学セクション

大谷 栄治 (東 北 大 学)	鈴木 勝彦 (海洋研究開発機構)
歌田 久司 (東 京 大 学)	田中 聡 (海洋研究開発機構)
木村 純一 (海洋研究開発機構)	中川 光弘 (北 海 道 大 学)
入船 徹男 (愛 媛 大 学)	中田 節也 (東 京 大 学)
岩森 光 (東 京 工 業 大 学)	成瀬 元 (京 都 大 学)
ウオリス サイモン (名 古 屋 大 学)	西山 忠男 (熊 本 大 学)
大久保修平 (東 京 大 学)	古村 孝志 (東 京 大 学)

金川 久一 (千葉大学)
唐戸俊一郎 (イェール大学)
川勝 均 (東京大学)
サティッシュ クマール マドスーダン

日置 幸介 (北海道大学)
松澤 暢 (東北大学)
道林 克禎 (静岡大学)
(新潟大学)

地球生命科学セクション

北里 洋 (海洋研究開発機構)
小林 憲正 (横浜国立大学)
川幡 穂高 (東京大学)
生形 貴男 (静岡大学)
高野 淑識 (海洋研究開発機構)
稲垣 史生 (海洋研究開発機構)
遠藤 一佳 (東京大学)

大河内直彦 (海洋研究開発機構)
鈴木 庸平 (東京大学)
奈良 岡浩 (九州大学)
西 弘嗣 (東北大学)
真鍋 真 (国立科学博物館)
山岸 明彦 (東京薬科大学)

(4) 委員会等

総務委員会

古村 孝志 (東京大学)
大村 善治 (京都大学)
中村 正人 (宇宙航空研究開発機構)
近藤 忠 (大阪大学)
棚部 一成 (東京大学)
西村 浩一 (名古屋大学)
平田 岳史 (京都大学)
川合 義美 (海洋研究開発機構)

成瀬 元 (京都大学)
吉田 武 (東北大学)
岩上 直幹 (東京大学)
篠原 雅尚 (東京大学)
中島 健介 (九州大学)
野村 文明 (株式会社クレアリア)
大湊 隆雄 (東京大学)
掛川 武 (東北大学)

財務委員会

西 弘嗣 (東北大学)
北 和之 (茨城大学)
山田 泰広 (京都大学)

向山 栄 (国際航業株式会社)
高野 修 (石油資源開発株式会社)

広報普及委員会

田近 英一 (東京大学)
杉田 倫明 (筑波大学)
阿部 彩子 (東京大学)
内山 高 (山梨県環境科学研究所)
大河内直彦 (海洋研究開発機構)
梶井 克純 (京都大学)
久利 美和 (東北大学)
斉藤 眞 (産業技術総合研究所)
瀧上 豊 (関東学園大学)
谷 篤史 (大阪大学)
東宮 昭彦 (産業技術総合研究所)
西尾 文彦 (千葉大学)
水垣 桂子 (産業技術総合研究所)
山田 耕 (早稲田大学)
吉本 和生 (横浜市立大学)
若林 芳樹 (首都大学東京)

松本 淳 (首都大学東京)
原 辰彦 (建築研究所)
安藤 寿男 (茨城大学)
大木 聖子 (東京大学地震研究所)
奥村 晃史 (広島大学)
川合 義美 (海洋研究開発機構)
黒石 裕樹 (国土地理院)
高橋 幸弘 (北海道大学)
橘 省吾 (北海道大学)
辻村 真貴 (筑波大学)
成瀬 元 (京都大学)
氷見山幸夫 (北海道教育大学)
宮本 英昭 (東京大学)
横山 広美 (東京大学)
渡辺 俊樹 (名古屋大学)

環境・災害対応委員

松本 淳 (首都大学東京)
木村 学 (東京大学)

奥村 晃史 (広島大学)
後藤真太郎 (立正大学)

後藤 和久 (東北大学)
 小田 啓邦 (産業技術総合研究所)
 中村 尚 (東京大学)
 石峯 康浩 (国立保健医療科学研究所)
 小荒井 衛 (国土地理院)
 黒木 貴一 (福岡教育大学)
 松島 大 (千葉工業大学)
 柳澤 教雄 (産業技術総合研究所)
 大塚 康範 (応用地質(株))
 加藤 俊吾 (首都大学東京)
 吾妻 崇 (産業技術総合研究所)
 田力 正好 (地震予知総合研究振興会)
 陶野 郁雄 (国立環境研究所)
 中村 洋一 (宇都宮大学)
 吉川 顕正 (九州大学)

後藤 秀昭 (広島大学)
 宇根 寛 (国土地理院)
 石原 正仁 (京都大学)
 西村 浩一 (名古屋大学)
 近藤 昭彦 (千葉大学)
 真木 雅之 (防災科学技術研究所)
 村山 良之 (山形大学)
 大野 博之 ((株)環境地質)
 榊原 正幸 (愛媛大学)
 須貝 俊彦 (東京大学)
 田所 敬一 (名古屋大学)
 林 武司 (秋田大学)
 卜部 厚志 (新潟大学)
 川畑 大作 (産業技術総合研究所)

男女共同参画委員会

竹村 恵二 (京都大学)
 小口 千明 (埼玉大学)
 小川 佳子 (会津大学)
 坂野井和代 (駒澤大学)
 阿部 隆 (日本女子大学)
 清野 直子 (気象研究所)
 山野 誠 (東京大学)
 天野 敦子 (産業技術総合研究所)
 佐々木 緑 (広島修道大学)
 堀 利栄 (愛媛大学)
 渡邊眞紀子 (首都大学東京)
 紺屋 恵子 (海洋研究開発機構)
 前田佐和子 (京都女子大学)
 宋 苑瑞 (東京大学)
 鎌谷 紀子 (気象大学校)

中村 正人 (宇宙航空研究開発機構)
 坂野井 健 (東北大学)
 富樫 茂子 (産業技術総合研究所)
 吉田 武義 (東北大学)
 大湊 隆雄 (東京大学地震研究所)
 田島 文子 (ミュンヘン大学)
 薮崎 志穂 (福島大学)
 土屋 範芳 (東北大学)
 楊 宋興 (東京農工大学)
 川合 義美 (海洋研究開発機構)
 村山 祐司 (筑波大学)
 新井真由美 (日本科学未来館)
 若狭 幸 (筑波大学)

キャリア支援委員会

佐藤 薫 (東京大学)
 坂野井和代 (駒澤大学)
 高橋 幸弘 (北海道大学)
 伊藤 谷生 (帝京平成大学)
 榎森 啓元 (秀明大学)
 北里 洋 (海洋研究開発機構)
 佐藤 英人 (帝京大学)
 大石 哲 (神戸大学)
 橘 省吾 (北海道大学)
 富樫 茂子 (産業技術総合研究所)
 藤光 康宏 (九州大学)
 山田 耕 (早稲田大学)
 渡辺 秀文 (東京都総務局総合防災部)

栗田 敬 (東京大学)
 市原 美恵 (東京大学)
 渡辺誠一郎 (名古屋大学)
 浜野 洋三 (海洋研究開発機構)
 小口 千明 (埼玉大学)
 佐々木和彦 (応用地質株式会社)
 末吉 哲雄 (海洋研究開発機構)
 田近 英一 (東京大学)
 津野 宏 (横浜国立大学)
 永原 裕子 (東京大学)
 松山 洋 (首都大学東京)
 渡邊公一郎 (九州大学)

教育問題検討委員会

畠山 正恒 (聖光学院中学高等学校)
 根本 泰雄 (桜美林大学)
 瀧上 豊 (関東学園大学)
 中井 睦美 (大東文化大学)

渡辺誠一郎 (名古屋大学)
 阿部 國廣 (無し)
 宮嶋 敏 (深谷第一高等学校)
 中井 仁 (茨木工科高等学校)

高橋 栄一	(東京工業大学)	大村 善治	(京都大学)
奥野 誠	(東京大学)	武田 和久	(株)開発設計コンサルタント
島田 浩二	(東京海洋大学)	吉本 充宏	(北海道大学)
萬年 一剛	(神奈川県温泉地学研究所)	松浦 執	(東海大学)
廣内 大助	(信州大学)	赤井 純治	(新潟大学)
西木 敏夫	(目白学園)	間嶋 隆一	(横浜国立大学)
藤本光一郎	(東京学芸大学)	宮下 敦	(成蹊中学校・高等学校)
伊東 明彦	(宇都宮大学)	山野 誠	(東京大学)
坂本 正徳	(國學院大學)	辻村 真貴	(筑波大学)
近藤 昭彦	(千葉大学)	新井真由美	(日本科学未来館)
三田 肇	(福岡工業大学)	佐溝 信幸	(無し)
納口 恭明	(防災科学技術研究所)	里村 幹夫	(静岡大学)
松本 剛	(琉球大学)	林田佐智子	(奈良女子大学)
伊藤 孝	(茨城大学)	加藤 禎夫	(松山高等学校)
南島 正重	(両国高等学校)	林 慶一	(甲南大学)
久津間文隆	(川越初雁高校)	宮岡 邦任	(三重大学)
津野 宏	(横浜国立大学)	藤 浩明	(京都大学)
島津 弘	(立正大学)	芝川 明義	(花園高等学校)
大谷 具幸	(岐阜大学)	前杵 英明	(広島大学)
滝沢由美子	(帝京大学)	竹内 裕一	(千葉大学)
海東 達也	(都立竹早高校)	谷 謙二	(埼玉大学)
西城 潔	(宮城教育大学)	山崎 淳司	(早稲田大学)
林 陽生	(筑波大学)	松島 潤	(東京大学)
三ヶ田 均	(京都大学)	山田 伸之	(福岡教育大学)
濱田 浩美	(千葉大学)	宮崎 忠國	(東京農業大学)
佐々木 晶	(国立天文台)	縣 秀彦	(国立天文台)
鈴木 文二	(春日部女子高等学校)	小寺 浩二	(法政大学)
山下 敏	(熊谷女子高等学校)	小川 康雄	(東京工業大学)

情報システム委員会

小口 高	(東京大学)	西村 光史	(東洋大学)
今西 和俊	(産業技術総合研究所)	篠原 育	(宇宙航空研究開発機構)
古村 孝志	(東京大学地震研究所)	坂口 有人	(海洋研究開発機構)
西田 究	(東京大学)	黒沢 正紀	(筑波大学)
高木 哲一	(産業技術総合研究所)	前野 深	(東京大学)
金田平太郎	(千葉大学)	三河内 岳	(東京大学)
宮越 昭暢	(産業技術総合研究所)	鍵 裕之	(東京大学)
清水 久芳	(東京大学)	中山 大地	(首都大学東京)
柳澤 教雄	(産業技術総合研究所)	熊原 康博	(群馬大学)
財城真寿美	(成蹊大学)	小寺 浩二	(法政大学)
濱田 浩美	(千葉大学)	笠井 康子	(通信総合研究所)
近藤 康久	(東京工業大学)		

学術出版委員会

石井 守	(情報通信研究機構)	村上 隆	(東京大学)
小口 高	(東京大学)	田近 英一	(東京大学)
宮本 英昭	(東京大学)	大谷 栄治	(東北大学)
井龍 康文	(名古屋大学)		

大会運営委員会

浜野 洋三	(海洋研究開発機構)	北 和之	(茨城大学)
岩上 直幹	(東京大学)	高橋 幸弘	(北海道大学)
中村 昭子	(神戸大学)	財城真寿美	(成蹊大学)

竹内 望	(千葉大学)	興野 純	(筑波大学)
小嶋 浩嗣	(京都大学)	知北 和久	(北海道大学)
近藤 昭彦	(千葉大学)	金川 久一	(千葉大学)
鈴木 庸平	(東京大学)	中本 泰史	(東京工業大学)
河宮 未知生	(海洋研究開発機構)	黒澤 正紀	(筑波大学)
目代 邦康	(自然保護助成基金)	井出 哲	(東京大学)
村山 泰啓	(情報通信研究機構)	今西 和俊	(産業技術総合研究所)
篠原 育	(宇宙航空研究開発機構)	坂口 有人	(海洋研究開発機構)
西村 光史	(東洋大学)		
西田 究	(東大地震研究所)		

国際学術委員会

ウォリス サイモン	(名古屋大学)	藤本 正樹	(宇宙航空研究開発機構)
石渡 明	(東北大学)	加藤 照之	(東京大学)
村山 泰啓	(情報通信研究機構)	藤田 英輔	(防災科学技術研究所)
木村 学	(東京大学)	大谷 栄治	(東北大学)
大村 善治	(京都大学)	多田 隆治	(東京大学)
春山 成子	(三重大学)	遠藤 一佳	(東京大学)
小林 憲正	(横浜国立大学)	田島 文子	(LMU ミュンヘン大学)

フェロー審査委員会

川勝 均	(東京大学)	藤井 良一	(名古屋大学)
日比谷紀之	(東京大学)	春山 成子	(三重大学)
山岸 明彦	(東京薬科大学)		

2. 役員会等に関する事項

(1) 平成25年定期社員総会

平成25年5月22日(水)19:00~20:00、幕張メッセ国際会議場203号室において開催。

次の議案が付議され、原案通り承認された。

開催月日	議 事 事 項	
5月22日	第1号議案 平成24年度(公益社団法人第2期)決算承認の件 第2号議案 役員候補者推薦委員会委員選任の件	承認 承認

(2) 理事会

7回開催した。主要決議事項は以下の通りである。

開催月日	議 事 事 項	
平成25年 5月20日(第1回)	第1号議案 総会議事承認の件	承認
5月22日(第2回)	第1号議案 代表理事(会長)、業務執行理事及び副会長選定の件	承認
7月30日(第3回)	第1号議案 会員入会承認の件 第2号議案 日本地球惑星科学連合大会記念行事開催資金設定の件 第3号議案 日本地球惑星科学連合大会記念行事開催資金取り扱い規則制定の件 第4号議案 基本財産積み増し検討の件 第5号議案 連合大会システム改修の件 第6号議案 連合大会の記念行事の開催の件 第7号議案 フェロー制度について 第8号議案 科学研究費補助金における国内出張旅費規則および外国出張旅費規則の改定の件 第9号議案 選挙管理委員会メンバー選任の件	承認 承認 承認 見送り 承認 承認 承認 承認 承認

4. 学協会における法人化の動向について

3. 関連団体との連携及び協力に関する事項

・共催・協賛・後援等

承認日	種別	会合名等	開催時期・会場
4月9日	協賛	第54回高圧討論会	2013年11月14日～16日 朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター
4月18日	後援	科学教育研究協議会・第60回全国研究大会・岩手大会	2013年8月2日～4日 専修大学北上高等学校
5月7日	協賛	日本地質学会第120年学術大会(仙台大会)巡検	2013年9月13日、14日、17日、18日 宮城県仙台市など13コース
5月16日	共催	Goldschmidt Conference 2016	2016年6月26日～7月1日 横浜国際平和会議場(パシフィコ横浜)
6月22日	協賛	女子中高生夏の学校 2013～科学・技術者のたまごたちへ～	2013年8月8日～10日 国立女性教育会館
7月29日	協賛	ハイパフォーマンスコンピューティングと計算科学シンポジウム(HPCS2013)	2014年1月7日～8日 学術総合センター一橋記念講堂
11月5日	共催	日本学術会議公開シンポジウム 増大する災害と地球環境問題に地球人間圏科学はどう取り組むか?	2013年12月5日 日本学術会議講堂
12月17日	後援	東京大学地震研究所 2013年度研究集会「地震の研究者と小・中・高等学校教員との連携ー地震教育の現状に即した知識普及活動を目指してー」	2013年12月～27日 東京大学地震研究所
12月19日	共催	SEDI2014 国際シンポジウム	2014年8月3日～8日 湘南国際村センター
12月26日	協賛	未来を拓く高圧力科学技術セミナーシリーズ(39)「高圧力と分光測定技術」	2014年3月26日 日本大学文理学部世田谷キャンパス内 コンピューターセンターオーバル・ホール
1月15日	協賛	第19回計算工学講演会	2014年6月11日～13日 広島国際会議場
1月16日	協賛	物構研サイエンスフェスタ 2013	2014年3月18日～19日 つくば国際会議場(エポカルつくば)
1月21日	後援	地震・自然災害のための測地学国際シンポジウム(GENAH2014)	2014年7月22日～26日 宮城県松島市 ホテル大観荘

・サポートレターの発行

なし

・声明文・談話の発表

なし

4. 登記、申請等に関する事項

申請先	申請日	完了日	内容
東京法務局	平成 25 年 9 月 19 日	申請結果待ち	「PEPS」商標登録 第 9 類 「電子出版物」 第 16 類 「印刷物」

5. 職員に関する事項

勤務形態	当期末 (平成 26 年 3 月末)	前期末比増減	備考
フルタイム	2 名	1 名	杉村 洋平
週 4 日勤務	2 名	1 名	浅田 智世 (ジャーナル担当)
週 2 日勤務	3 名	0 名	
週 1 日勤務	3 名	3 名	田村 寿恵 (ジャーナル担当) 内田 里香 (") 黒柳あずみ (")
合計	10 名	6 名	

6. その他

- ・平成25年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金）（研究成果公開促進費）の交付を受けた。
- ・ジャーナル出版部の事務所を東京都文京区弥生2-4-16学会センタービル5階に開設した。
- ・内閣府の指導により、特定費用準備資金「日本地球惑星科学連合大会記念行事開催資金」を1200万円計上し、その内、当年は300万円を取り崩し使用した。当初予定していた積み立て限度額の算定方法システム改修費用400万円のうちの一部を、印刷製本費（25周年記念パンフレット作成等）および委託費（フェローメダル製作費など）に変更したが、積み立て限度額、および活動の内容に変更はない。
- ・25周年記念行事開催事業の一環とし、今年度は、記念パンフレット作成、フェロー制度の設定し、2014年連合大会の会期中に記念式典を開催し、第1回フェロー表彰式・懇親会開催の準備を行った。また、大会システムの見直しを行い、必要なシステム増強および改修を行った。

- ・代議員選挙・セクションプレジデント選挙を以下の日程で行った。

代議員選挙公示	平成25年 8月 2日 (金)
代議員選挙立候補等受付開始	平成25年 8月13日 (火)
代議員選挙立候補等受付締切	平成25年 9月12日 (木)
代議員選挙投票開始	平成25年 9月26日 (木)
代議員選挙投票締切	平成25年 10月25日 (金)
代議員選挙開票、結果報告	平成25年 11月 1日 (金)

有権者総数 7759 名

投票総数 1683 名 (投票率23.3%)

代議員選出総数 98名

宇宙惑星科学 : 15名

大気水圏科学 : 19名

地球人間圏科学 : 13名

固体地球科学 : 30名

地球生命科学 : 10名 (定員と立候補者が同数のため、無投票で当選が決定)

地球惑星科学総合 : 11名

開票結果詳細は、日本地球惑星科学連合ホームページに掲載した。

<http://www.jpgu.org/news/2013daigiin-result.html>

セクションプレジデント選挙、公示	平成25年	11月 1日 (金)
セクションプレジデント選挙、候補者受付開始	平成25年	11月 5日 (火)
セクションプレジデント選挙、候補者受付締切	平成25年	11月15日 (金)
セクションプレジデント選挙、投票開始	平成25年	11月25日 (月)
セクションプレジデント選挙、投票締切	平成25年	12月16日 (月)
セクションプレジデント選挙、開票、結果報告	平成25年	12月20日 (金)

全てのセクションにおいて、それぞれ1名ずつ立候補・推薦があり、会員による投票をまたず、セクションプレジデントを決定した。

結果詳細は、日本地球惑星科学連合ホームページに掲載した。

<http://www.jpogu.org/news/131125sp-result.html>

2013 年代議員選挙選出代議員 (98 名)

■宇宙惑星科学セクション選出 15 名

小久保英一郎 (国立天文台)	橋 省吾 (北海道大学)
大村 善治 (京都大学)	永原 裕子 (東京大学)
草野 完也 (名古屋大学)	長妻 努 (情報通信研究機構)
倉本 圭 (北海道大学)	中村 正人 (宇宙航空研究開発機構)
小嶋 浩嗣 (京都大学)	横山 央明 (東京大学)
佐々木 晶 (大阪大学)	吉川 顕正 (九州大学)
関 華奈子 (名古屋大学)	渡邊誠一郎 (名古屋大学)
高橋 幸弘 (北海道大学)	

■大気水圏科学セクション選出 19 名

大手 信人 (東京大学)	田中 博 (筑波大学)
沖 理子 (宇宙航空研究開発機構)	谷口 真人 (総合地球環境学研究所)
蒲生 俊敬 (東京大学)	知北 和久 (北海道大学)
河宮 未知生 (海洋研究開発機構)	津田 敏隆 (京都大学)
北 和之 (茨城大学)	中島 映至 (東京大学)
近藤 豊 (東京大学)	原田 尚美 (海洋研究開発機構)
佐藤 薫 (東京大学)	日比谷 紀之 (東京大学)
杉田 倫明 (筑波大学)	村山 泰啓 (情報通信研究機構)
鈴木 啓助 (信州大学)	吉田 尚弘 (東京工業大学)
田中 賢治 (京都大学)	

■地球人間圏科学セクション選出 13 名

井田 仁康 (筑波大学)	七山 太 (産業技術総合研究所)
小口 高 (東京大学)	春山 成子 (三重大学)
奥村 晃史 (広島大学)	氷見山 幸夫 (北海道教育大学)
近藤 昭彦 (千葉大学)	松本 淳 (首都大学東京)
佐竹 健治 (東京大学)	安成 哲三 (総合地球環境学研究所)
島津 弘 (立正大学)	横山 祐典 (東京大学)
中村 俊夫 (名古屋大学)	

■固体地球科学セクション選出 30 名

井口 正人 (京都大学)	田中 聡 (海洋研究開発機構)
石渡 明 (東北大学)	田中 愛幸 (東京大学)
入船 徹男 (愛媛大学)	中川 光弘 (北海道大学)
岩森 光 (東京工業大学)	中田 節也 (東京大学)
ウォリス サイモン (名古屋大学)	中谷 正生 (東京大学)
歌田 久司 (東京大学)	中村 美千彦 (東北大学)
大久保 修平 (東京大学)	成瀬 元 (京都大学)
太田 雄策 (東北大学)	西村 卓也 (京都大学)

大谷 栄治	(東 北 大 学)	西山 忠男	(熊 本 大 学)
鍵 裕之	(東 京 大 学)	浜野 洋三	(海 洋 研 究 開 発 機 構)
加藤 愛太郎	(東 京 大 学)	深畑 幸俊	(京 都 大 学)
川勝 均	(東 京 大 学)	古村 孝志	(東 京 大 学)
木村 学	(東 京 大 学)	松澤 暢	(東 北 大 学)
木村 純一	(海 洋 研 究 開 発 機 構)	道林 克禎	(静 岡 大 学)
竹村 恵二	(京 都 大 学)	三井 雄太	(静 岡 大 学)

■地球生命科学セクション選出 10名

磯崎 行雄	(東 京 大 学)	川幡 穂高	(東 京 大 学)
井龍 康文	(東 北 大 学)	北村 晃寿	(静 岡 大 学)
遠藤 一佳	(東 京 大 学)	小林 憲正	(横 浜 国 立 大 学)
大河内 直彦	(海 洋 研 究 開 発 機 構)	高橋 嘉夫	(広 島 大 学)
掛川 武	(東 北 大 学)	西 弘嗣	(東 北 大 学)

■地球惑星科学総合選出 11名

横山 広美	(東 京 大 学)	畠山 正恒	(聖 光 学 院 中 学 高 等 学 校)
熊谷 英憲	(海 洋 研 究 開 発 機 構)	飯田 佑輔	(宇 宙 航 空 研 究 開 発 機 構)
宮嶋 敏	(埼 玉 県 立 深 谷 第 一 高 等 学 校)	瀧上 豊	(関 東 学 園 大 学)
矢島 道子	(東 京 医 科 歯 科 大 学)	阿部 國廣	(NPO 法 人 自 然 再 生 セ ン タ ー)
佐野 有司	(東 京 大 学)	片山 直美	(名 古 屋 女 子 大 学)
山本 高司	(川 崎 地 質 (株))		

2013年セクションプレジデント選挙結果

■宇宙惑星科学セクションプレジデント

佐々木 晶 (大 阪 大 学)

■大気水圏科学セクションプレジデント

中島 映至 (東 京 大 学)

■固体地球科学セクションプレジデント

大谷 栄治 (東 北 大 学)

■地球人間圏科学セクションプレジデント

氷見山 幸夫 (北 海 道 教 育 大 学)

■地球生命科学セクションプレジデント

小林 憲正 (横 浜 国 立 大 学)

・各規則・規程等の策定および改定を行った。

日本地球惑星科学連合大会記念行事開催資金取り扱い規則を策定した。

科学研究費補助金における国内出張旅費および外国出張旅費規則を改定した。

フェロー審査委員会規則を策定・改定をした。

法人運営基本規程を改定した。

法人運営基本規則を改定した。

代議員選挙規則を改定した。

代議員選挙実施細則を改定した。

セクションプレジデント選挙規則および実施細則を策定した。

Ⅱ. 会員の状況

(平成26年3月末)

会員種別	第1期末 (平成24年3月末)	第2期末 (平成25年3月末)	増減	第3期末 (平成25年12月末)
個人会員正会員	7139	7304	437	7741
個人会員準会員(学部生以下)	390	392	▲5	387
個人会員大会会員	631	634	▲274	360
団体会員	48	49	0	49
賛助会員	0	1	0	1



Ⅲ. 財務の状況 (別紙)

平成 26 年度 事業計画及び予算書（案）

v. 平成 26 年 2 月 1 日

自 平成 26 年 4 月 1 日

至 平成 27 年 3 月 31 日

青字	変更済み
赤字	要変更および未変更
黒字	変更なし、昨年のまま

公益社団法人日本地球惑星科学連合

〒113-0032 東京都文京区弥生 2-4-16 学会センタービル 4 階
電話：03-6914-2080 Fax：03-6914-2088

平成 26 年度 事 業 計 画 書

公益社団法人第 4 期（平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日）

平成 26 年（2014 年）度は、公益社団法人日本地球惑星科学連合（以下、「連合」という。）がこれまで推進してきた「我が国の地球惑星科学コミュニティーを代表し、国際連携および社会への情報発信、関連分野の研究発表および情報交換を行い、学術および科学技術の振興等に寄与することを目的とする活動」を一層推進する。特に、

- 1) 国際シンポジウムを含む日本地球惑星科学連合大会の更なる発展
- 2) 一般公開講座や高校生セッション等の開催や国際地学・地理オリンピック活動支援等を通しての、関連科学の一般への普及
- 3) 国の科学・技術政策，教育問題の検討や提言，キャリアパス支援活動等を通しての教育・キャリア支援
- 4) 連合ジャーナルの創刊準備

の活動を推進する。

ヨーロッパの地球惑星科学連合 (EGU)，アジア太平洋地球科学学会 (AOGS) および米国地球物理連合 (AGU) 等の組織との国際連携を一層強化して，地球惑星科学の更なる国際化の展開と発展を目指す。

また、2014 年連合大会は、合同大会（第 1 回 1990 年）から数えて 25 回目の節目の大会と位置づけて、記念行事をおこなう。

I. 事業の概要

1. 地球惑星科学に関わる研究発表会および国際会議等の開催

(1) 日本地球惑星科学連合 2014 年大会（連合大会）の開催

地球惑星科学に関する学理およびその応用に関する研究発表を通じて、地球惑星科学の進歩と普及を図ることを目的に、当該科学に関連する研究、教育に携わる、あるいは関心を持つ全ての人々を対象として、公開による学術大会を開催し、関連分野の研究発表と情報交換の場を設ける。特に、ポスター発表については昨年度に引き続き 3 分間の概要説明の時間を設けて発表者と聴衆の議論を深める。また、地球惑星科学に関連した研究教育機関、学協会、民間企業からの最新の情報や、各種プロジェクトの成果を大会参加者に紹介するための展示を設けるとともに、学術研究および教育に有益な、地球惑星科学関連書籍・機器・資料の展示を行う。今年では会場をパシフィコ横浜会議センターへ変更し、大会期間中に 25 周年記念行事の一環として、記念式典、フェロー表彰式を行う。

日本地球惑星連合 2014 年大会 (Japan Geoscience Union Meeting 2014)

会 期：2014 年 4 月 28 日(月)～5 月 2 日(金)

場 所：パシフィコ横浜会議センター (〒220-0012 横浜市西区みなとみらい 1-1-1)

大会委員長：大路 樹生 (名古屋大学博物館 学協会長会議議長)

主 催：公益社団法人日本地球惑星科学連合

後 援：43 団体

協 賛：日本サンゴ礁学会，日本大気電気学会，日本高圧力学会，日本天文学会

開催セッション数：

カテゴリー別	開催数	
U: ユニオンセッション	10	(*2)
O: パブリック	6	(*0)
P: 宇宙惑星科学	29	(*11)
A: 大気水圏科学	24	(*5)
H: 地球人間圏科学	26	(*8)
S: 固体地球科学	58	(*10)
B: 地球生命科学	9	(*2)
G: 教育アウトリーチ	5	(*1)
M: 学際・広領域	27	(*2)
計	194	(*41)

(* 国際セッション数 (内数))

発表論文数：4000 件 (前年実績による見込み数)

参加者数：6000 人 (前年実績による見込み数)

展示企画 (ブース数)：団体展示 (A28、B27)，書籍出版関連商品 (21)，大学インフォメーションパネル (16)，学協会エリア個別デスク (9)，パンフレットデスク展示 (2)

(2) 国際シンポジウム「JpGU International Symposium 2014」の開催

連合大会の国際化を推進するために、連合大会において英語を発言言語とする国際セッションを多数開催し、これを国際シンポジウムとして位置づけたプログラム編成を行なう。今年度は41件の国際セッションを予定している。

(3) 「高校生によるポスター発表」の開催

将来を担う高校生を対象に、授業や課外活動で行った地球惑星科学に関する研究や学習の成果を研究者に対して発表するための、連合大会期間中の祝日（4月29日）にポスター発表会を開催する。今年度は、前年度程度（67件）の発表を予定している。

(4) 地球惑星科学関連の一般公開プログラムの開催

一般市民を対象として、地球惑星科学に関連した研究成果の広報・普及活動を通して地球惑星科学の普及を図るために、連合大会会期中に「地球惑星科学トップセミナー」他を開催する。また、11月頃に「秋の公開講演会」を開催予定である。

■地球惑星科学トップセミナー

期 日：平成26年（2014年）4月29日（火）

主 催：広報普及委員会

内 容：

発表者名 確定次第掲載

■Special NASA Lecture

期 日：平成26年（2014年）4月29日（火）

主 催：広報普及委員会

内 容：

「Looking Down on the Earth: How Satellites Have Revolutionized Our Understanding of Our Home Planet」
Michael H. Freilich (NASA)

■防災教育－災害を乗り越えるために私達が子どもたちに教えること3

期 日：平成26年（2014年）4月29日（火）

主 催：教育問題検討委員会

内 容：

地震や大雨、火山噴火などによって、我国は未曾有の災害に見舞われ、防災教育の必要性が強く訴えられている。自然災害に備えて国民が学んでおかなければ事柄は、多くの分野に跨っており、従来、分野ごとに防災のための教育が行われてきた。本セッションは、そのような防災教育への様々な試みを分野横断的に取り上げ、包括的な防災教育の在り方を探る。2014年度大会では、複雑さを増してきている「都市災害」、巨大化が憂慮される「世界の自然災害」、ならびに地域防災教育の実例を取り上げる。また、2013年度の「災害急性期の医療」に引き続いて、医療分野から「災害復興期の医療－PTSDへの対応」を取り上げる。さらに、文部科学省の担当者を招いて、同省の防災教育についての取り組みについて講演を企画する。

防災教育実践例	上岡 法政（高知県教育委員会学校安全対策課）
都市災害・世界の自然災害	河田 恵昭（関西大学社会安全学部）
災害復興期における医療	高田 哲（神戸大学大学院保健学研究科）
他 文科省の防災教育計画 他	

■地球惑星科学系研究者のワークライフバランスとキャリア形成

期 日：2014年連合大会会期中

主 催：男女共同参画委員会

内 容：

社会のため、科学技術の発展のため、真理の追究のため、日々努力する科学者たちの日常を考え、昨年・一昨年に開催した「イクメンシンポ」の門戸を広げ、ライフワークバランスについて、我が国と他の国とを比較しながら、広く考える。有期雇用(ポストク)問題をはじめとする若手科学者達が抱えている問題についても議論を行う。

発表者名 確定次第掲載

■日本のジオパーク

期 日：平成26年（2014年）4月30日（水）

主 催：日本ジオパーク委員会

内 容：

日本のジオパークの活動の紹介に関する発表と、新規ジオパークの申請内容、および世界ジオパーク申請希望地域の申請内容に関する発表を行う。新規申請ジオパークの発表は、日本ジオパーク委員会の審査の一部である公開プレゼンテーションとして行う。

発表団体名 確定次第掲載

■日本地球惑星科学連合 秋の公開講演会

期 日：2014年11月（予定）

場 所：(未定)

主 催：広報普及委員会

内 容：(未定)

(5) 「スペシャルレクチャー」の開催

学部生や院生を主たる対象として、連合大会会期中の昼食時にスペシャルレクチャーをシリーズで開催する。5つのセクションの各分野の最新トピックスについて世界的第一人者を講師に迎えて、異分野の聴衆を対象とするわかりやすい内容の講演会を開催する。

期 日：2014年4月28日(月)～5月2日(金) 毎日昼 13:00～13:40 予定

場 所：連合大会会場

主 催：大会運営委員会

内 容：宇宙惑星科学セクション 選出中

大気水圏科学セクション Michael H. Freilich (NASA)

地球人間圏科学セクション Michael Garcia (Univ. of Hawaii)

固体地球科学セクション 選出中

地球生命科学セクション 選出中

(6) 関連集会の開催

地球惑星科学コミュニティーに共通する諸問題についての検討と関連情報の周知をサポートする目的として、各種集会・懇談会を開催する。今年度は連合大会会期中に全国地球惑星科学系専攻長・学科長懇談会を開催する。

■全国地球惑星科学系専攻長・学科長懇談会 (前年データ、今年開催の場合は掲載)

日 時：2013年5月19日(日) 17:30～ (2013年情報)

主 催：日本学術会議地球惑星科学委員会，日本地球惑星科学連合大学および大学院教育小委員会

内 容：全国の地球惑星科学系専攻長・学科長が一同に会し、地球惑星科学系大学の発展と大学院教育の在り方についての情報交換を行う。

2. 地球惑星科学に関わる研究成果の刊行および教育普及

我が国の地球惑星科学および関連科学の振興と普及を目的として、地球惑星科学に関する学理およびその応用に関する知識や情報の交換の促進を図るために、連合学術誌の創刊に向けた準備とともに、連合加盟学協会での出版事業の広報普及の支援を行う。

(1) 連合学術誌の創刊準備

地球惑星科学に関する研究の発展を目指し、国際的なコミュニティーへの情報発信を通じて地球惑星科学の学術への発展に貢献するために、電子版欧文学術誌(ジャーナル)の発行活動を引き続きおこなう。

連合新規ジャーナルオープン・アクセス(OA)電子ジャーナル創刊されたので、さらに国際情報発信力強化を行っていく。そのために、SPRINGER社には「Progress in Earth and Planetary Science」の広告などを行うよう要請する。また、日本学術振興会からの科学研究費補助金(研究成果公開促進費)を有効に活用して、趣旨にあうように幾つかの促進項目を推進する予定である。具体的には、①2014連合大会の多角的・統合的な成果の発表の中からコンビナー推薦の優秀発表への投稿依頼、②ジャーナル国際セッションによる旅費の支援と原稿依頼、③ジャーナル国際シンポジウムによる旅費の支援と原

稿依頼、④サイエンス・セクションからのジャーナル執筆以来などを行う。また、広く新ジャーナルの認知を得るために広報活動にも努める。特に、AGU、AOGS、IGUなどの国際会議へのブース出展やパンフレットへの広告掲載を行うなど新ジャーナルを広く周知する取組を行う。さらに、連合大会と連携した海外情報発信強化・引用促進のアピールサイトの準備をおこなう。

(2) 連合加盟学協会による学術誌出版の広報普及支援

海外で開催される国際学術大会で連合ブースを出展し、連合加盟学協会が出版する学術誌の展示等を行うなど、地球惑星科学および関連科学の学術出版物の広報普及に関する支援を行う。

国際学術発表会における展示：

開催日	開催場所	出展大会名
2014年7月28日-8月1日	日本、札幌	AOGS Annual Meeting
2014年12月15-19日	アメリカ、サンフランシスコ	AGU Fall Meeting

(3) ニュースレター誌「Japan Geoscience Letters (JGL)」の発行

連合の会員（個人・団体会員）および、科学館、博物館、高等学校教員、関連企業等の関係者や一般市民を対象として、地球惑星科学の研究成果の広報・普及を目的としてニュースレター誌「JGL」を年4号定期発行する。

発行部数 : 26,000~30,000部

配布先 : 会員（個人、団体）

国立国会図書館

科学館（日本科学未来館、日本科学技術館他）

博物館（国立科学博物館、神奈川県立生命の星・地球博物館他）

高等学校（東京都立戸山高等学校、千葉県立船橋高等学校、早稲田大学高等学院他）

関連企業（NPGネイチャーアジア・パシフィック、株式会社タイロス他）

(4) ウェブサイト、メールニュースを活用した広報・普及事業

連合の会員および一般市民を対象に、ウェブサイトや毎月発行のメールニュース等を通して、地球惑星科学に関連するニュース、国内外の学会・シンポジウム・研究集会・一般公開イベントや求人・公募等の情報を配信する。メールニュースの内容を一層充実させ、年間30本程度配信するほか、ウェブサイトを刷新して、会員および一般市民が地球惑星科学関連情報にアクセスしやすい環境を提供する。

(5) 連合大会における「学生優秀発表」の表彰

連合大会における学生優秀発表賞の表彰をセクション単位で実施する。2014年大会では、宇宙惑星科学、大気水圏科学、地球人間圏科学、固体地球科学、地球生命科学の全5セクションが実施を予定している。学生優秀発表賞のシステムの充実を図り、増強されたWEBシステムを利用して、制度の安定的な運営をめざす。

3. 国および社会一般からの諸要請に対応した地球惑星科学コミュニティーにおける意見集約とこれに基づく提言

地球惑星科学コミュニティーの意見を集約するとともに、日本学術会議を含む国および社会一般への諸要請への対応に関わる要請に対応するために、以下の活動を行う。

(1) 学協会長会議の開催

国内の地球惑星科学および関連分野の研究者を対象に、学協会長会議を年に2回開催して、地球惑星科学コミュニティーの意見集約を行うとともに、自然科学に関わる国内外の情勢についての情報交換を行う。連合理事会からの諮問、および学協会や日本学術会議から提案される重要な課題について議論し、意見集約と対外的情報発信を行う。

第1回学協会長会議

期日：2014年5月1日（木）13:00～14:00

場所：パシフィコ横浜会議センター（横浜市）

第2回学協会長会議

期日：2014年11月（予定）

場所：東京大学（東京都文京区）

(2) 地球惑星科学コミュニティーの意見集約

国および社会一般からの諸要請に基づき、地球惑星科学コミュニティーの意見集約と、コミュニティーへの情報伝達を行う。特に、日本学術会議が発出する声明を連合ウェブやメールニュース、関連メーリングリストを通じて地球惑星科学コミュニティーへの周知をサポートする。

4. 地球惑星科学に関わる外国学協会との連携と国際プロジェクトの推進

我が国の地球惑星科学コミュニティーを代表して、地球惑星科学の国際的な発展に寄与することを目的に、地球惑星科学に関する国際的な研究協力と交流活動の推進を図る。

(1) 地球惑星科学に関わる国際学協会との連携および協力

ヨーロッパの EGU、米国の AGU、ならびにアジアの AOGS 等の国際的な学協会と連携協力し、地球惑星科学に関わる国際会議等の企画、開催、国際的プロジェクトの推進等を行う。特に、2014年 AOGS 札幌大会開催の活動支援を行う。

また、8月に日本で開催される国際会議 SEDI（地球深部研究）への支援を行う。

開催日開催場所	大会名	国際学協会名
2014年4月27日-5月2日 オーストリア、ウィーン	EGU General Assembly 2014	European Geosciences Union

2014年7月28日-8月1日 日本, 札幌	AOGS Annual Meeting	Asia Oceania Geosciences Society
2014年8月3-8日 日本・神奈川	The 14th Symposium of SEDI	Study of the Earth's Deep Interior, a Committee of IUGG
2014年12月15-19日 アメリカ, サンフランシスコ	AGU Fall Meeting	American Geophysical Union

(2) 国際科学（地学・地理）オリンピック活動支援

高校生を対象に，地球惑星科学への認識を高めるとともに地球惑星科学の学習を促進と若年層による国際交流を深めることを目的に，国際科学（地学・地理）オリンピックの日本大会を連合の共催事業として行うほか，外国開催に関わる支援を行う。

第11回国際地理オリンピック（ポーランド大会）

期日：2014年8月12日～18日

場所：ポーランド・クラクフ

第8回国際地学オリンピック（アメリカ大会）

期日：2014年7月26日～8月5日

場所：アメリカ・バーモント

※第10回国際地学オリンピック（日本大会）の開催準備

期日：2016年8月（予定）

場所：日本・三重県

5. 地球惑星科学知見の社会還元

地球惑星科学の研究成果を統合的な形で社会へ還元し，科学的提言を発信する。

(1) 複合的自然災害への対応と科学的提言の発信

地球上で起こる自然科学現象の複合災害化に備え，地球惑星科学の総合的，かつ蓄積された研究成果を社会へ還元することを目的として，風水害，地震，火山，津波などの自然災害などの統合的な対策にむけた科学的提言を行う。

(2) 複合的自然災害リテラシーの普及

複合的自然災害に対して，国民の基礎知識を高め，突発的災害によるリスクを最小限することを目指し，自然災害に関する大量の情報の中から必要なものを探し，情報を加工して意思決定するための基礎的な知識や技能（複合的自然災害リテラシー）の普及を支援するための活動を行う。

6. 日本地球惑星科学連合ユニオンおよびセクション・サイエンスボード、委員会活動

広く国内外の地球惑星科学関連分野の研究者を対象に、地球惑星科学の推進と学術の推進振興をはかることを目的として、ユニオンサイエンスボードおよびセクション・サイエンスボード、並びに各委員会の活動を推進する。

(1) ユニオンサイエンスボードの活動

現在の5つの分野別セクション（宇宙惑星科学，大気海洋・環境科学，地球人間圏科学，固体地球科学，地球生命科学）に加え，それらを統一するユニオンサイエンスボードという新たな枠組みを設け，各々の分野の活動に加えて地球惑星科学全体を統合した活動を進める。

宇宙惑星科学セクション

(未提出)

大気水圏科学セクション

- ・連合大会及び AOGS において国際セッションに出席する海外研究者に旅費を支給しセッションを支援する。
- ・連合大会時にセクションボードメンバー及び代議員を招集しセクションボードミーティングを開催する。
- ・連合大会時に当該セクションに関する学生の発表を審査し、優秀な発表者に対して「学生優秀発表賞」を授与する。

連合大会及び AOGS において国際セッションに出席する海外研究者に旅費を支給し支援をおこなう。連合大会時にセクションボードメンバー及び代議員を招集しセクションボードミーティングを開催する。

地球人間圏科学セクション

- ・2014年4月28日～5月2日の連合大会の折に横浜パシフィコにてボードミーティングを開催する。
- ・連合大会におけるユニオンセッション、特に Future Earth セッション(U07)と環境・災害セッション(U08)に積極的に関わる。
- ・2014年7月28日～8月1日に札幌で開催される AOGS 大会に積極的に関わる。特に連合大会の Future Earth セッションと AOGS の Future Earth セッションのジョイントセッションとしての開催に鋭意取り組む。
- ・その他 Future Earth 計画と統合的防災・災害研究の推進および関連する一般市民向け活動や教育活動等にも積極的に取り組む。

固体地球科学セクション

本年度は、1. セクションの内部構造として、複数のフォーカスグループ (FG) の立ち上げを検討すること、2. セクションメンバーに役立つセクションのウェブサイトを構築すること、3. セクションの褒章制度を拡充することの3点を主要な課題とする。そのために、連合大会においてフォーカスグループの会合、セクションのビジネス会合を開催する。そこで、これら3課題について、議論をおこなう。連合大会では、固体地球科学のセクションの活性化特に国際セッションに海外から優れた研究者の招聘を行い、連合の国際セッションを海外に発信するとともに PEPS への著名論文の投稿を呼び掛ける。同時に、8月には、地球内部科学 FG の活動として、SEDI (地球深部研究) の国際会議を開催する。招聘研究者の PEPS への投稿を促進

する。固体地球セクションの褒章を検討し、新たな褒章を設けたい。

地球生命科学セクション

- ・ 2014年連合大会地球生命科学関連セッション（国際セッション含む）開催（4月～5月）
- ・ AOGS 札幌大会へのBGセッションプログラム関連への参加（7月）
- ・ EGU, AGU, AOGS Biogeosciences Section 等との更なる連携模索（海外からの招聘あるいは派遣事業を含む）
- ・ 地球生命科学分野の長期ビジョン策定に向けた議論の開始

(2) 各種委員会活動

各委員会では年間を通じて委員会を随時開催するとともに、担当理事を通じて理事会への活動報告を行い、意志疎通を強める。特に今年度は以下の委員会活動を推進する。

総務委員会

今年度実施される代議員及びセクションプレジデント選挙の円滑に関する準備を行う。公益社団法人の円滑な運営と体制強化のための、諸規則の整備や事務局員の増強等をはかる。

財務委員会

連合の運営基盤の強化のために、中長期的に学会運営に関して経理面の課題と対策を検討する。

広報普及委員会

連合の活動及び地球惑星科学分野での最新トピックスや学術会議の活動を迅速に伝えるためのWebシステム等の整備を検討する。また、以下の活動を予定している。

- ・ 2014年4月に横浜市文科観光局と連携してアウトリーチ企画を開催予定
- ・ 連合2014年大会でパブリックセッション「高校生によるポスター発表」及び「地球・惑星科学トップセミナー」、高校生・学部生向け企画「大学生・大学院生に地球惑星科学について聞いてみよう」を開催予定
- ・ 「地球・惑星科学トップセミナー」の映像を記録して動画配信予定
- ・ 2014年7月頃に広報普及委員会開催予定
- ・ 2014年11月頃に「日本地球惑星科学連合 2013年秋の公開講演会」を開催予定、映像を記録して動画配信予定
- ・ ニュースレター誌JGLを年間4号発行予定
- ・ メールニュース定期号を年間12号、臨時号を年間約10件程度配信予定
- ・ ウェブサイトを活用した広報・普及事業（公開講演会等の動画配信を含む）を行う予定
- ・ 英語版ウェブサイトの充実

環境・災害対応委員会

環境・災害問題に関する重要課題を調査し、緊急災害発生時の連合の対応方策を確立すると共に、連合大会においてセッション開催を提案する。

男女共同参画委員会・キャリア支援委員会

- ・2014 年合同大会の期間中にパブリックセッション「地球惑星科学系研究者のワークライフバランスとキャリア形成」および委員会を開催する。
- ・男女共同参画学協会連絡会の「提言・要望書ワーキンググループ」に参加し、2014 年 4 月頃に内閣府や文部科学省などの公的機関に提出予定である。
- ・JST の支援事業の「女子中高生夏の学校 2014」に参加予定である。企画立案にもコミットする予定である。
- ・キャリア支援委員会と連携して、第 5 回キャリアアンケートを実施する。

キャリア支援委員会

地球惑星科学関連分野の大学院生ならびにポストドクター研究員などのキャリア支援を進めるために、連合大会において大学等研究機関、一般企業等から講演者を招き「キャリアパス説明会」を開催する。また、「進路相談ブース」を設置し、進路についての相談と情報提供を行う。キャリアパスアンケートも継続して行う。

教育問題検討委員会

- ・JpGU2014 年度大会において、昨年度に引き続き「地学教育に関するシンポジウム」を開催する。また、パブリックセッションに採択された「防災教育－災害を乗り越えるために私達が子ども達に教えること 3」への協力を行う。
- ・「地球惑星科学の持続的発展をめざした教育の充実」に関するシンポジウム（9 月、京都大学生存圏研究所）」を連携開催する。
- ・次期学習指導要領の改訂に対応するための活動を昨年度から開始しており、その活動を継続して行う。
- ・地学オリンピックへの協力を引き続き行う。
- ・日本学術会議とも連携し、大学・大学院教育に関わる諸作業を平成 25 年度と同様に継続。
- ・JpGU での新規事業（教員免許状更新講習の開設）を提案するため、すでに同講習を実施している（公社）日本地震学会の講習の視察を行う。
- ・教育課程小委員会を通じて、改訂された学習指導要領に基づく地学に関する教育の支援と次期学習指導要領改訂に向けて科目設定の検討を行う。
- ・各都道府県教委に対して、地学教員の採用に関する要望書の提出を行う
- ・全国の地学教員の連携のために、HP やシンポジウムを通じた情報交換の場を設定。
- ・理数系学会教育問題連絡会と連携し、高等学校到達度テストへの対応に努める。
- ・GeoSciEd VII (7th Conference of the International Geoscience Education Organization (第 7 回国際地学教育会議) が 9 月 5～9 日にインドの University of Hyderabad にて開催予定であり、教育問題検討委員会に属する委員が参加を予定。

情報システム委員会

連合 Web システムの安定運用とユーザビリティの向上に向けたシステム改修について検討を行う。

大会運営委員会

連合大会の参加者増を目指し、満足度の高いプログラムや企画の充実にむけた方策を企画検討する。

国際学術委員会

AGU や AOGS 等の連携海外組織の大会にブースを出展し，本連合や加盟学協会の活動紹介を行う．

フェロー審査委員会

Ⅱ．平成 26 年度予算書（別紙）

男女共同参画委員会報告

2014年2月1日

小口千明（埼玉大）

【男女共同参画パブリックセッション準備状況】

- ・2014年合同大会の期間中にパブリックセッション「地球惑星科学系研究者のワークライフバランスとキャリア形成」を開催予定。
- ・主コンピーナ:若狭 幸(秋田大)、副コンピーナ:坂野井健、坂野井和代、小川佳子、小口千明
- ・趣旨:社会のため、科学技術の発展のため、真理の追究のため、日々努力する科学者たちの日常を考えるセッションです。昨年・一昨年に開催した「イクメンシンポ」の門戸を広げ、ライフワークバランスについて、我が国と他の国とを比較しながら、広く考えていきます。有期雇用(ポスドク)問題をはじめとする若手科学者達が抱えている問題についても議論したいと思えます。
- ・企画:話題提供者5名(キャリアアップ、イクメン、ワークライフ学専門家、ワークライフ実践中、外国人研究者(博士課程学生))の予定。
- ・若手育成に力を入れたいので、お近くの方々にぜひ宣伝していただきたい。セッション開催の予定日は4/29。

【「女子中高生夏の学校2014」への協力要請】

- ・「女子中高生夏の学校2014」の企画委員の推薦依頼あり。詳細は別添資料1を参照。
- ・ロールモデル集の原稿募集。お近くの方々にぜひお声かけをお願いしたい。要領は別添資料2を参照。

【男女共同参画学協会連絡会関連】

- ・「アンケート結果解析ワーキンググループ」にて要望内容を検討中(第1回WG:11/21、第2回WG:1/28)。要望事項は2012年11~12月に実施した大規模アンケートの解析結果を踏まえたもの(別添資料3参照)。今後の予定:
 - 2/12の第3回WGにて要望項目が文書化 → 連絡会MLで配信
 - 各学協会の理事会等で審議 → 3/19連絡会運営委員会にて「要望書(連絡会案)」の決定
 - 4月頃「要望書」を官公庁等に提出。
- ・連絡会シンポジウムが2012年10月7日に開催。宋 苑瑞(東京大)と小口が参加。2012年11~12月に実施された大規模アンケートの解析結果が報告書として配付された。
(http://annex.jsap.or.jp/renrakukai/doc_pdf/2013/3rd_enq/3rd_enq_report130918.pdf)
ポスター発表(別添資料4)では、キャリアパスアンケート結果(第1~3回)が注目された。

※ JpGU キャリアパスアンケートの毎年実施化に感謝いたします。

----- Original Message -----

Subject: 女子中高生夏の学校に関するご相談
Date: Wed, 29 Jan 2014 09:05:23 +0900
From: Tsutomu Nagatsuma <tnagatsu@nict.go.jp>
To: Chiaki T. OGUCHI <ogchiaki@mail.saitama-u.ac.jp>,
ksakanoi@komazawa-u.ac.jp

小口さま、坂野井さま

NICT の長妻です。お世話になっております。2013 年の女子中高生夏の学校では JpGU からポスター発表をエントリーしていただき、大変ありがとうございました。表題の件でご相談です。以前もちょっとお話をさせて頂きましたが、JpGU から女子中高生夏の学校に企画委員を出して頂くことは出来ないでしょうか？

2014 年度の夏の学校については、既に企画立案がスタートしております。2 月の中旬に JST の支援事業の応募が締切となるためです。もちろん、詳細な企画立案は 4 月以降になるとは思いますが、早い段階から情報収集をして、企画にコミットして頂けると良いと思います。お気づきと思いますが、これまで地球惑星系のコミットは他の分野に比べると決して多いとは言えず、限定的です。また、私自身も長いこと関わってきておりますが、そろそろ世代交代を図る時期かなと思っている次第です。

来年度は夏の学校 10 周年ということもあり、学生企画委員からのお願いもあって、私も企画委員として残留する予定ではありますが、それ以降は厳しいと思っております。2014 年度からご参加頂ければ、私もサポートすることは可能なので、是非 JpGU から本企画に協力して頂ける方をお出し頂けたらと思います。また、女子中高生夏の学校の活動は学協会連絡会の「女子中高生理系進路選択支援 WG」とも連動しておりますので、学協会連絡会の WG 活動に協力するという側面もあります。

是非、前向きにご検討頂けると幸いです。不明な点がございましたら、遠慮なくご質問頂けたらと思います。どうぞよろしくお願い致します。

--

Tsutomu Nagatsuma <tnagatsu@nict.go.jp>
Research Manager
National Institute of Information and Communications Technology
Applied Electromagnetic Research Institute
Space Weather and Environment Informatics Laboratory
4-2-1 Nukui-kita, Koganei 184-8795 JAPAN
TEL: 042-327-6095 FAX: 042-327-6163

事 務 連 絡
平成26年1月29日

女子中高生夏の学校2013
～科学・技術者のたまごたちへ～
関 係 者 様

女子中高生夏の学校2013
～科学・技術者のたまごたちへ～
実行委員長 長 妻 努

「女子中高生夏の学校2013」ロールモデル集の原稿について（依頼）

厳寒の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

昨年8月に開催いたしました「女子中高生夏の学校2013～科学・技術者のたまごたちへ～」につきましては、公私ともお忙しいところご協力を賜り、ありがとうございました。おかげさまで無事に3日間を終了することができました。

さて、女子中高生夏の学校2013実行委員会では、前回に引き続き、夏学関係者の皆様を夏学に参加した女子中高生の身近なロールモデルとして紹介したいと考えております。ご協力いただける方は、添付ファイルにて同送しました別紙の原稿用紙にご記入の上、国立女性教育会館事業課千装宛（メールアドレス chigira@nwec.jp）に電子メールにてお送りくださいますようお願いいたします。

なお、紙面の充実のため、原稿以外にもご本人の顔写真やご研究されているもの、お仕事の内容がわかる写真など、差し支えない範囲で添付していただければ幸いです。

原稿用紙にご記入いただく内容については、前回と同様のものを予定しております。当方にデータが残っておりますので、前回原稿をお出しいただいた方で、特に変更等がなく、そのデータを転用してもよい、という方がいらっしゃいましたら、その旨お知らせください。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、原稿は2月25日（火）までにご提出をお願いいたします。

【問い合わせ先】

独立行政法人 国立女性教育会館
事業課 千装・吉川
〒355-0292
埼玉県比企郡嵐山町菅谷728
電 話：0493-62-6724
FAX：0493-62-6720
E-mail：chigira@nwec.jp

----- Original Message -----

Subject: 【国立女性教育会館・2/25 締切】夏学ロールモデル集の原稿について(依頼)

Date: Thu, 30 Jan 2014 15:31:01 +0900

From: 千装 将志 <chigira@nwec.jp>

Organization: National Women's Education Center, Japan

To: 千装 将志 <chigira@nwec.jp>

CC: 山下 勝弘 <yamashita@nwec.jp>, 吉川 志帆 <shiho13@nwec.jp>

女子中高生夏の学校2013 関係者
企画委員、実行委員、学生TA、
実験・実習講師、ポスター展示・キャリア相談講師、等の皆様
(Bccにてお送りしております)

国立女性教育会館事業課の千装でございます。
昨年8月に開催いたしました「女子中高生夏の学校2013」では
公私ともお忙しいところ、ご協力を賜り、ありがとうございました。
おかげさまで無事に3日間を終了することができました。

さて、前回(平成24年度)に引き続き、今回も
夏学関係者の皆様を夏学に参加した女子中高生の
身近なロールモデルとして紹介したいと考えております。

ご協力いただける方は、別添の原稿用紙にご記入の上、
国立女性教育会館事業課千装宛(本メールアドレス)まで
ご返送くださいますようお願いいたします。

なお、差し支えなければ原稿以外にもご本人の顔写真や
ご研究されているもの、お仕事の内容がわかる写真などを
添付していただければ幸いです。

また、執筆内容については前回と同様のものを予定しております。
当方にデータが残っておりますので、前回原稿をお出し
いただいた方で、
特に変更等がなく、そのデータを転用してもよい、という方が
いらっしゃいましたら、その旨お知らせください。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、原稿のご提出は、

2月25日(火)までをお願いいたします。

編集作業の日程上、この日までにいただいた原稿を
ロールモデル集に掲載し、完成後、送付させていただきます。
発送は3月中を予定しています。

ロールモデル集は冊子にし、今年度参加した女子中高生129名と、
原稿をいただいた皆様に送付する予定です。

なお、昨年度作成したロールモデル集は、

<http://www.nwec.jp/jp/program/invite/2012/page03.html>

からご覧いただくことができます。参考にさせていただければ
と思います。

昨年度は33名の方から原稿をお寄せいただきました。
今回はそれ以上の方からを目標としたいと思います。
皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。

ご不明な点などございましたら、当方までお問い合わせ
ください。
よろしくをお願いいたします。

千装 将志

NWEC (National Women's Education Center, JAPAN)
独立行政法人
国立女性教育会館事業課
〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷 728
TEL:0493-62-6724(ダイヤルイン)
FAX:0493-62-6720
E-mail: chigira@nwec.jp

国立女性教育会館には、様々な施設があります。
研修・会議・スポーツに是非ご利用ください。
<http://www.nwec.jp/jp/use/>

「要望したい項目リスト (案)」 Draft

・・・・・・・・・・ (前文、今は省略 ただし RPD 等への謝意を記載) ・・・・・・・・・・

「女性研究者・技術者のポテンシャルを最大限に活用するために: 課題と要望」

平成 27 年度における「女性研究者の活躍促進」のために必要な施策として以下を要望いたします。
(背景・理由)

- ・我が国の女性研究者割合が国際的に見て極めて低い。職階が上がるにつれて、更に女性割合が少なくなる。
- ・科学技術と一体化したイノベーションには、多様性・創造性が重要だが、女性の参画が非効率とする先入観もあり、試行的・モデル的な取組による科学的検証が重要。現在、女性リーダーは限られるとともに、重要な拠点審査に女性委員が参画していない、あるいは、女性委員割合が極めて少ない (バリア・バイアス要因)。
- ・子育て期・介護期に離職や女性研究者のパフォーマンスの低下が見られるが、近年、社会的なサポート・システムが充実しつつあり、当該システムの利用拡大が重要。研究者同士の生活を支える同居支援ニーズも大きい。
- ・女性研究者がリーダーシップを発揮して、いきいきと活躍するためには、研究開発、マネジメント、意思決定プロセスへの参画等の経験が重要であり、研究資金力とワーク・ライフ・バランス環境と公平・公正・透明な業績評価は必須要因。
- ・女性研究者を支える研究支援者やリサーチ・アドミニストレーターや事務局等の貢献度を適切に評価し、女性研究者のみならず、関係者を総合的に包含したキャリアパス形成支援が重要。
- ・エビデンス・ベーストの効果的な施策づくりのためには、国際的な比較評価に耐え得る客観的・標準的なベンチマーク指標と科学的・統計的データベースに加え、国際的なネットワーキングが重要。

1. 女性リーダーの登用(採用と育成)

- (1) 女性リーダー・イノベーション拠点モデル事業の創設
- (2) 大学・独立行政法人等の高等教育機関・研究機関の上位職階における女性研究者比率の公開促進 (分野別・機関別)
- (3) 公平・透明・公正なテニュアトラック評価システム事業の推進 (インセンティブ付与・バイアスとバリアの可視化とそれらの周知徹底)
- (4) 女性リーダーを支える研究支援者等の貢献度の適切な評価とキャリア形成支援

2. ワーク・ライフ・バランス基盤の定着

- (1) WLB 室の設置 (育児・介護・WLB の企画・実施支援。インセンティブ付与、または、義務化)
- (2) 同居支援のための新規制度 (各種資金制度への上乗せ、特別研究員 Dual PD 制度の創設、同居支援ファンドの設立と受け入れ機関へのインセンティブ付与)

(3) 既存の「育児復帰支援制度」及び「子育て・介護等支援制度」の推進と拡充

3. グローバル・ネットワーキングの推進

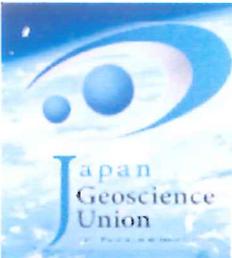
- (1) 国際データ比較
- (2) ロール・モデル・好事例の可視化と国際発信
- (3) 有効なメンター・ネットワーキング

4. 女子中高生の理系進路選択支援の推進・拡充

- (1) 女子中高生の理系進路選択支援事業の継続・推進（適正規模とマイルストーン）
- (2) スーパーサイエンス・パートナーシップ・プログラム等における女子参加割合の向上支援
- (3) 中学・高校における理系女性教員割合の拡充の推進及び女性教員比率の公開

5. 女性研究者・教員の割合の数値目標の設定とデータベース化（インセンティブ付与）

- (1) 機関ごとの学長・理事・研究教育評議会等の女性役員割合の数値目標設定と現状の公開
- (2) 機関ごとの教授・准教授・助教等の分野別数値目標の設定と現状の公開
- (3) 研究者統計のデータベース化、及び情報アクセスの向上（統計データは、すべて性別・分野別・職位別3要素をカバーした国際標準化）
- (4) 女性研究者の可視化と昇進隘路の要因分析



日本地球惑星科学連合

男・女・共・参

男女共同参画に関連する活動 2013.10

1. キャリア支援に関する活動

博士取得後の若手研究者の非正規雇用に関わる問題点、いわゆるホストク問題の突進把握および人材の育成や活用を議論する際の基礎データ把握のため、男女共同参画委員会およびキャリア支援委員会は2010年より合同で「**職域属性調査アンケート**」を実施。既に第3回を数える。

- ・期間：2013年度連合大会の申込時（2012年12月12日～2013年5月24日）
- ・方法：インターネット上で連合大会の登録申し込み時にアンケートページに移動して回答（任意、完全無記名）
- ・回答項目：18種類の職域属性の選択、性別、研究分野、年齢分布域の選択、博士取得年など
- ・回答者数：1388名（全会員の3分の1程度）

2. イクメンシンポを開催

イクメンプロジェクトと科学者のワーク・ライフ・バランス

開催日時：2013年5月19日(日) 14:15～16:00
 会場：藤沢メッセ2階 101A室

講演者：
 1) 14:15～14:20 4分以内
 2) 14:20～15:00 40分以内
 3) 15:00～15:45 45分以内
 4) 15:45～16:00 15分以内

講演題目：
 ① 14:15～14:20 若手研究者のキャリアパス
 ② 14:20～15:00 若手研究者のキャリアパス
 ③ 15:00～15:45 若手研究者のキャリアパス
 ④ 15:45～16:00 若手研究者のキャリアパス

連合大会期間中、男女共同参画委員会主催でイクメンプロジェクトに関するパブリックセッションを開催。イクメンプロジェクトを推進する専門家の方々による講演、イクメン真最中の会員による講演により、認識を深めることができた。本セッションへの男性科学者の聴講率は5割を超え、ワークライフバランスを男女共同参画の観点から考える良い機会となった。

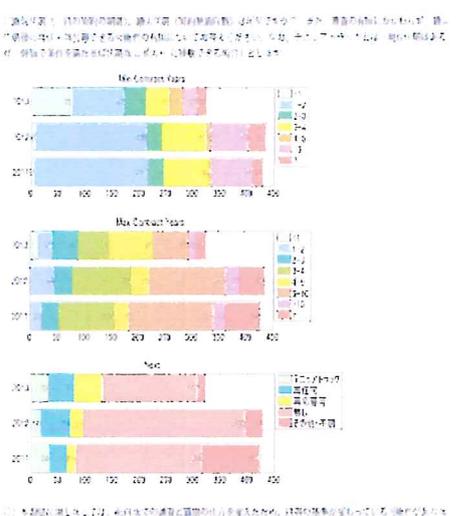
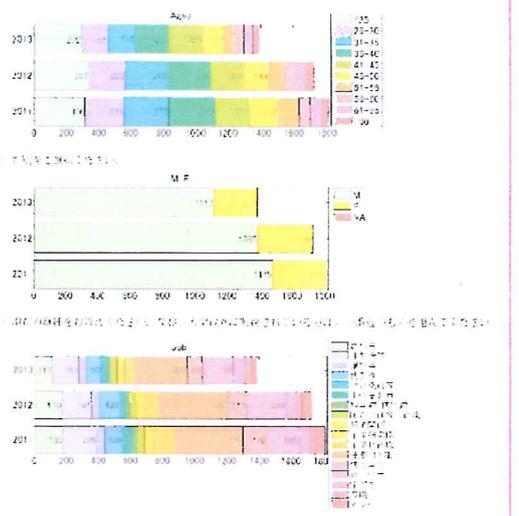
団体会員(48団体)

- | | |
|--------------|---------------|
| 日本宇宙生物科学会 | 日本第四紀学会 |
| 日本応用地質学会 | 日本地学教育学会 |
| 日本温泉科学会 | 地学団体研究会 |
| 日本海洋学会 | 日本地下水学会 |
| 日本火山学会 | 日本地球化学会 |
| 形の科学会 | 地球電磁気・地球惑星圏学会 |
| 日本活断層学会 | 日本地学連合 |
| 日本気象学会 | 日本地質学会 |
| 日本植物科学会 | 日本地熱学会 |
| 日本国際地圏学会 | 地理科学学会 |
| 日本古生物学会 | 日本地理学会 |
| 日本沙漠学会 | 日本地理教育学会 |
| 資源地質学会 | 地理教育研究会 |
| 日本地震学会 | 地理情報システム学会 |
| 日本情報地質学会 | 東京地学協会 |
| 日本水文科学会 | 東北地理学会 |
| 水文・水資源学会 | 土壌物理学会 |
| 生態工学会 | 日本粘土学会 |
| 生命の起原および進化学会 | 日本農業気象学会 |
| 石油技術協会 | 物理探査学会 |
| 日本雪氷学会 | 日本陸水学会 |
| 日本測地学会 | 陸水物理研究会 |
| 大気化学研究会 | 日本リモートセンシング学会 |
| 日本堆積学会 | 日本惑星科学会 |

第3回 JpGU キャリアパスアンケート結果速報

アンケート結果速報

アンケートページ: <http://www.master.jpgu.ac.jp/Sheet/ID=71153> (JpGU サイトからアクセス)



3. 各学協会の男女共同参画委員会活動 (抜粋)

- 日本地震学会** 学会内常設の男女共同参画推進委員会が、広く学会内から提案や問題点等を聞くための男女共同参画推進委員会メールアドレスの運営と、学会外部機関に対する男女共同参画にかかわる窓口としての任務を果たしている⁹⁾。秋季大会(2012年10月17-19日)において、各日2名×3日間(のべ6名)の託児室利用があり、11,541円を助成。
- 日本気象学会** 年に2回開催される春季・秋季大会期間中に、例年、参加者への保育支援(保育施設の紹介と利用料の補助など)を行っている。2012年春季(つくば)は問合せ・利用は無し。2012年秋季(札幌)は1件(子供人数と日数は不明)の利用があり利用料半額程度の補助⁹⁾。2012年度から気象学会に人材育成・男女共同参画委員会が設けられる。男女共同参画への取り組みについて在検討中。
- 生態工学会** 男女共同参画委員会参加とWGテーマ案を提出。男女共同参画係を含めた「次世代科学社会活性化委員会」があり、そこから新規WG「新規複合研究探索研究会」を提案。いずれ、これら新規研究テーマ創成の基盤となる研究会として、アイデアを出し合う場、勉強の場となるWGとしたい。また、多様性科学環境社会研究会としてなど、男女共同参画学協会から発信する研究会を目指す。活動方法は、賛同者らを募り、運営委員会日に、時間を作り研究会として運営したい。
- 惑星科学会** 毎年講演会でLOCより保育室補助の周知あり。2012年度は利用なし。



4. 「女子中高生夏の学校2013」に初参加



Dr.ナダレンジャー効果もあり、大変な盛り上がりであった。キャリア相談を兼ね、「地球惑星科学の方面に進学したいけれど…」と言って訪ねてくる学生もいた。

- <参考資料等>
- 1) http://www2.jpgu.org/career/answer_3rd.pdf
 - 2) http://www.jpgu.org/meeting_2013/files/2013ikumen_smp.pdf
 - 3) http://ikumen-project.jp/active/active_project.html
 - 4) http://www.zisin.jp/modules/pico/index.php?cat_id=204
 - 5) http://www.zisin.jp/modules/pico/index.php?cat_id=204
 - 6) <http://msj.visitors.jp/>

平成 25 年第六回理事会資料 別紙資料

日本地球惑星科学連合 25 周年パンフレット制作進捗状況

<本文原稿>

地球惑星科学とは	P.1
地球惑星科学のロードマップ	P.6
宇宙惑星科学セクション	P.8
大気水圏科学セクション	P.11
地球人間圏科学セクション	P.15
固体地球科学セクション	P.17
地球生命科学セクション	P.21
教育とアウトリーチ	P.24
連合大会の歴史	P.27

日本地球惑星科学連合とその役割

公益社団法人日本地球惑星科学連合(Japan Geoscience Union; JpGU)は、地球惑星科学およびその関連分野にかかわる研究者、学生、技術者、教育関係者、科学コミュニケーター、一般市民の方々からなる約 9,000 名の個人会員と地球惑星科学関連の 49 学協会を団体会員とする学術団体です。地球惑星科学は自然現象の理解という基礎科学的な側面と様々な環境問題や災害などに対応するための応用科学的側面を併せもっています。ここでは JpGU が推し進める2つの科学的側面を説明し、その後、JpGU の活動を説明します。

● 基礎科学的側面

地球惑星科学は、地球と太陽系全体を構成する要素によってつくられている自然体系を「地球惑星システム」として捉え、とくに地球の自然および社会体系の進化とダイナミクスを理解し、その将来予測を目指す総合的な学問領域です。さらに、生命の存在と進化について、その本質を理解することを目指しています。

地球惑星科学コミュニティーが解明しようとしている研究テーマは、以下のように多岐にわたっています。

- ・ 地球を太陽系の一惑星、太陽系を銀河内の一惑星系とみなし、生命が存在する地球の普遍性と特殊性をより客観的に理解し、さらに地球と生命の 40 億年以上にわたる共進化を理解すること。
- ・ 太陽活動の変動が地球周辺の宇宙環境や地球大気に及ぼす影響を理解すること。同時に、大気および海洋、陸水系における物質の運動と化学組成、さらに高層の電離圏や磁気圏とそれらの相互作用を理解すること。
- ・ 固体地球や惑星内部の進化・変動を統一的に理解すること。地震・火山噴火のような瞬間的活動から造山運動・マントル対流のような長期的活動まで、様々な時間・空間スケールにおいて地球惑星システムを解明すること。
- ・ 地球の表層部分で展開される人間の様々な活動と地球の相互作用を分析し、その情報を蓄積して、社会に開かれた研究基盤とすること。また、様々な階層からなる複雑系である地球惑星システムの変動を大規模計算を通じて理解し予測すること。

現在、これらをさらに統合し、地球史から人間生活までの時間スケール、太陽系から分子レベルまでの空間スケール、微生物から人間までの生物活動スケールを俯瞰した総合的な学問が誕生しつつあります。この新しい学問によって、地球惑星システムの挙動と進化を様々な時間スケールと空間スケールで記述し、さらに未来の状態を予測することが可能になるでしょう。
(ここに各学問分野の時間—空間スケールの図を一枚にして入れる)

地球惑星科学は、基礎研究、モデル研究ならびに継続的な観測調査とデータベース構築が基盤となっています。これらの研究の推進と並行して、地球を理解し人間社会のあり方を考える力を養う一貫した教育の振興にも積極的に取り組むことが重要です。

● 応用科学的側面

地球惑星科学は上記のように学問としての発展を目指すと同時に、以下の2つの社会的役割

を果たすべきだと考えています。

1 地球環境問題にアプローチし、これを解決する方向性についての発言を積極的に行うこと

太古から、人間は地球そのもの、あるいは惑星としての地球の運動などに依存して活動してきました。たとえば、時、暦、天体の位置関係に基づいた航法などは、古来、人間生活の基本となっています。鉱物資源や化石燃料などを通じて宇宙そして地球から恩恵を受けています。地球の状態を維持してきたのは太陽と地球内部システムからのエネルギーでした。しかし、近年、人間活動が自然に影響を及ぼすほどに大きくなってきています。地球は有限の小さな惑星です。現在、世界人口は 70 億人に達しており、2065 年には 100 億人を超えると予想されています。エネルギー、水、食料、資源の枯渇が問題になっていますし、それらの消費増大による環境負荷、地球生態系の変化など、地球は劇的な変動の最中に置かれています。私たちと地球はどこへ行くのか、誰もが深い関心を抱いていますが、その予測は簡単ではありません。それは、地球自体が様々な変動を内包し、さらに太陽からの影響も受けており、その複雑な地球システムの挙動がまだ十分に解明されていないからです。

地球温暖化に象徴される環境問題、地滑り・土砂災害、砂漠化や水不足など、人々の生存にかかわる出来事は、すべて惑星地球と人間の活動に起因しています。この人間活動を含む新たなシステムの将来について、私たちは学問的に責任ある発言をしていかなければなりません。

2 自然災害の規模を予測し、災害に備え、起きた災害にどのように対応すべきか発言していくこと

日本列島が面している海洋プレートの沈み込み帯は、巨大地震・津波や火山活動の源です。つまり、わが国は、地震や火山などの地球活動の最も活発な地域に位置しており、また地球上で最大の大陸と最大の海洋の境界という、地球環境を把握するうえできわめてユニークな場所にあるのです。反面、この事実は、私たちが常に自然災害と向き合わなければならない運命にあることも意味しています。その意味で、地球惑星科学の振興は、わが国の国益に直接つながっており、また、国際的な使命でもあるのです。2011 年に発生した東北地方太平洋沖地震津波は、まだ人類のもっている知識・経験が悲劇的災害に立ち向かうのに十分ではないことを教えてくれました。しかしながら、現時点では完全ではなくても、このような巨大地震・津波や火山噴火の再来周期や災害リスクの見積もりのもとになるデータを、将来はさらに多くの情報を私たちに提供してくれるのが地球惑星科学です。

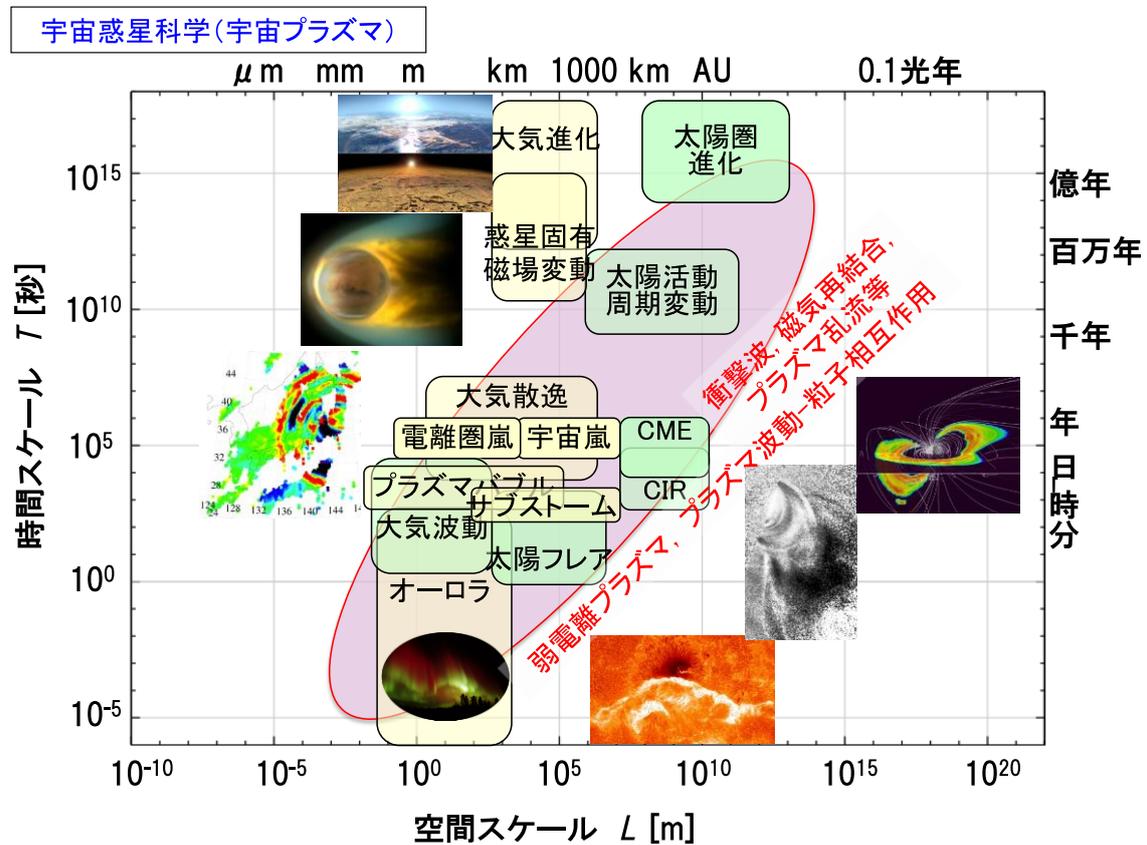
● 日本地球惑星科学連合の活動

日本地球惑星科学連合(JpGU)は 2011 年 12 月 1 日に公益社団法人となり、多岐にわたる地球惑星科学コミュニティにおける情報交換と意見集約を目的とした活動を行っています。学術活動の主体となるのは、次節以降で述べる「宇宙惑星科学」、「大気水圏科学」、「地球人間圏科学」、「固体地球科学」および「地球生命科学」の5つのセクションです。学術講演会(日本地球惑星科学連合大会)を毎年春に開催し、また、ニュースレター誌発行をはじめ様々な広報普及活動を行っています。さらに、JpGU の重要な公益活動のひとつとして 2014

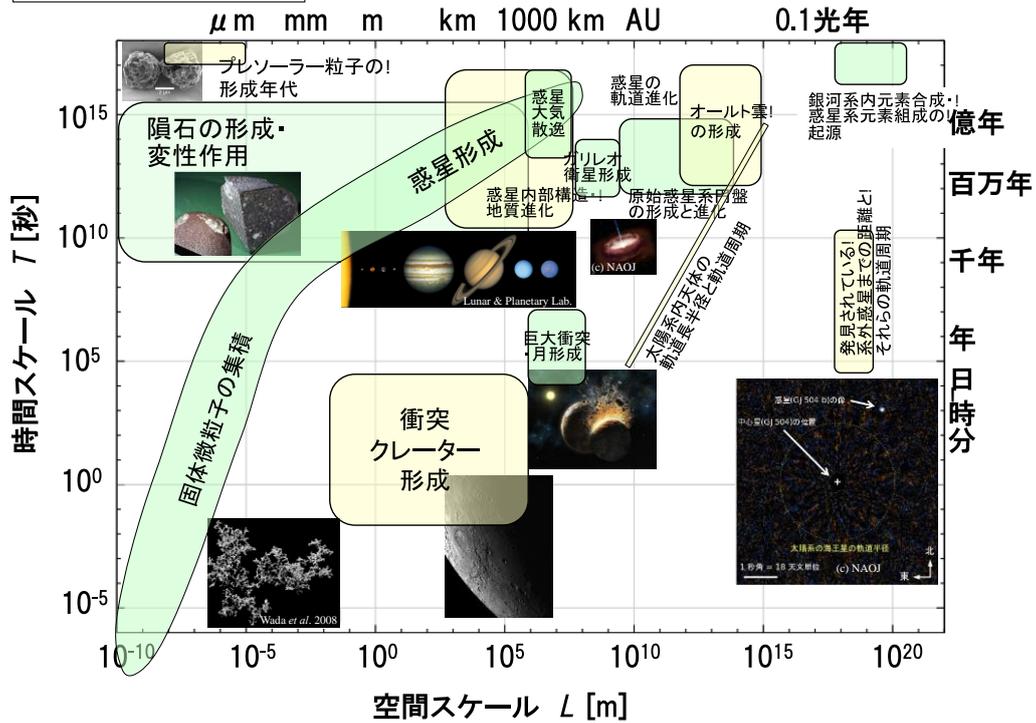
年に独自の open access E-journal として Progress in Earth and Planetary Science (PEPS)を発刊しました。

地球惑星科学は、人類の持続的な繁栄に貢献する知恵を提供するうえで必要であり不可欠な分野です。地球惑星科学は、生命を含む地球惑星システムを俯瞰した壮大な自然観を構築するとともに、人間社会からの視点として人文・社会科学を包含した新しいパラダイムを構築して、私たちが直面する課題の解決に貢献します。このために日本の地球惑星科学コミュニティは、研究と教育に関して新たな挑戦を継続する必要があります。また、地球惑星科学のメッセージを社会へ発信し続ける責務があると考えています。日本地球惑星科学連合は、このコミュニティを代表し、国際連携、社会への情報発信、関連分野の研究活動と情報交換の促進などを通じて、地球惑星科学全体の振興と普及に寄与することを目的として活動を行っています。加盟学協会との共存共栄を基本に、わが国の地球惑星科学を活性化し、将来的にはアジア・オセアニアを拠点とするひとつの基軸になることを目指しています。

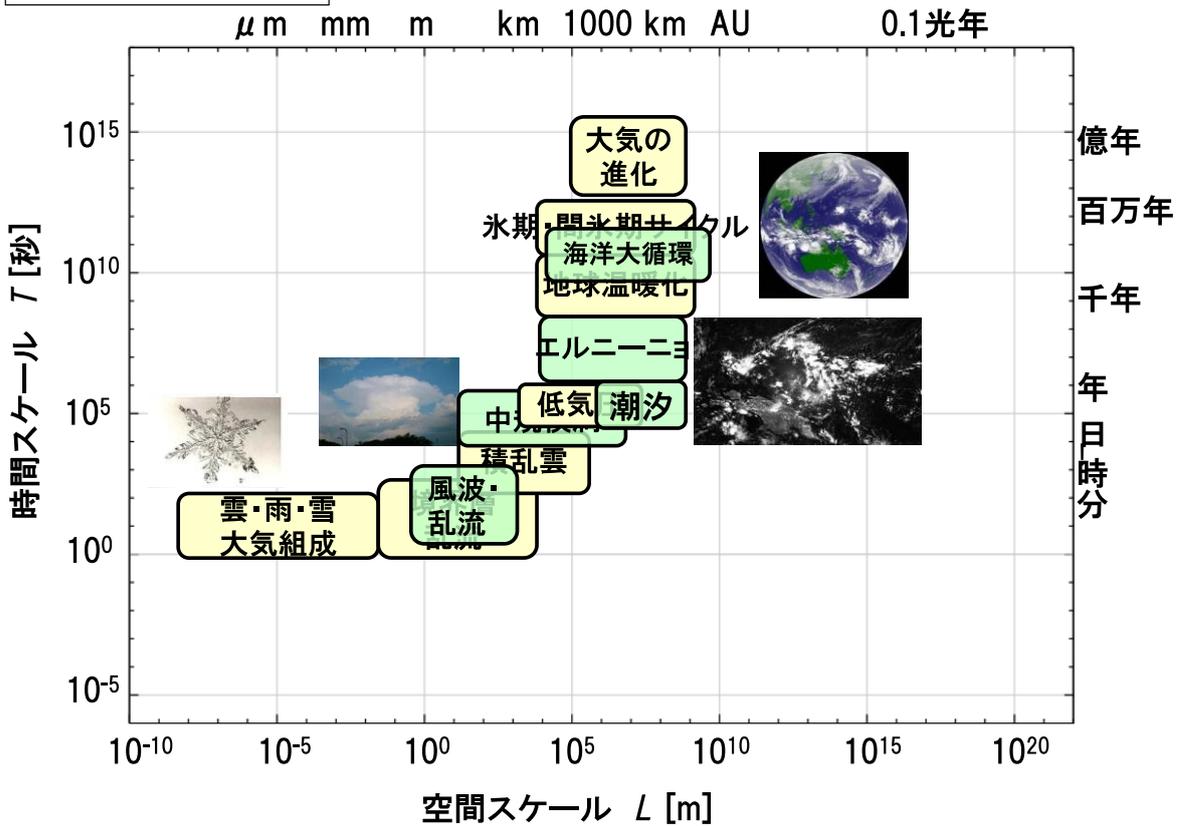
(3050字)



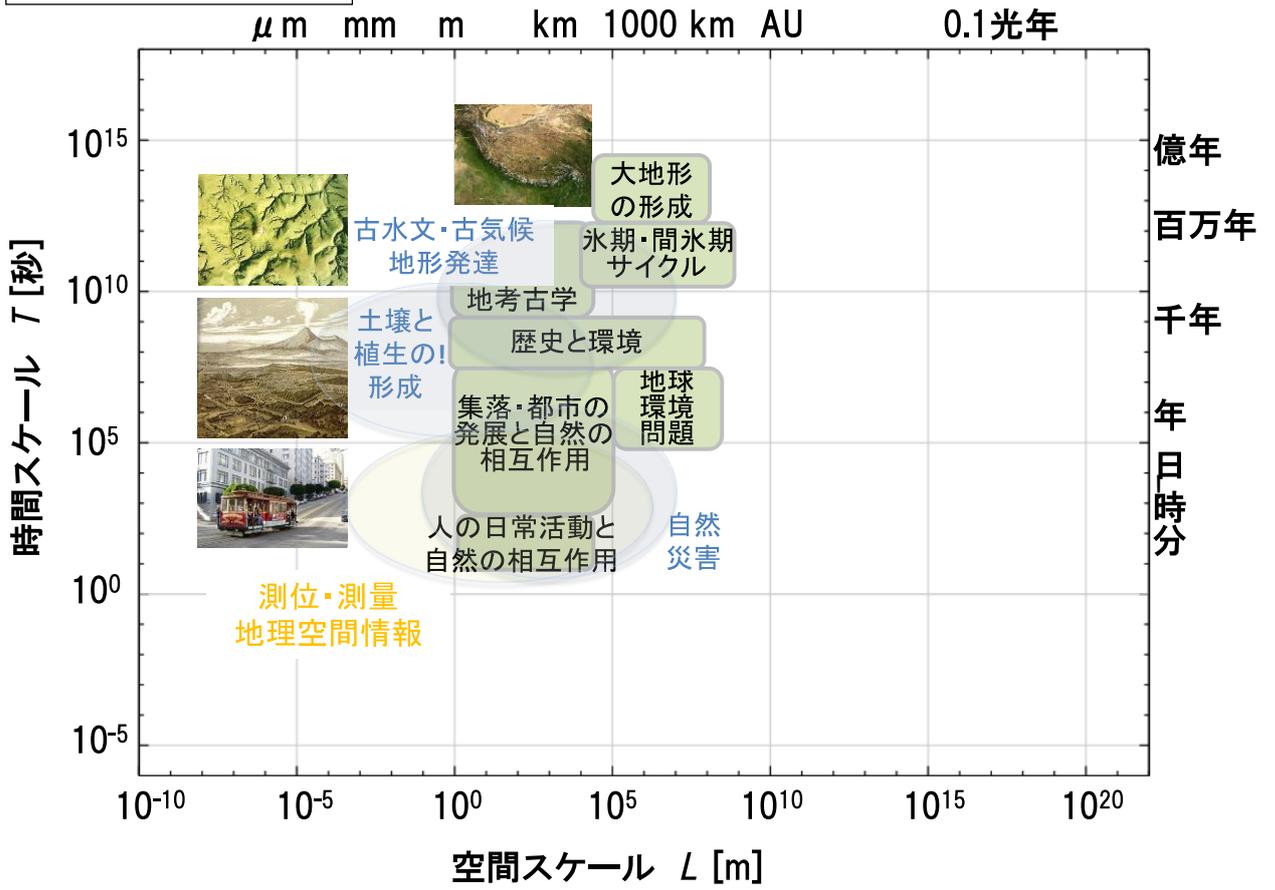
宇宙惑星科学(惑星)



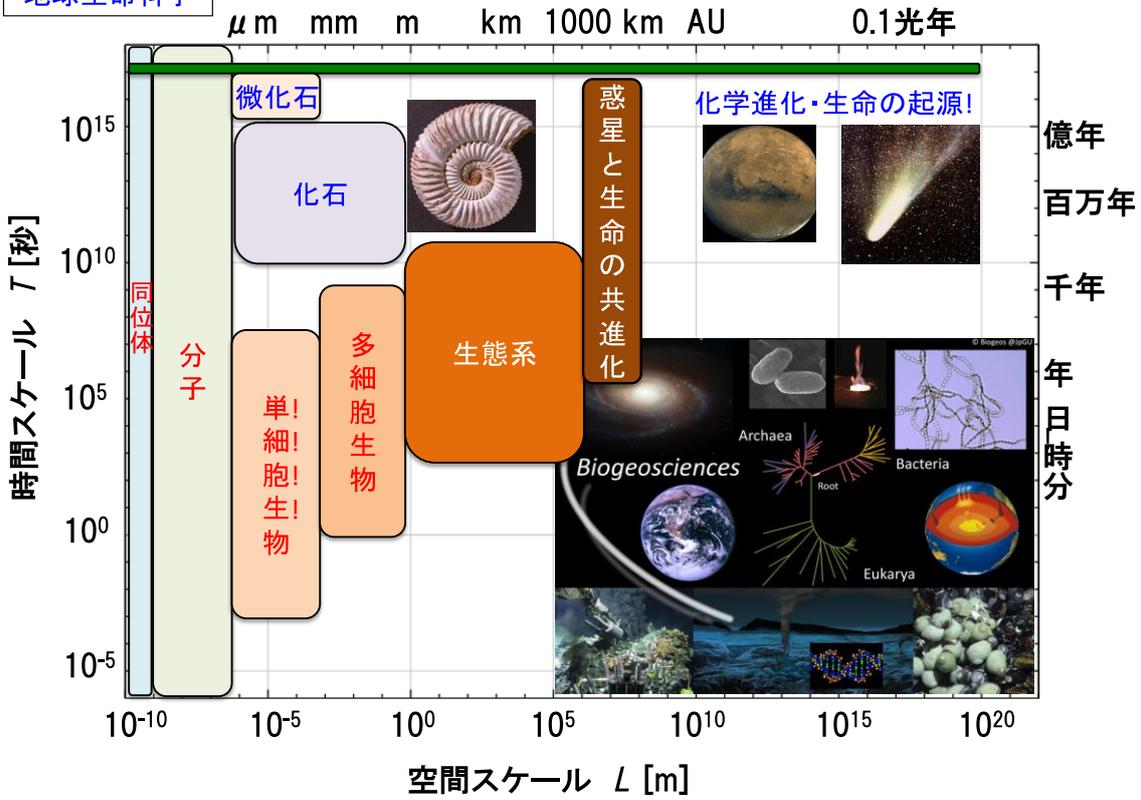
大気水圏科学



地球人間圏科学



地球生命科学



地球惑星科学のロードマップ

前節で述べたように、地球惑星科学は基礎科学的側面と応用科学的側面を併せもっています。基礎科学的な地球惑星科学は太陽系全般における固体、流体、気体、プラズマ、そこに芽生える生命の多様な形態、さらにそれらと人間の関係を研究の対象とする幅広い学問分野です。とくに、地球という惑星は私たちにとって身近な存在であり、この惑星の起源・進化・現在・未来についての研究を通して、太陽系の他の惑星、さらには系外の惑星系までを理解しようとする、野心的な学問分野でもあります。また、私たちが研究対象とする自然そのものは、人類の生存活動に密接に関わっており、応用科学的側面からは自然と人類の関係が将来どのように発展していくかという予測を行って、災害・地球環境問題を克服する一助とする義務を負っています。この2つをバランスよく発展させるためのロードマップを説明しましょう。

地球惑星科学ロードマップ



私たちがもっともよく理解している惑星地球の姿は、永久の昔からこうであったのではありません。地球には起源があり、今とは異なる姿をとりながら現在に至ったのです。こ

の地球にすむ私たちには、その歴史を調べ、さらには地球の未来の姿にも迫ることが必要です。そのために地球惑星科学の目指す方向は、

- まず宇宙に開いた地球像の創出を行います
地球は唯一無二であるかという問いに答え、
地球のもつ個性と普遍性、銀河史の中の地球史を理解します
- 次に、太陽系内および系外惑星の多様性を理解します
地球システムの全容の理解と社会への貢献を考え、
地球の起源・進化・現在・未来を理解します
さらに、惑星圏・表層環境・内部活動の変動機構の解明と高精度予測にアプローチし、
地球環境と人間活動との関係を解明、災害・地球環境問題の克服に尽くします
- 最終的には、生命を育む地球惑星環境の理解が必要になります
惑星環境と生命の共進化を理解し、
第二の地球・生命生存可能な惑星について考察します

この目標を達成するため、5つの学問分野がこれに関わり、協力し合っています。それらは

- 宇宙惑星科学
- 大気水圏科学
- 地球人間圏科学
- 固体地球科学
- 地球生命科学

と呼ばれています。これらの分野をあまねく理解することにより、上に述べた地球科学がバランスよく発展するのです。地球惑星科学の総合的な学会組織である日本地球惑星科学連合は、上記5つの科学に対応する5つのセクションから成り立っており、この図はそれぞれのセクションの将来ビジョンとそれらが協力し合っていくべきことを示すものです。

(1041字)

- 宇宙惑星科学セクションとは

宇宙惑星科学セクションの目標は、現在の太陽系のあり方を理解し、将来的には普遍的な星・惑星系の形成と進化の法則を理解することです。現在の太陽系とは、惑星の内部、表層、大気水圏、電離圏、磁気圏、また惑星に対して太陽から吹き付ける太陽風プラズマ環境、そして中心星である太陽そのものをさします。この知識が得られれば、太陽系における地球とそこにすむ生命の位置付けを時間を追って把握し、また、宇宙における私たちの太陽系自体の普遍性と特殊性を理解することができるのです。

- 関連分野の最近の進展

この学問分野は、他の地球科学分野と同様に、直接の観測が可能になった順序に合わせて発展してきました。固体地球表層の理解から始まり、地球を取り巻く電離圏・磁気圏の理解、地球内部の理解、太陽系空間に飛び立っていった探査機による地球以外の惑星と太陽系空間そのものの理解が、学問の発展を支えています。最近の画期的な進展としては、次々に行われた太陽系外惑星の発見があります。宇宙における惑星系の普遍性だけでなく、主星のすぐ近くを回る巨大惑星の発見などにより、私たちの太陽系とは大きく異なる惑星系の存在が明らかになりました。この新たな知識の上に、新しい汎惑星系形成論が組み立てられつつあります。その成果から、地球型生命の存在に不可欠な海をもつ惑星の存在も予測できるのです。

日本におけるこの分野の大きな進展は、惑星・小天体・惑星間空間探査が可能になりつつあることです。諸外国と同様に、日本でも宇宙空間における地球科学の観測は電離層・磁気圏の探査から始まり、宇宙空間からの太陽の観測が国際協力の下で行われるようになりました。太陽－地球環境の研究という面では、太陽から地球内部磁気圏へのエネルギー輸送、太陽フレア・サブストーム・磁気嵐など巨視的構造の時間変化、粒子加速過程、磁力線つなぎ換えによる太陽フレアや全地球的なオーロラの発生などを明らかにしつつあります。これらの成果は、諸外国と比べてもひけを取らないものです。

一方、惑星探査は、先進国である米国やロシア（旧ソビエト連邦）に 30 年以上の差をつけられていました。しかし 1980 年代には国際的なハレー彗星探査にヨーロッパ、ソビエト連邦とともに参加しました。さらに近年は、「はやぶさ」「かぐや」による固体惑星探査で宇宙惑星科学は新たな段階に入りました。「はやぶさ」による小惑星イトカワの探査では、衝突破片の再集積という小惑星モデルを実証し、月以外の太陽系天体の試料も獲得されたのです。アポロ以降の最大の月探査となった「かぐや」は、世界で初めて月全球の詳細画像や地形図、重力や放射性元素、磁場の正確な全球分布などのデータを取得し、今後

の月探査に大きく貢献するとともに、表側と裏側の性質が異なる月の二分性の起源やマントル組成に関する新たな知識ももたらしました。

さらに近い将来には、金星の大気運動を詳細に研究し、地球を含む惑星気象学を構築するために、金星探査機「あかつき」が2015年の金星周回軌道投入を目指して飛行中です。また、地球内部磁気圏での放射線帯高エネルギー粒子の生成・消滅機構を探るため、2015年には内部磁気圏探査衛星ERGの打ち上げが準備されています。そして炭素系の物質を主成分とする始原天体からのサンプルリターンを目指す「はやぶさ2」の打ち上げも間近に迫っています。

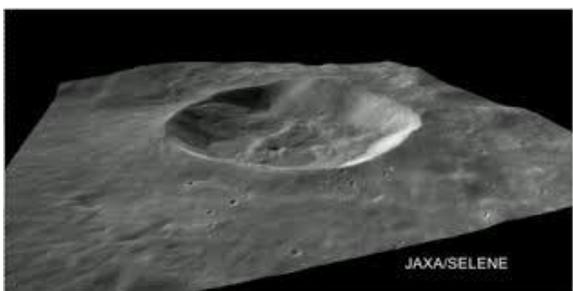
地球に目を向けると、多点ネットワークなどの地上観測や地球を周回する衛星群による電離圏、地球内部磁気圏研究の進展は目覚ましいものがあります。北極、中緯度および赤道に設置された大型レーダー、地磁気・光学・GPS・短波レーダー観測網と計算機実験・モデリングとの連携により、地球の磁気圏や電離圏の3次元的な描像がマイクロからマクロまで様々なスケールで得られるようになりました。電離層の観測では、日本の観測ロケットが電離層中での中性大気と電離気体の相互作用にアプローチしており、この研究は宇宙惑星科学と大気水圏科学を結ぶものとして、磁気圏—電離圏—大気圏をつなぐモデリングとともに重要な役割を果たしています。滋賀県信楽のMUレーダー、インドネシアの赤道大気レーダー、南極のPANSYレーダー、北極域のアイスキャット国際レーダー網も大気と電離層を結ぶ研究を加速しています。

これらの知見は、惑星大気変動機構の普遍的な理解に役立つだけでなく、地球を取り巻く宇宙の環境科学という新たな分野を形成していくでしょう。

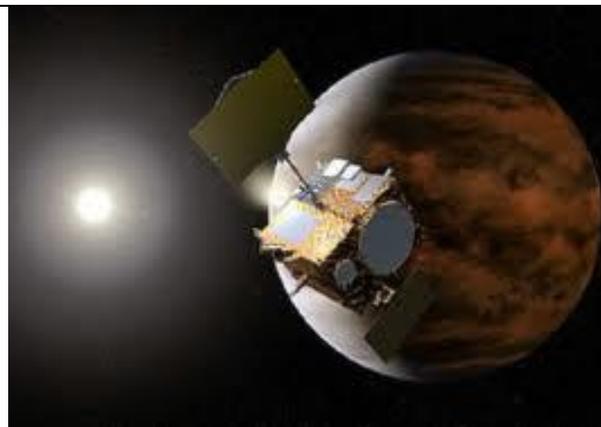
- セクションの研究の今後
- 惑星大気・磁気圏探査は、太陽系内の様々な惑星探査計画にまで進展し、惑星大気や磁気圏プラズマ物理の普遍性と特殊性の解明という次の課題に結びついています。
- 太陽系外惑星研究の進展は、宇宙における生命すなわち宇宙生物学(アストロバイオロジー)という、新たな科学の重要分野を切り開き、惑星科学・天文学のみならず、プラズマ物理、大気物理、大気—海洋相互作用、生命進化史など、より広い分野と連携しながら発展していくでしょう。
- 探査やサンプルリターンによって持ち帰られる宇宙物質の研究は、惑星形成論や天文観測との連携により、実証的な惑星系進化論に発展していくでしょう。また、それを支える室内実験の重要性も忘れてはなりません。

今後の宇宙惑星科学は、探査、分析、理論、計算機実験、室内実験といった多様な研究の相互作用により大きく進展することが期待されます。

(2 2 3 5 字)



“かぐや”による月面観測



金星探査機 “あかつき”



“はやぶさ” カプセル回収



恒星の近くを回る巨大ガス惑星（想像図）

- 大気水圏科学セクションとは

大気水圏科学セクションでは、地球の大気と海洋や陸域水圏からなる地球表層を対象とする科学を扱います。地球表層には人間と多数の生物が生息しており、そのなかで起こる物理・化学・生物にかかわる個々の過程と、各圏の相互作用についての研究は、学問としてだけではなく人間社会にとっても重要な研究分野です。

大気水圏科学は、他の地球惑星科学分野と同じように自然現象の理解という基礎科学的な側面と様々な環境問題や災害などに対応するための応用科学的側面を併せもっています。この両側面に関わる研究は、相互に影響し合いながら発展してきました。たとえば、大規模な自然災害をもたらす台風や集中豪雨は、社会のニーズに応える形で研究されてきましたが、それを正しく理解するには、対流現象や湿潤大気の物理学を発展させることが必要でした。

一方、水循環の研究は理学的な観点から研究されてきましたが、現在では水環境の悪化を懸念する社会からの「健全な水循環の形成という観点」での研究も求められるようになっていきます。

- 関連分野の最近の進展

現在の大気水圏科学は、研究領域をいっそう広げつつあります。社会のニーズにも支えられて、エアロゾルや大気化学、植生などの生態系や氷床を含む陸面の物理過程、海洋と大気の相互作用、海洋内部、人間活動も含めた地球温暖化現象や、炭素循環・窒素・熱循環、様々な汚染物質の輸送や蓄積の問題などが、重要なテーマとして急速に注目されてきました。私たちの理解が深まるにつれて、それら個々の現象は強い相互作用をもっていることが明らかになってきました。そこで、個々の現象の理解と予測のために、問題を「大気・水圏システム」を超えた「地球システム」として捉える研究が発展しつつあります。その意味では、理学と工学に加えて、人間圏と社会経済に関わる接点も重要になってきており、複数の圏にまたがる複合的な研究を推進する必要があります。

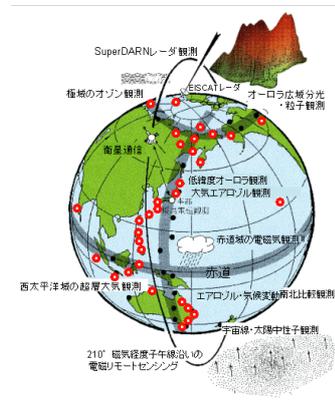
このような大気水圏科学の研究におけるわが国の現状は、世界的にみても高いレベルにあると言えます。その背景には、現象をマイクロからマクロまで切れ目なく捉えるための、広域の地上や海洋の現場観測網の整備と維持、高精度の大型地上測器や衛星観測の発展、同位体利用による過去から現在までの様々な現象の履歴情報の取得や年代解明などの寄与がありました。そして、その時空間的連関の定量理解のためのモデリングやデータ解析技術、さらに、それらを支える大規模計算機技術の発展も背景として重要です。

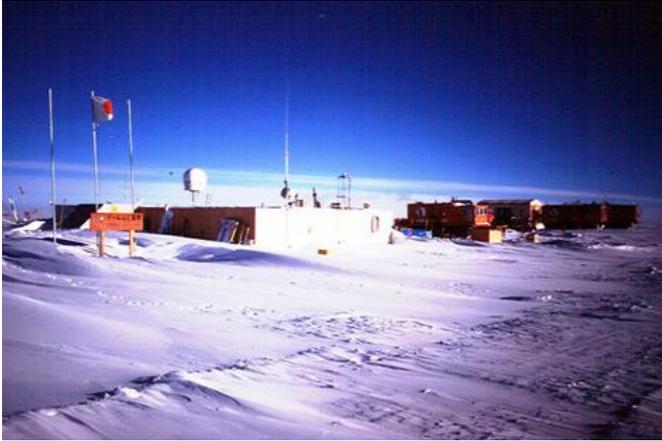
● セクションの研究の今後

今後は、広範囲にわたる高精度で密な持続的観測や観測結果をモデルに取り込むデータ解析をいっそう推進する必要があります。そのためには、気候・海洋・水文・生態系をきめ細かくモニターするための現場観測ネットワークの充実、地球観測衛星のさらなる整備が必要です。また、地域特有の現象の理解も重要です。とくにアジア地域は多様な環境条件下にあるので、そこで起こる現象が人間活動にも大きな影響を及ぼしているからです。

持続性社会の実現とその将来予測のために、大気水圏科学の担う役割がますます重要になることは世界的な研究動向と各国の支援体制を見ても明らかです。わが国では、「地球シミュレータ」や「京コンピュータ」を利用した温暖化現象の研究をはじめとする気候モデリングの発展が著しく、鉛直方向の加速度を考慮した超高解像度の全球非静力大気モデルのような、世界をリードする研究が生まれています。このようなわが国が得意とする計算科学・技術に根ざした大気水圏科学研究を、今後も大きく発展させていく必要があります。さらに、地球観測の結果とモデリングを結びつけて、社会にとって重要な情報発信を進める必要があります。

(1543 文字)





- 地球人間圏科学セクションとは

地球人間圏科学セクションは、地球表面の陸域と海域における自然現象、および自然と人間の活動が相互に関連しあって織りなす様々な事象の科学、つまり地球の営みと人との関わりを研究対象とする領域です。地球人間圏科学セクションは、この学際的な領域を発展させ、東日本大震災といった災害や温暖化などの地球環境問題の克服に貢献することを目指しています。

このセクションの特徴は、対象を自然科学、工学、人文・社会科学にまたがる広い視点と研究手法で捉え、地域的・空間的な観点を重視することです。それ故、現地調査、観測、測定、記録(地図化)、データや情報の蓄積・管理・分析、モデル化、予測、計画・政策策定、伝達・視覚化などの研究を重視します。自然という観点からこの領域を見ると、自然の成り立ちおよび人間環境に影響を与える自然現象が主要な課題となります。地球惑星科学の幅広い分野がこれに関わりますが、なかでも自然地理学、地形学、地質学、応用地質学、土壌学、堆積学、地震学、火山学、第四紀学、海洋学、水文学などが深く関わります。一方、人間社会の観点からは、人文科学・社会科学と強く結びついた人文地理学や人類学、考古学、歴史学、農学、工学などの分野が密接に関係します。それらは、自然災害や地球環境問題のメカニズムと危険性を総合的に理解し、対策を考える上で非常に重要な分野です。

- 関連分野の最近の進展

地球人間圏科学は、自然の成り立ちや環境の変化を、自然現象として理解するだけでなく、人間社会との関連を重視しながら、その原因、人間社会への影響、今後の予測や対応策など幅広い観点からそれに取り組めます。

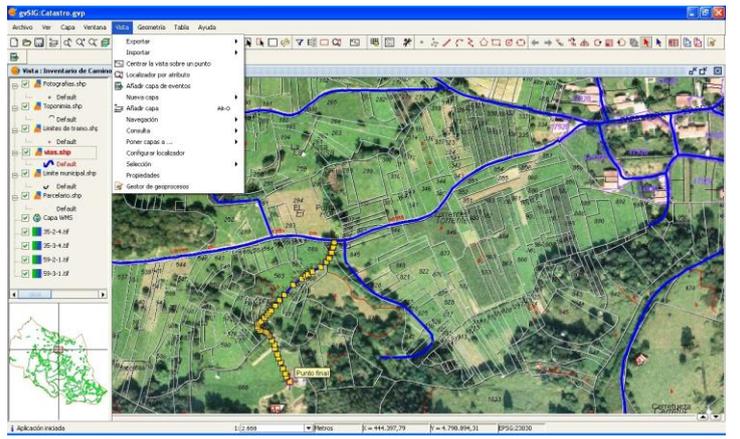
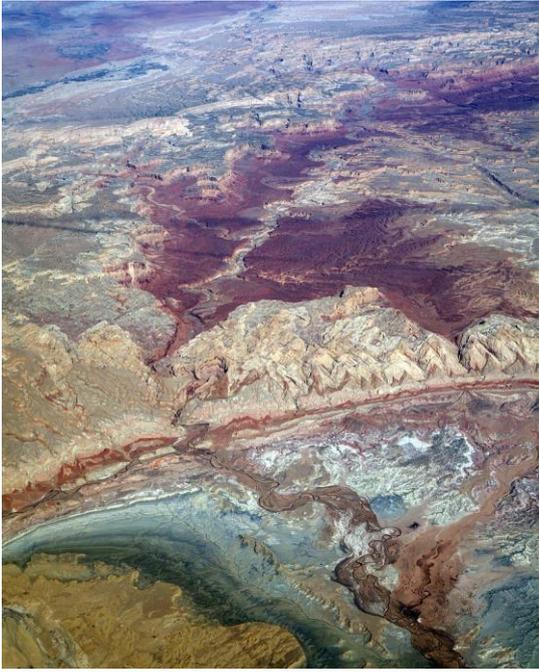
自然と人間との関わりについての理解は、近年大きく進んでいます。たとえば、海洋底や氷床から得られる記録の解読が進み、氷河時代、完新世、歴史時代の気候変動の比較ができるようになり、それと文明史との対応が研究されています。遺跡における液状化の証拠や津波堆積物の地質学・地形学的研究は、過去の地震や津波の規模・頻度を知る上で有効でした。災害研究では、理学、工学、人文・社会科学の連携が進み、新しい防災科学が発展しています。地震や豪雨で発生する地滑り、崩壊、土石流などのメカニズムも、GPSを用いた観測網の整備などによって理解が進み、一部では土砂災害警戒情報の発信に結びつきました。社会科学分野では、災害現場での地域の情報基盤や社会組織と災害との関係の解明、国土形成と土地利用の計画論的な研究、リスク評価などの研究が大きく進展しています。地下水調査や地下水汚染管理の手法、石油・天然ガスの探査・開発の手法も進み、海底鉱物資源の探査・開発は新しい局面を迎えています。さらに、太陽光、風力、波力、地熱などの再生可能エネルギーの研究開発も進展しています。

● セクションの研究の今後

世界には地球環境問題、大規模自然災害、土地問題、資源問題、食糧問題など、地球人間圏科学の取り組みが強く求められている喫緊の課題が山積しています。地球人間圏科学セクションは、それらの問題を真に理解し解決するために努力している多くの分野の研究者たちと協働して相互の理解を深め、「社会のための科学」を率先して目指したいと考えています。そのために、地球人間圏科学を学際的領域としてよりいっそう深めるとともに、一般市民向けのシンポジウムや教育・学習支援活動などにも精力的に取り組んでいきます。とくに、地球環境変化に関する研究の新しい国際的枠組みである「フューチャー・アース(未来の地球)計画」や統合的防災・災害研究に積極的に取り組み、持続可能な世界の実現に向けて尽力したいと考えています。

私たちは、地球人間圏科学の英語表記を **Human Geoscience** としていますが、これが今、国際的に大きな注目を集めています。この日本発の新しい領域をフューチャー・アース計画の核のひとつとして、育てていく希望をもっています。

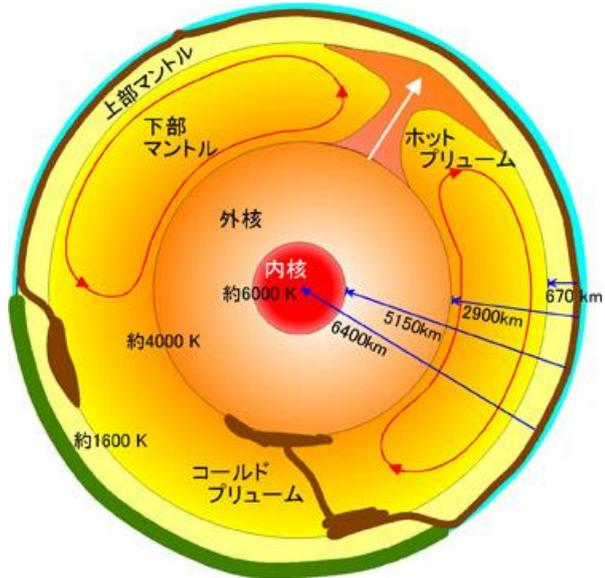
(1628 文字)



- 固体地球科学セクションとは

固体地球科学セクションは、地球の固体表面から中心核までの地球内部について、地球創成から現在に至る時間スケールで様々な現象を解き明かそうという研究領域です。固体地球科学が扱う具体的内容は、地殻から上部マントルまでの相対的に浅い地球内部で起こる、時間スケールの短い地震・津波・火山噴火・地殻変動などの現象、時間スケールの長い地形形成、造山運動、大陸・海洋の離合・集散・進化などの現象です。さらに、それらを支配する表層流体圏や地球深部との相互作用を含む物質・エネルギーの流れです。

一方、地球深部のダイナミクス研究が扱う内容は、超高温・超高压におけるマントル・中心核の物質とその物性・状態、マントル対流と地球ダイナモ、その表層への現れである種々の現象との関連、それらを包括した固体地球の進化です。このように、固体地球科学セクションは、固体としての地球を対象とする非常に広範な分野をカバーしています。



- 関連分野の最近の進展

比較的浅い地球内部の現象に関する最近10年ほどの進展は、次のようなものです。

- ① 地震研究では、稠密（ちゅうみつ）な地震・GPS測地観測網の配置、観測情報処理システム・方法の発展整備、実験・モデル研究の発展によって、新しい展開がもたらされました。とくに低周波微動・地震・地殻変動など収束プレート境界域の理解が進展しましたが、後で述べるように、地震の長期予測にはまだ大きな困難があることが明らかになりました。
- ② 火山研究では、噴火の噴煙柱ダイナミクスの3次元モデル、噴火直後の火道掘削によるマグマの発泡と噴火様式の関係の解明、火山地震観測に基づく噴火予測などで顕著な進展がみられました。
- ③ 物質・エネルギーの流れに関わる研究では、大陸物質や水のマントル深部への大規模な移動と地球内部からの上昇についての理解、マグマ生成への海洋地殻成分の寄与についての理解、物質循環における熱水活動の役割についての理解、深海掘削による付加体成長の定量的解明、陸上に露出した地震発生帯の研究などに前進がありました。
- ④ 表層流体圏との相互作用に関わる研究では、ヒマラヤの隆起とアジアモンスーンの関連など乾燥・湿潤による地域的気候の激変、地球史における全球凍結・温室気候などの全球的環境変動と山脈形成・大陸海洋配置などのテクトニクス（岩石圏の動き）、そして物質循環との関係の研究が推進されています。

地球深部ダイナミクス研究の最新の重要な成果は以下の通りです。

- ① わが国の研究者によって、最下部マンツルの温度・圧力でポストペロブスカイト相が発見されるという、世界に誇るべき実験による発見がありました。

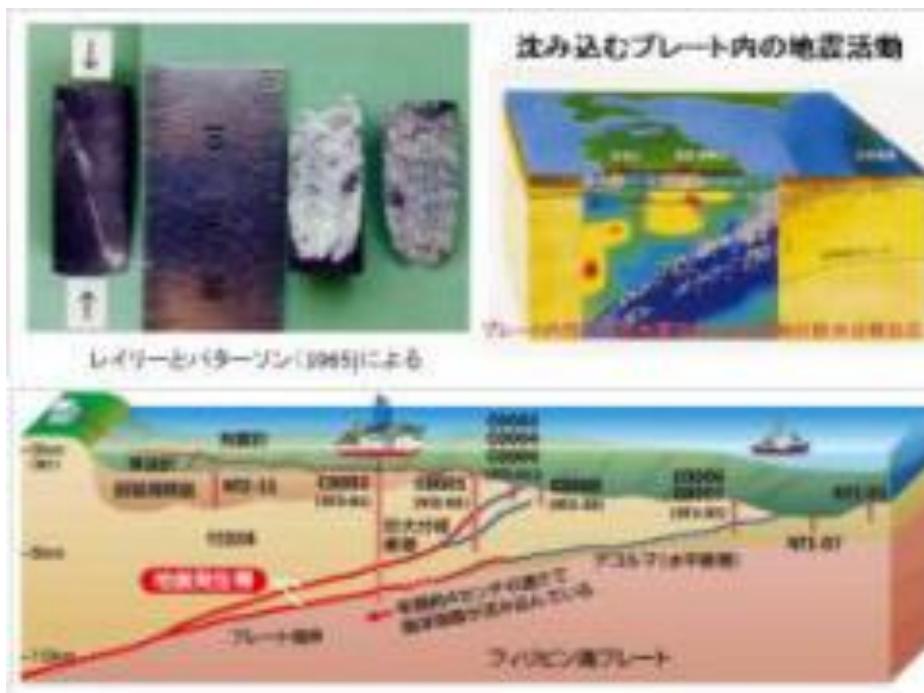


- ② マンツル遷移層が地球内部の最大の貯水庫であることが高圧実験によって指摘され、プレートの沈み込みに伴う水輸送、地球内部での大規模水循環と深部マンツルにおける水分布についての理解が深まりました。これらの新たな知見の背景として、
- ③ 地震波トモグラフィの発展により、地球内部の地震波速度構造の3次元不均質性が詳細に解明されてきたことがあげられます。
- ④ 初期地球の核形成が数千万年程度の短い時間のできごとであったことが明らかになったのも大きな成果です。

固体地球科学は、このように大きく発展してきましたが、2011年3月11日に発生した東日本大震災をもたらした巨大地震とそれに伴う大津波の事前予測と対策に大きな問題があることが明らかになりました。東日本大震災は、地震研究では、地震の長期予測から中期予測が不十分であり、現状では十分な精度で地震発生の予測ができないなど、その限界が明らかになりました。そして、地質学的な時間スケールでの地震・津波の記録を取り入れて災害を予測することの重要性や、海域での地震・津波観測網の整備と高精度の地震・津波情報の即時伝達システムの構築が必要であることも明らかになりました。

- セクションの研究の今後

前述のように、私たちは巨大地震とそれに伴う大津波の事前予測と対策に大きな問題があることを認識しています。固体地球科学に課せられた今後の重要な課題の1つは、この



問題に対して地震学的研究と地質学的研究の協働がより重要になることが明らかになったことです。また、近年、南海トラフ域や東北大地震の震源域での掘削によって、海溝型巨大地震源域の地震断層の実態

が初めて明らかになりつつあり、今後、この地震断層のすべりのメカニズムの解明が期待されています。また、日本の観測船によるマンテル掘削は、実現すべき国際協力の重要な計画になっています。

火山研究では、マグマ・流体の挙動が解明され、噴火シナリオに基づく噴火推移予測の精度を向上し、火山噴火の短期的・直前予知の実現が期待されています。また、これらの火山研究を長時間・広空間へ拡張し、地殻進化、地球内部の大規模物質エネルギー循環とダイナミクスを明らかにする研究が重要になるでしょう。テクトニクス・気候変動の相互作用、さらに生命進化をリンクさせる研究も、固体地球を超えた境界領域として今後促進すべき研究となっています。

今後の地球深部ダイナミクス研究では、最近の海洋底における地震学的、電磁気学的、測地学的観測技術の向上によって、地球内部の3次元的な特徴が明らかになり、地球核の条件を実現することが可能になった超高压物質科学や、量子力学の基本法則に立脚した電子状態理論を使って電子分布を決め、物質の諸性質を計算する第一原理計算などの理論的研究に基づく地球深部物質の物性解明と結び付けて、マンテルとコアのプロセスをより詳細に解明できるようになるでしょう。さらに、超高压下での液体、固体の流動現象の研究と強力な光源(X線、中性子線など)を結びつけたその場観察実験によって、極限条件での地球深部物質の理解が格段に進むことが期待されています。さらに、物理学から地球科学への新しい手法の提案として、ジオニュートリノやミューオンなどの素粒子を用いた固体地球観測は、地球内部の熱源の不均質性の観測、山体への透過性の変化に基づいた火山活

動のモニタリングなど、地球科学的に大きな意義のある観測手段に発展する可能性があります。

固体地球科学の研究で使われている手法の他領域への応用も期待されています。たとえば、惑星表面の分光解析や精密画像解析をはじめ、重力、熱流量、電気伝導度、地震波速度構造などの観測技術、化学分析技術は、宇宙惑星科学のサンプルリターンによる試料の分析に適用されるでしょう。超高圧物質研究は、木星型惑星や太陽系外惑星の内部構造やダイナミクスの研究へ広がるでしょう。最近可能となった重元素の安定同位体比の高精度分析は、地質試料へ適用することによって、古気候解析の精度を飛躍的に向上させ、それにより気候の将来予測の精度を向上できる可能性があります。また、ナノスケールの試料については、軽元素も含む広範な元素や分子の同位体の分析やバイオマーカー（生物地球化学の指標となる化合物）の分析の手法がさらに進み、地球や生命の進化のモデルに制約条件を与えることになるでしょう。

(2900 文字)

● 地球生命科学セクションとは

地球生命科学セクションは、地球とそこに生息する生物について、それらが地球の創成から現在に至るまで相互に関わり合いながら進化・変遷してきた過程を明らかにする研究領域です。生物については、なぜ地球に生命が繁栄しているのか、なぜ地球には多様な生物が生息しているのか、他の星ではどうなのかなど、生命の起源、複雑化、多様化に関する、あるいは絶滅に関する原因とプロセスの全てを解明することを目指しています。また、地層や岩石に理論的に存在する有機物について、その生物地球化学プロセス、岩石鉱物との相互作用などを明らかにします。生物起源のエネルギーである石油、石炭、天然ガス、ガスハイドレートなどの成因やその背景に関する研究も地球生命科学の重要な課題です。

「地球生命科学」は、地球科学、惑星科学、生物学など関連分野の研究の発展に伴って著しく進展してきました。たとえば、生命の起源や生物の初期進化の研究には、太古代地質学、地球化学、地球電磁気学、地球微生物学、掘削科学、そして宇宙・惑星科学の発展が不可欠でした。有機合成化学や遺伝子組み換えなどの手法が取り入れられ、実験によって生体物質の合成と進化の問題を解くことができるようになってきたことも、分野の進展を促しました。また、真核生物の進化の解明は、多くの分類群について全ゲノムの解析が行われてきたこと、代謝の分子機構が解明されたこと、そして熱水、冷湧水、嫌気水塊、超深海、地下圏などの極限環境に生きる原始的な生物の発見とその適応戦略の理解の進歩などにおいて重要な役割を果たしてきました。

● 関連分野の最近の進展

最近 10 年間に著しく研究が進んだことにより得られた成果は、以下のようなものです。

- ① 生命につながる有機物がどのように非生物的に作られて組織化されたかについて、「地球外からの寄与」の重要性が指摘され、また地球上の熱水環境における化学進化についてイオウ金属錯体を用いて酢酸塩が生成されることが検証されたこと
- ② 隕石・彗星有機物の分析などにより、地球外有機物と生命との関連が詳細に議論されるようになったこと
- ③ 極限環境生物の研究や惑星探査により、火星・エウロパ・タイタン・エンセラダスなどが、生命が生存できる惑星・衛星である可能性が高まったこと
- ④ 地球上の生命の起源は地球表層における光合成生物ではなく、深海における

化学合成生物が有力な候補となりつつあること

- ⑤ 遺伝子の分子系統樹は、地球上の生物が、地球の黎明期にすでに真正細菌・古細菌・真核生物の3群に分かれたことを示したこと
- ⑥ 生命の初期進化の解明にも関わる新しい分野として、地下生物圏に関する研究が進展しつつあること
- ⑦ 地球上の生物の多様性が、固体地球を含む地球史上のイベントと相関していることが明らかになりつつあること
- ⑧ 地球史を通じて離合・集散を繰り返す大陸と海洋の分布、地球内部活動の活発化が地球表層部の環境に変化を与え、真核生物の絶滅と進化が起こったことが明らかにされつつあること

● セクションの研究の今後

今後この分野で中心となる課題には、以下のようなものがあります。

- ① 地球がいかにして生物の生存に適した惑星になったのかということも含めて生物の初期進化を解明し、生命の起源に迫ります。この先には、宇宙や惑星における有機化学/生命科学研究があります。たとえば、地球外に残る原始惑星環境(小惑星、彗星、エウロパ、エンセラダス、タイタンなど)から生命誕生過程の直接的な証拠を得るとともに、地球極限環境や地球外環境での新たな生物圏の検出を目指します。
- ② 地球生命史の全体について記録と記述を行い、どうして地球が多様な生物に満ちた星になったのかを明らかにします。進化解明の鍵となるモデル生物の全ゲノム解析も視野に入れておくべきです。
- ③ 地球と生物との元素や物質の分配を明らかにし、地球創成以来の物質循環の進化を、生物起源のエネルギー資源との関わりもふまえて明らかにします。

この分野は、深海探査、宇宙探査、地球深部掘削などによるフロンティア探査、新しい分析・実験装置、生命科学との連携による新しい科学の創出など、進展が目覚しく、将来、地球惑星科学の中核をなす分野のひとつになると期待されています。

(1756字)

Biogeosciences

Biology **Microbiology** **Ecology** **Astrobiology**

Chemistry **Modeling** **Genetics** **Paleontology**

Archaea **Bacteria** **Eukarya**

Sedimentology **Geology** **Drilling Sciences**

© Biogeos / JpGU

■教育とアウトリーチ活動

日本地球惑星科学連合では、教育問題検討委員会が中心となって、学校教育における地球惑星科学分野に関わる検討や活動を行っているほか、広報普及委員会が中心となって、地球惑星科学の啓蒙・普及のため、高校生や一般市民向けのアウトリーチ活動にも力を入れています。地球惑星科学を通じて科学リテラシーを育てていただき、地球惑星科学の研究成果が人類にどのように寄与し、社会生活にどのように関わっているかを理解していただきたいと考えています。

教育に関わる活動としては、小学校・中学校・高等学校の教育課程（カリキュラム）や教員養成、教員研修、大学・大学院の教育などについて検討しています。とりわけ、学習指導要領改定に伴う教育課程に対する提言や要望を取りまとめ、文部科学省へ提出することに力を注いでいます。

毎年春に開催されている日本地球惑星科学連合大会（連合大会）においては、「高校生のためのポスター発表」を開催しています。これは地球惑星科学に関係する高校生の日頃の研究活動をポスター形式で発表してもらおうというもので、8回目の開催となった連合2013年大会では、全国40の高校から67件の発表がありました。年々参加校も増え、毎年高いレベルの発表が行われています。さらに、NPO法人地学オリンピック日本委員会や国際地理オリンピック日本委員会と共催・協賛する形で、「国際地学オリンピック」および「国際地理オリンピック」や、それらの国内選抜大会の開催を積極的に推進しています。

また、教育関係者の共通理解を深めるために、地学教育に関するシンポジウムを毎年開催しているほか、理数系学会教育問題連絡会の一員として、数学・物理・化学・生物・地学という科目の枠を超えて、日本の理数系教育のレベル向上のための活動もしています。

学校教育を通じて地球惑星科学の基礎知識の教育と普及を図ることは、最も重要な課題です。自然災害の多い日本列島で生きながら、環境問題について考えられるようになるためには、児童・生徒だけではなく理科教員の教育が大切です。そのためには、現職教員の研修サポート、魅力的な教材の開発、新しい視点の普及書が必要です。また、大学教育の参照基準が発表されて教育目標が明確になりましたが、これを踏まえて小学校から大学につながる地球惑星科学の教育モデルを示すことも大きな課題です。さらに、大学における取得単位数の増加と教育実習期間の延長によって、理学系学生が教員免許を取得しない（できない）状況が生じていますが、これは将来的に理科教育のレベル低下を招く恐れがあるので、理数系学会教育問題連絡会を通じて、状況の改善に取り組む必要があります。

一方、一般市民を対象としたさまざまなアウトリーチ活動も行っています。たとえば、連合大会においては、一般市民の方々が参加しやすい週末や祭日に、一般公開プログラム（パブリックセッション）を企画しています。一般公開プログラムには無料で参加することができます。プログラムの内容は毎年変わりますが、「ジオパーク」や「地学教育」など、

その時々話題や社会情勢に関連したシンポジウムを企画しています。また、「地球惑星科学トップセミナー」と、前述の「高校生のためのポスター発表」を継続的に開催しています。このうち「地球惑星科学トップセミナー」は、3名の研究者に地球惑星科学の最先端の研究成果を分かりやすく解説してもらう公開講演会です。連合2013年大会からは、講演内容を動画ライブラリ化して、どなたでも視聴できるようにしました。

そのほかにも、連合大会において、高校生や大学生向けに「大学生・大学院生に地球惑星科学について聞いてみよう」という企画も行っており、大学院生たちが進路相談や質問に答えてくれる機会を提供しています。

大会以外の場においても、毎年秋に公開講演会を開催しており、動画の公開を行っているほか、サイエンスアゴラへの参加や、出前授業などへの講師派遣も行っています。また、東日本大震災の際には、日本科学未来館と連携して、地震や津波、放射能拡散に関するさまざまな質問に専門的な観点から答えるウェブ版Q&Aコーナーを開設しました。そのほか、公益法人日立環境財団と連携した環境サイエンスカフェの企画など、幅広い活動を行っています。

広報普及委員会が編集発行している『日本地球惑星科学連合ニュースレター (Japan Geoscience Letters)』誌では、毎回2~3件の最新トピックスを取り上げて、専門家の分かりやすい解説を掲載しているほか、地球惑星科学に関わる動向も紹介しています。地球惑星科学に関心のある一般市民の方々も無料で購読できるほか、日本科学未来館や博物館などでもご覧いただけます。

以上のように、日本地球惑星科学連合では地球惑星科学に関するさまざまな教育・アウトリーチ活動を行っています。今後は、ウェブを活用したさらなる広報普及活動の充実や、啓蒙・普及書の出版などにも取り組んでいきたいと考えています。



日本地球惑星科学連合の歴史

日本地球惑星科学連合の歴史は1990年に始まります。1980年代の様々な試みの結果、参加5学会が同じ時期に同じ場所で学会を開催する「地球惑星科学関連学会合同大会」を1990年5月に開催することができました。合同大会には1000名以上の参加者があり、合同大会の意義と必要性が広く認識されました。この結果、合同大会の毎年開催が複数の学会によって合意され、合同大会の開催準備と参加学会間の連絡調整を行う「地球惑星科学関連学会連絡会」が発足しました。

合同大会はその後、各大学が回り持ちで組織委員会を構成して毎年開催され、1996年大会では参加学会10学会、大会参加者も2000名を超えるまでに成長しました。しかし、大会規模の拡大と共に大きな会場を確保することが難しく、各大学が担当する組織委員会の負担が増大してきました。1998年の合同大会では、大学のキャンパスではなく、代々木のオリンピック記念青少年総合センターを会場として合同大会が開催され、また参加学会の固有のセッションをなくし、共通セッションを主体に行うことで、参加学会が合同で開催する「合同大会」から一歩すすめて、地球惑星科学分野全体としての大会を目指すことになりました。さらに2001年からは、常設の組織である「地球惑星科学合同大会運営機構」が、合同大会を継続的に組織、運営することになり、合同大会を運営する組織と学会間の連絡調整を行う組織が1つにまとまるという大きな進展がありました。運営機構が運営する合同大会は、その後2003年から会場を幕張メッセ国際会議場に移し、毎年5月に開催され、大会講演数、参加者も、毎年増加し続けています。

連合の設立の直接のきっかけは、日本学術会議の2005年10月の組織改編でした。これにより、それまでの学会単位での学術会議との対応ではなく、地質学、鉱物学、地球物理学、地理学をすべて含む広義の地球惑星科学分野が全体として、新しい学術会議に対応する必要が生じました。このため地球惑星科学全体の中心となる組織の必要性が高まり地球惑星科学に関わる学会間の連携を測るためのワーキンググループが作られ、ここでの議論を経て、2005年5月に開催された合同大会の際に、24学会が参加する「日本地球惑星科学連合」が誕生しました。連合設立以降、参加学会は着実に増加し、現在では関連学会49学会が参加する組織となっています。合同大会も連合大会と名前を変

え、参加者は着実に増加しています。2013年の大会では、開催セッション数は180件、発表論文数4000件、参加者数も7000名となっています。日本地球惑星連合は、その後法人組織の規定変更に伴い2009年から一般社団法人、2011年からは公益認定を受け、公益社団法人となりました。「日本地球惑星科学連合」は、地球物理学、地質学、鉱物学、地理学等に関する学会を網羅する、世界でも類を見ない総合的な連合組織として、今後も我が国における地球惑星科学コミュニティーの相互理解、意見集約や合意形成をはかると同時に、対外的な窓口組織として国や一般社会に対して提言や情報発信を行っていきます。

開催年

開催場所

大会委員長

参加学会

セッション数 シンポジウム 備考

開催年	開催場所	大会委員長	参加学会	セッション数	シンポジウム	備考
1990	地球惑星科学関連学会合同大会	(地震学会春季大会実行委員長) 石橋克彦	(参加学会 5)	44	1	地球惑星科学関連学会連絡会設立 国際地球物理金沢会議(1990 WPGM)開催
1991	地球惑星科学関連学会合同大会	(実行委員長) 石橋克彦	(参加学会 5)	50	3	
1992	地球惑星科学関連学会合同大会	(実行委員長) 住友 則彦	(参加学会 5) (シンポジウム共催学会 3)	46	4	
1993	地球惑星科学関連学会合同大会	(実行委員長) 石川 甲子郎	(参加学会 6) (シンポジウム共催学会 6)	47	7	
1994	地球惑星科学関連学会合同大会	青木 謙一郎	(参加学会 7) (シンポジウム共催学会 6)	55	8	
1995	地球惑星科学関連学会合同大会	長尾 勇	(参加学会 8) (シンポジウム共催学会 6)	51	8	
1996	地球惑星科学関連学会合同大会	山中高光	(参加学会 10) (シンポジウム共催学会 4)	62	8	
1997	地球惑星科学関連学会合同大会	小川 克郎	(参加学会 11) (シンポジウム共催学会 5)	60	8	
1998	地球惑星科学関連学会合同大会	オリビックセンター(LOC:東京大学) 河野長	(主催共催学会 15)	57	5	
1999	地球惑星科学関連学会合同大会	オリビックセンター(LOC:北海道) 大島村 英紀	(主催共催学会 16)	63	3	
2000	地球惑星科学関連学会合同大会	オリビックセンター(LOC:九州) 大学 柳 暉	(主催共催学会 17)	53	3	
2001	地球惑星科学関連学会合同大会	オリビックセンター 松浦 充宏	(主催共催学会 18)	88	8	合同大会運営機構設立
2002	地球惑星科学関連学会合同大会	オリビックセンター 木村 学	(主催共催学会 19)	86	6	
2003	地球惑星科学関連学会合同大会	清水 洋	(主催共催学会 19) (主催共催学会 20)	83	3	第23回国際測地学・地球物理学連合総会 (IUGG) 札幌にて開催
2004	地球惑星科学関連学会合同大会	平原 和朗	(後援学協会 5)	87	7	
2005	地球惑星科学関連学会合同大会	浜野 洋三	(共催・協賛学会 25) (後援学協会 8)	110	10	日本地球惑星科学連合設立
2006	日本地球惑星科学連合大会	津田 敏隆	(加盟学会 40) (加盟学会 4)(後援学協会 8)	109	9	
2007	日本地球惑星科学連合大会	津田 敏隆	(加盟学会 46) (協賛学会 4)(後援学協会 8)	134	14	
2008	日本地球惑星科学連合大会	岩上 直幹	(加盟学協会 47) (協賛学会 4)(後援学協会 8)	135	15	
2009	日本地球惑星科学連合大会	岩上 直幹	(学協会長懇談会 48) (協賛学協会 4)(後援学協会 7)	134	14	一般社団法人化
2010	日本地球惑星科学連合大会	平原 和朗	(協賛学協会 4)(後援学協会 7) (学協会 48)	167	17	
2011	日本地球惑星科学連合大会	矢ヶ崎 典隆	(協賛学協会 4)(後援学協会 7) (学協会 48)	147	15	公益社団法人化
2012	日本地球惑星科学連合大会	矢ヶ崎 典隆	(協賛学協会 4)(後援学協会 7) (学協会 48)	177	18	
2013	日本地球惑星科学連合大会	石渡 明	(学協会 49)	180	13	
2014	日本地球惑星科学連合大会	大野 樹生	(協賛学協会 4)(後援学協会 7) (学協会 49)	180	13	
2015	日本地球惑星科学連合大会		(学協会 49)	194	17	